



2012 Re:FUTURE

より輝く未来へ

2012 六ヶ所村勢要覧



Re:

リ・フューチャー

この色鮮やかな四季が輝く村は
私たちにとってのかけがえのない故郷。
父や母や祖父や祖母も愛した唯一無二の場所。

私たちの自慢はこの美しい村に
豊かな自然と多様なエネルギーが共存していること。
恵まれた環境が生み出す最先端の科学こそが
人類の未来を明るく照らしてくれるはずだから。

ここは人と人との交流するところ。
ここは世界の未来を見つめる場所。

Re:FUTURE-2012年

ここから新しい一歩が踏みだされる。

Re:FUTURE concept

Rokkasho Village, where we enjoy the four seasons as they change, is our home.
The village is our one and only hometown, loved by our parents and grandparents too.
We are proud that the picturesque village is home to abundant nature
and a wide variety of energy industries,
as we believe that cutting-edge scientific technology created
in this blessed environment will brighten the future of humankind.
In Rokkasho Village, people interact with each other, and look ahead to the future.
In 2012, we are taking a new step to realize our Re:FUTURE concept.

FUTURE

より輝く未来へ



Re:FUTUREとは

What is our Re:FUTURE concept?

Re:FUTUREとは今まで思い描いてきた村の将来像を、
複眼的視点でもう一度確認し、再認識してよりよい未来を目指していくという考えです。
六ヶ所村は、未来を見つめ直し、より輝く未来を目指し、歩んでいきたいと考えています。

Our Re:FUTURE concept is to review our vision for the village's future,
and reestablish this vision for a bright future.

Rokkasho Village is determined to shape our future for the betterment of society.



Six keys to the creation of a better future

「より輝く未来を創る」六つの鍵

私たちはRe:FUTUREを実現させるための六つの鍵として、「自然との共生」「伝統の重さ」「産業の育成」「安心できる生活」「教育の責任」「エネルギーの展望」を掲げ、これらをどう進めていくのか。それをもう一度じっくりと考えてみたいと思います。

To realize the Re:FUTURE concept, we have emphasized the following six elements: coexistence with nature; respect for tradition; development of industry; safe living; respect for education; and a vision in energy.


We intend to carry out another review as to how we should tackle the creation of a better future, giving consideration to these elements.



自然との共生



伝統の重さ



エネルギー
の展望

Re:FUTURE
への
六つの鍵



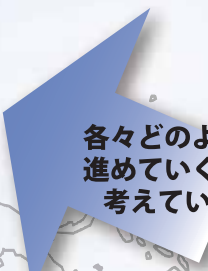
教育の責任



産業の育成



安心できる
生活



各々どのように進めていくかを考えていく。



私たちが目指す「まち」、
それは未来の地球に胸を張れる、人と自然とエネルギーが
もっと仲良くなれる「まち」です。
そんな素敵な「まち」を実現するために
Re:FUTUREを始めます。

We hope to create a futuristic community
where we can live in harmony with nature,
while enjoying the benefit of a wide variety of energy sources.
In order to create such a community,
we will launch our Re:FUTURE concept.



Re:FUTURE

Let's launch our Re:FUTURE concept.

を始めよう。

目次

- 4 Introduction
Re:FUTUREとは

Re:FUTUREへの六つの鍵

- Nature
8 自然との共生 **1**
- Culture
14 伝統の重さ **2**
- Industry
18 産業の育成 **3**
- Life
22 安心できる生活 **4**
- Education
28 教育の責任 **5**
- Energy
32 エネルギーの展望 **6**

- 38 Special Interview

【特集】

より良い未来のためにいま改めて考える
次世代エネルギーを担う六ヶ所村の可能性。

東北大学大学院工学研究科 量子エネルギー工学専攻 教授

石井 慶造

- 46 Village Mayor Greetings and Administrative Policy
村民の声を聞くために 行政・議会
- 48 Outline and Map
村概略図
- 49 Data
資料編

1

Re:FUTUREへの六つの鍵 自然との共生 [Nature]

Six keys to Re:FUTURE



六ヶ所村には豊かな自然がたくさんあります。

人々はその中で暮らし生きています。

農業や漁業、そしてエネルギー産業も

みんな自然の中で共存しているのです。

Rokkasho Village is blessed with an abundant natural environment in which the villagers live.

Agricultural and fisheries activities are being undertaken in this natural environment, and the energy industry is also active here.

小川原湖 Lake Ogawara



六ヶ所村の中央に位置する沼。一部海に面しているためアサリやカキなどの漁も盛ん。白鳥・カモ・ガンなどの野鳥が生息しています。

尾駁沼 Lake Obuchi

それは受け継がれる郷土愛

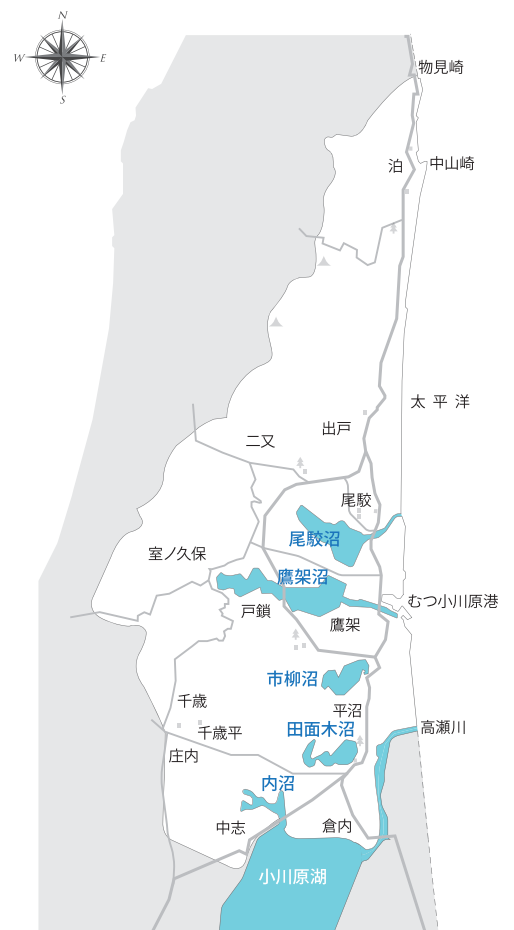
美しい湖沼が四季を彩る

太 平洋に沿って南北に伸びる六ヶ所村には、尾駁沼・鷹架沼・市柳沼・田面木沼・内沼・小川原湖という、実に多くの湖沼が点在しています。尾駁沼、鷹架沼の一部及び小川原湖は淡水と海水が入り混じる汽水湖、また、市柳沼・田面木沼・内沼は淡水湖であることから、それぞれに多様な動植物が生息する稀少生物の楽園ともなっています。四季の移ろいととも違った表情を見せる湖沼群は、六ヶ所村の象徴であり、人々の心象風景として長く愛されてきました。

小川原湖

Lake Ogawara

青森県最大の湖。縄文時代から人が暮らしていました。魚種が豊富で「宝沼」と呼ばれています。今でもシジミ漁、シラウオ漁が行われ、地元の人に愛されている湖です。



1

Re:FUTUREへの六つの鍵

自然との共生

Six keys to Re:FUTURE



鷹架沼

Lake Takahoko

防潮水門を境に汽水湖と淡水湖に分かれています。六ヶ所村の沼の中では最も大きく、中央をバイパスが通っており、沼が一望できます。白鳥など渡り鳥も生息する沼。



市柳沼

Lake Ichiyangi

海に面した入り江が、砂によって隔てられてきた沼。淡水湖で希少なフジマリモやシュレーゲルアオガエル、カンムリカイツブリなどの生息が確認されています。また、源五郎ブナ(へらぶな)が釣れるところでも有名。



田面木沼

Lake Tamogi

平沼川が砂丘により閉じ込められた潟湖(ラグーン)。冬にはワカサギ漁が行われ、釣りに来る人も多い。フジマリモの生息地でもあります。



内沼

Lake Uchi-huma

小川原湖北西部から北に湾のように入り込んだ沼。淡水湖。村の中ではいちばん面積が小さい。ウナギ漁が今でも行われています。

**私たちの祖先もこの風景を見てきたのでしょうか。
この自然を守ること、そして残し伝えること、
それは子孫への約束でもあります。**

**We believe that our ancestors also lived surrounded
by this environment.**

**We are committed to protecting this natural environment,
and handing it down to our children.**

太古からの営み

六ヶ所村は時代の先端を行くエネルギー事業を展開する地域でありながら、一方でその美しく変化に富んだ湖沼群と雄大な太平洋、それらを取り巻く無垢な自然は変わることなくそこに存在し続けてきました。時代とともに村の様子がどんなに変わろうとも、父なる母なる自然の記憶は人々の心から心へと受け継がれていくことに、これまででもそしてこれからも変わりありません。

また、六ヶ所村は珍しい動植物の宝庫でもあります。例えば、カムリカイツブリは、ここ六ヶ所村の市柳沼と田面木沼のほか、津軽地方と関西の一部にのみ渡来し、繁殖する鳥です。ほかにも、オオセッカなど絶滅危惧種に指定される鳥、イトトンボなどの昆虫やサワギキョウ



ニッコウキスゲ

などの植物など、いずれも綺麗な水辺にしか生息することができない動植物が生息しています。また、北方系と南方系両方の動植物が観察できる、学術的にも貴重なエリアとして知られています。

① 自生植物(ニッコウキスゲ)

村の花となっているニッコウキスゲ、サワギキョウ、エゾミソハギなどが群生しています。見頃は初夏。

② 吹越烏帽子岳

吹越烏帽子山系のうち横浜町との境にある標高507.8mの峰。登山道があり、多くの登山者が訪れます。山頂付近は強い卓越風のため高い植物がなく、極めて見晴らしが良い。陸奥湾、太平洋、下北半島を一望できます。

③ マテ小屋

今では見られなくなったマテ漁で使われていた小屋。マテ漁とは、やなを仕掛け、小屋の下に大きな袋網を張り、杭と杭とのあいだに柴などを刺して魚を誘いこむ漁法。ニシン・ウグイ・ヒラメなどを捕っていました。

④ 物見崎

波の浸食によって作られた岬。断崖絶壁の先端には白い灯台が立っています。(白糖灯台、別名物見崎灯台)灯台からは青い海が見渡せる絶景。

⑤ 滝の尻大滝

泊海岸にある滝。すぐそばまで海が迫っており、落差はおおよそ6~7m。波の音と滝の音が重なり、なんとも涼しげな風景を作ってくれます。



① 自生植物 Wild Flowers



② 吹越烏帽子岳 Mt. Fukkoshi-eboshi



③ マテ小屋 Mate Huts



④ 物見崎 Monomi-zaki



⑤ 滝の尻大滝 Takinoshiri Fall



流れるのは心地良い時間

都 会のようにあり余るほどの娯楽とはいきませんが、足を運んでいただければ心豊かな時間が過ごせることを約束します。エネルギー関連施設・温泉施設・ショッピングモールが豊かな自然の中に点在しています。祭りやイベントは村民とふれあうチャンス。じっくり腰を据えて楽しむのがおすすめです。



スパハウスろっかぽっか
Spa-House Rocca-Pocca

鷹架地区にある日帰り温泉施設。大浴場や露天風呂、ヒバ風呂などのお風呂があり、カラオケやマッサージなども楽しめます。



六ヶ所原燃PRセンター
Rokkasho Visitors Center

原子燃料サイクルや放射線、世界のエネルギー事情について、大型模型やタッチパネルなどで分かりやすく紹介しています。展望ホールでは360°の大パノラマが楽しめます。



下北スリーハンドレッドゴルフクラブ
Shimokita Three-Hundred Golf Club

18ホール、パー72のコースがあり、風力発電の風車を眺めながら、六ヶ所村の自然の中、ゆったりとプレーできます。



六趣醸造工房
Rokushu Brewery

地元の長芋を使った焼酎「六趣」の生産工場です。見学コースもあるので、焼酎を作る工程を間近にご覧いただけます。

観光と物産

自然豊かな六ヶ所村の地の利を活かした観光施設や、地元でとれる産物を原料とした特産品の開発により、地域の活性化と経済の振興を図っています。

Rokkasho Village plans to revitalize the area and stimulate the local economy by developing tourist facilities that are unique to our nature-rich environment and by producing regional specialties from local produce.



豊かさがもたらす名産品

農業・水産業・畜産業ともに、青森県の逸品を送り出している六ヶ所村。特に長芋はその品質の良さで知られ、その長芋を主原料とした長芋焼酎「六趣」や和洋スイーツなどが人気。四季折々の郷土料理からヒントを得て考案したものやお刺身スモークなど、新しい発想による産品開発も積極的に行われています。



農産物
Farming Products

六ヶ所村を代表する農産物といえば「長芋」。そして、その長芋を主原料とする焼酎が「六趣」です。地産地消を推進する六ヶ所村ならではの逸品です。



水産加工品
Fishing Products

イカやヒラメなどを使った「海の幸」が楽しめます。その他にも、恵まれた湖沼で捕れるフナやワカサギの佃煮など、六ヶ所村の魅力満載です。



甘味・菓子
Sweets

六ヶ所村のお菓子はオリジナリティ溢れるアイデアと職人のこだわりから生まれた逸品ばかり。和菓子・洋菓子をはじめ、懐かしい味が楽しめます。



かけはし寮工房ペンテ
Preserves by the Institute for the Mentally Disabled

知的障害者支援施設かけはし寮では、寮生がお菓子やパン、ブルーベリージャム、イチゴジャムを作っています。すべて手作りです。

2

Re:FUTUREへの六つの鍵

伝統の重さ [Culture]

Six keys to Re:FUTURE

美しくも厳しい四季の移ろいを受け
人々はそれぞれの暮らしを営む。
湧き上がる熱き想いが形となり
独自の文化へと昇華する道程を経て
伝統は脈々と受け継がれていくでしょう。

People in the village live their lives amid the changes of the seasons
in this beautiful yet harsh natural environment.

Our traditions are based on culture that has been born out of passion,
and are handed down to future generations.

泊例大祭 Tomari Festival

それは先人たちの想い

脈々と伝えられる伝統行事

六ヶ所村は明治の町村制施行により、泊・出戸・尾駮・鷹架平沼・倉内の六か村を統一し誕生した村です。そのため実に多彩な祭りが脈々と今へ受け継がれています。地区ごとに継承される伝統的な祭りには神楽など馴染み深いものもあれば、病気や災いなどの厄を払う土着の行事もありと実に多彩。その素晴らしい遺産を絶やさぬようにと、今この時も子どもたちが未来へと精一杯の力で繋いでいます。



伝統芸能

Traditional Performing Arts

各地区に古くから伝わる神楽の代表的なものが、「太神楽」と「山伏神楽」。祭りで奉納されるほか、正月には家々を回り家内安全を祈ります。



泊例大祭

Tomari Festival

三日間に渡って行われる貴宝山神社と諏訪神社による合同の祭り。神輿や山車が町内を練り歩く「神輿渡御」や、漁師たちによる「海上安全・大漁祈願祭」などが行われます。



馬力大会

The Draft Horse Race

古来から馬の産地として知られる六ヶ所村では、産業まつりの日程に合わせて馬力大会が行われています。東北各地から集まる馬と馬主が一体となって練り広げるレースは迫力満点です。

歴史の重みはなにものにも代え難いものです。
それを胸に刻んで未来へ引き継いで行きます。

We are laden with precious history.

We are always conscious of that as we will hand our history down to future generations.

縄文時代の大集落がルーツ

六ヶ所村には富ノ沢遺跡や大石平遺跡など146ヶ所もの遺跡があり、特に富ノ沢遺跡は4,700年前から4,000年前にかけて、約500軒から成る縄文時代最大級の集落だったと考えられています。また、この地が名馬の産地として知られ、平安時代中期の後撰和歌集にも詠われたことから、江戸時代の紀行家・菅江真澄が滞在し、自然や人々の様子を歌や絵に記した旅日記が残っています。



菅江真澄「おぶちの牧」(秋田県立博物館所蔵の写本)
「マテ小屋」(左)、「泊のポットアゲ」(中)、「菅江真澄像」(右)

菅江真澄とおぶちの牧

Sugae Masumi

平安中期の後撰和歌集に詠まれた「おぶちの牧」を一日見ようと、江戸時代の紀行家・菅江真澄が寛永5年の冬、2週間ほどを村で過ごし日記に記しました。

郷土館

Rokkasho Local Museum



六ヶ所村には先史時代からの多くの遺跡があります。むつ小川原開発に伴い、発掘調査が行われ、縄文時代草創期の土器をはじめ多くの貴重な遺跡と遺物が発見されました。その保護と保存を目的として平成5年に村立郷土館が開館しました。収蔵品には「縄文美子かめ棺」や国重要文化財「赤漆彩色切断壺型土器」など貴重な出土品が多くあります。また、昭和30年代までアワビやワカメを捕る磯船として使われていた丸木船も見ることができます。船底が浅く風に流されにくい形から先人たちの知恵と工夫を窺うことができます。



木村文書

Kimura Document



地名の由来にかかわる伝承

六ヶ村を統一してできたことから名付けられたという六ヶ所村。それぞれ地名が実は馬に由来することを記した伝記が、200年ほど前から旧倉内村の木村家に伝わる文献「木村文書」に残されています。

文献には藩政時代初期からの記述があり、この地が古来から名馬の産地として名を馳せ、軍馬として名高い源頼朝の名馬「生唆(いけづき)」を輩出したことをはじめ、その馬が出たのが「出戸(でと)」、身丈が鷹待場の架のようだったことから「鷹架(たかほこ)」、背中が沼のように平らだったので「平沼(ひらぬま)」、尾が斑になっているので「尾駮(おぶち)」、さらに鞍を打ったのが「倉内(くらうち)」、鎌倉へ引き渡すために泊まったところが「泊(とまり)」となったと伝えられています。

「木村文書」にはこのほかにも、知行状・願い書き上げ・由緒調べ・相続許可書・口上覚などが記され、六ヶ所村の歴史と文化を知る上で貴重な資料として、昭和54年に六ヶ所村有形文化財古文書に指定されました。

歴史・イベント

六ヶ所村のイベント、それは村民たちが心から楽しみにしているお祭り。
50年後、100年後まで続いていくことでしょう。

The people of Rokkasho Village deeply and sincerely enjoy their local festivals.
These festivals will surely continue for many years to come.

新しい時代を 象徴するイベント

国 家プロジェクトを担う六ヶ所村らしく、住人には国内外の人々も多く毎年国際色豊かなイベントが開かれています。さまざまな企画が目白押しの春の「たのしむべ！フェスティバル」、地区ごとに分かれて競い合う夏の「村民体育大会」、秋には2日間にわたって開催される「ろっかしよ産業まつり」など、村全体で盛り上がる祭りを楽しみにする人々で大いに賑わいます。



村民体育大会

Rokkasho Sports Festival

村民こぞって参加する夏の一大体育大会です。この日ばかりは老若男女の区別なく、徒競争や綱引きなどで大いに盛り上がります。



たのしむべ！フェスティバル

Tanoshimube (Let's enjoy) Festival

県南に春を呼ぶお楽しみイベントは、村内外の人たちで大いに盛り上がります。中でも先陣を切って春一番に打ち上げられる花火や歌謡ショーが人気です。



ろっかしよ産業まつり

Rokkasho Industry Festival

豊かな収穫と鮭の豊漁に感謝して出来秋に催されます。農海産物の販売やバーベキュー、活きのよい鮭を素手で捕まえるイベントなどで大いに盛り上がります。



村民文化祭

Rokkasho Cultural Festival

文化の秋に行われる一大文化祭。ダンス、演奏、文化教室など、この日に向けて一年間切磋琢磨してきただけあって、披露する方も鑑賞する方も真剣です。



3

Re:FUTUREへの六つの鍵

産業の育成 [Industry]

Six keys to Re:FUTURE

人間の営みの基本となるものこそ
自然との共生の上に成り立つ産業である。
先端技術に取り組む六ヶ所村だから
未来を見据えた姿にこだわりたい。
子どもたちへの大切な贈り物として。

Our industry is based on our activities in harmony with nature.
We are committed to our policy for the future of Rokkasho Village,
which is engaged in pioneering technology,
as a precious gift to our children.

戸鎖地区 Tokusari Area

それはすべての基本

未来を見据えた第一次産業

全 国的にも高齢化や後継者不足などのさまざまな問題に直面する第一次産業。こういった厳しい状況の中でも、六ヶ所村は生産基盤の計画的な整備、農地の集約化、農漁業や畜産業設備の近代化を進めることにより、担い手の育成を目指しています。また、生産・加工・販売までの一体化を目指す六次産業化によって、製品の付加価値づくりとともに所得向上に取り組んでいます。

農業 Agriculture

地場産業の高度化、高付加価値化に向けて農産物の加工施設及び共同出荷施設の整備を行い、六ヶ所村ならではの新しい特産品の開発を目指します。例えば本格焼酎の「六趣」は地場の長芋を使い、村内の工場で作られています。このように、地産地消の考えのもとに農業団体の支援や農産物の加工の場を提供するなど、さまざまな取り組みを行っています。



長芋の収穫 Harvest

漁業 Fishery

漁業協同組合と連携しながら、漁獲量の増大・漁業経営の安定を目指した魚礁の設置や磯根資源増大を目指した海藻の生育場所となる藻場の設置を行うなどの環境整備を進めます。また、アワビ・ウニの種苗放流やコンブなどの増養殖事業を行うことで、つくり育てる漁業を推進するとともに、加工・流通体制の整備、都市圏へのPR及び地元消費の拡大を促進します。



鮭の水揚げ Fishing

畜産業 Stock Farming

畜産業では、自給飼料の安定化を目指したTMR(完全配合飼料)センターを建設。また、村内の畜産家が連携し、乳搾りから、掃除、餌やりまで完全オートメーションの牧場経営を目指し、耕種農家と連携して、糞尿を肥料として使い有機堆肥を作るなど、エコロジーな視点からも近代化を進め、乳牛や肉牛による良質なブランド品の創出が推進されています。



自動搾乳機(右) Auto-Milking Machine

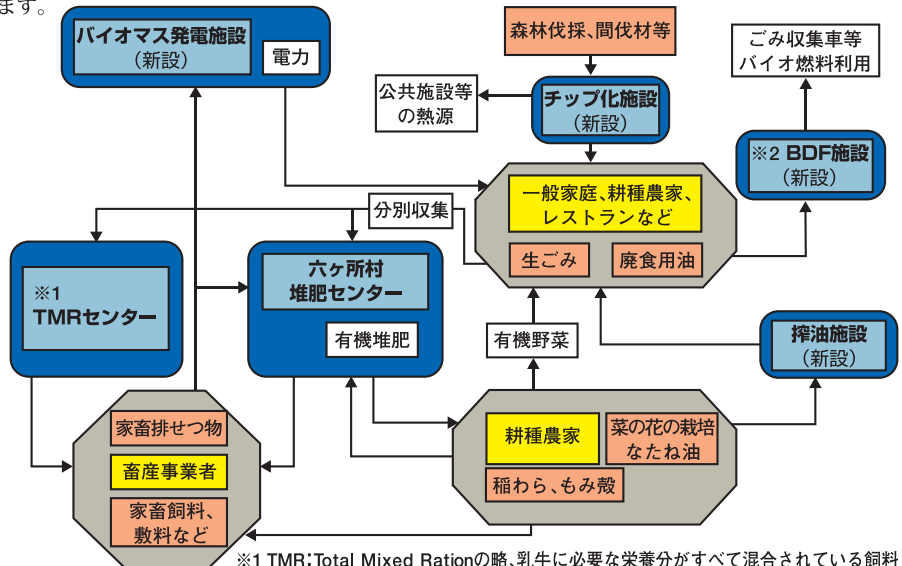
森林整備計画 Forest Maintenance

林業は、畜養という観点から農業や漁業と連動して考えなければなりません。特に六ヶ所村は、森林面積が総面積の50%近くを占めることから、維持管理や利活用を目的に、平成22年から10年余をかけて「六ヶ所村森林整備計画」のもと取り組んでいます。森林の整備にあたっては「水土保持林」「森林と人との共生林」「資源の循環利用林」を基本方針として、恵まれた森林資源の維持造成に取り組むとともに、担い手の育成や質のよい木材の生産管理に努めています。



バイオスタウン構想概要図 Biotechnological Town

生物由来のクリーンエネルギーとして注目を浴びているバイオマス。六ヶ所村でも環境との共生を目指して「バイオスタウン構想」を立ち上げ、バイオマスのエネルギーや堆肥への有効活用など、90%以上の利活用を目標に掲げて、地域環境との共生を目指した資源循環型産業振興を進めているところです。具体的には、特産の農産物生産はもちろん、バイオマス発電・廃食用油のBDF製造・菜の花栽培などに取り組んでいきます。



※1 TMR: Total Mixed Rationの略、乳牛に必要な栄養分がすべて混合されている飼料
 ※2 BDF: Bio Diesel Fuelの略、生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称

**広大な工業用地を有する六ヶ所村の地の利を活かし、
最先端の産業を軸に進められる企業誘致は、
雇用の拡大を生み出す無限の可能性を秘めています。**

**Unlimited possibilities for increased employment lie ahead in Rokkasho Village,
which has a vast industrial site ready for high-tech and other companies to move in.**

エネルギー産業に寄せる期待

国 家プロジェクトとしてのむつ小川原開発は、1969年に閣議決定されてから早くも40年余りが経過しました。この間に「国家石油備蓄基地」、「原子燃料サイクル施設」、「風力発電施設」、「国際核融合エネルギー研究センター」などが次々と立地。人的交流が盛んに行われるなかで、互いに刺激し合う新しい産業の立地を目指すため、企業誘致に力を入れています。県外からの立地企業は、地域に根ざした足腰の強い経営を目指し、それに刺激を受けた地場産業もまた元気になるという相乗効果が期待されます。また、今後一層の誘致が進むことによって、六ヶ所村だけにとどまらない周辺地域を巻き込んだ雇用の拡大が期待されています。



青森宝栄工業(株)



(株)永木精機六ヶ所村工場



OLED青森(株)



(株)ANOVA

2012年2月現在の誘致企業

誘致年	企業名	職種
1985	青森宝栄工業(株)	鉄鋼製品製造業
1989	(株)永木精機六ヶ所村工場	精密機械製造業
1992	(株)ジェイテック	エンジニアリング業
2007	二又風力開発(株)	風力発電
2008	辰星技研(株)	エンジニアリング業
2008	富士警備保障(株)	情報提供サービス業
2008	(有)菅武エンジニアリング	生産用機械器具製造業
2008	日本複合材料(株)	生産用機械器具製造業
2008	みすず精工(株)	汎用機械器具製造業
2009	(株)千代田テクノル	ガラスパッジの組み立てなど
2009	イオスサービス(株)	風力発電設備
2010	青森プラント(株)	エンジニアリング業
2010	OLED青森(株)	有機EL照明製造業
2010	木村化工機(株)	エンジニアリング業
2010	吹越台地風力開発(株)	風力発電
2011	(株)ANOVA	FPD製造業

将来のモデル

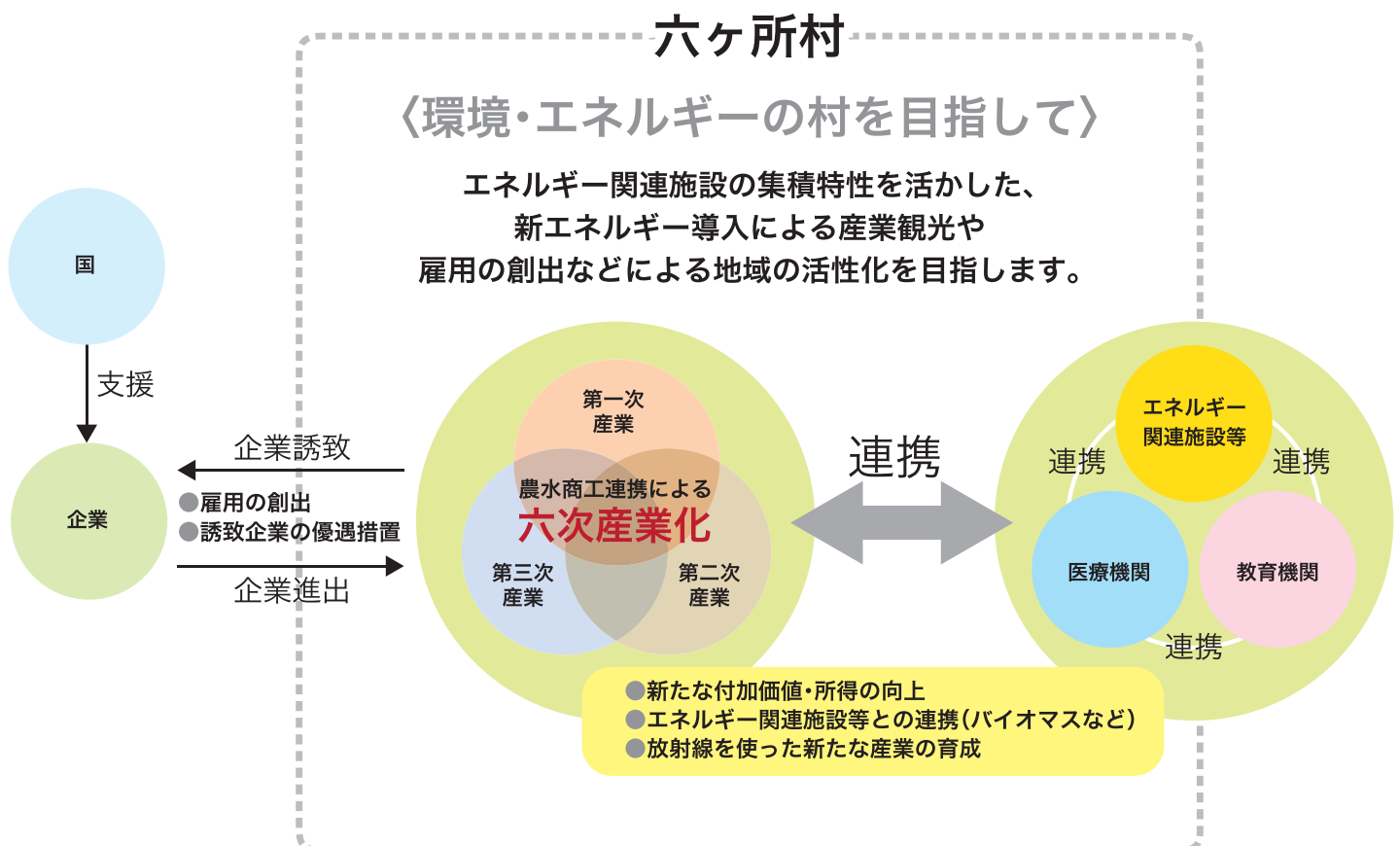
既存の産業を六次産業化し、
新エネルギー産業とリンクさせることで、
新たな可能性が創出されます。

New possibilities will be created by the linking of existing primary, secondary, and tertiary industries with the new energy industry.

産業とエネルギー関連施設等との連携

六ヶ所村では、第一次産業、第二次産業、第三次産業を個別に考えていくのではなく、お互いを連携させ、六次産業化することで、新たな付加価値の創出や所得の向上を目指しています。また、六ヶ所村ならではの「エネルギー関連施設」「各種研究施設」と「大学」「医療機関」などとも連携をとり合い、バイオマスタウン構想の実現、さらには、PET(陽電子放射断層撮影)などの最先端医療に関する研究が進むことを期待しています。これにより、放射線を使った新たな地場産業が育ち、産業観光や雇用の創出などによる地域の活性化を目指します。

将来的には、農業や商工業とエネルギー産業がバランスよく共存した「まちづくり」を行い、モデルケースとして世界へ発信していきたいと考えています。



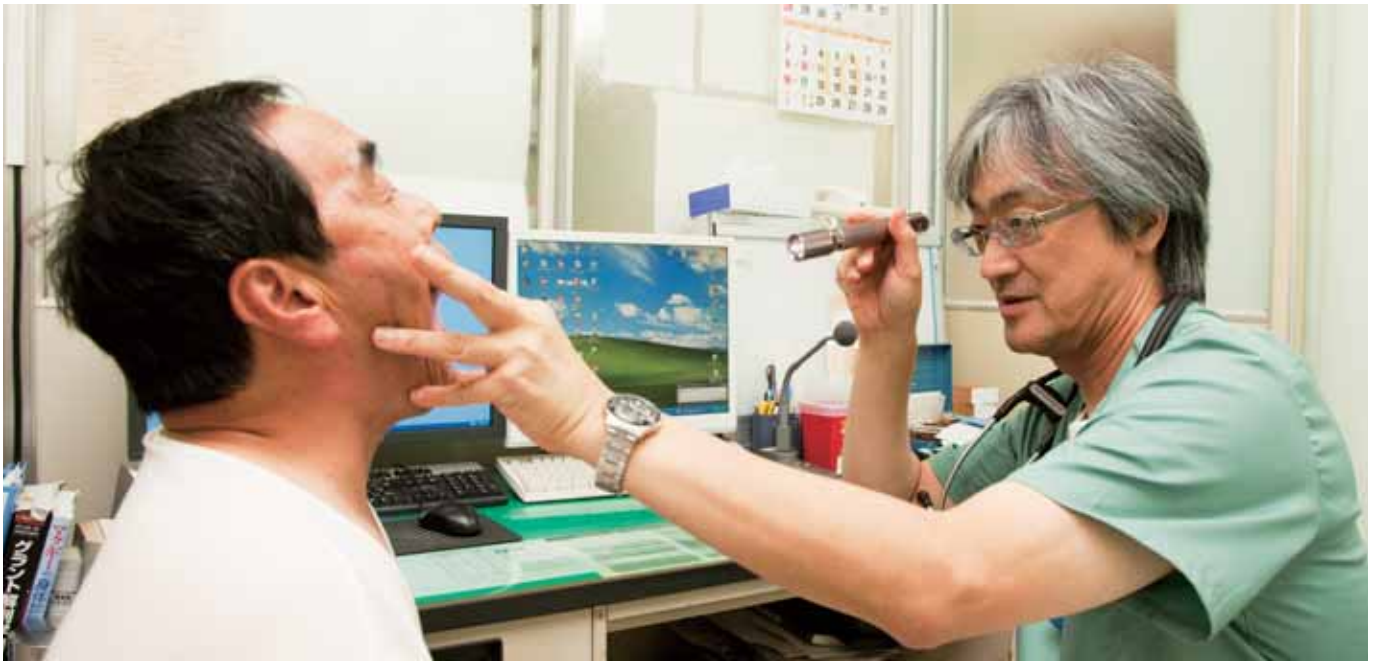
4

Re:FUTUREへの六つの鍵 安心できる生活 [Life]

Six keys to Re:FUTURE

どんなに産業が発展しても
安心して暮らせる村づくりこそが基本。
小さなコミュニティだからこそ
きめ細やかなサービスが実現できるはず。
村民みんなの輝く笑顔のために。

No matter how prosperous the industry becomes,
it is important for the people of the village to live safely.
This small community offers services
with an attention to detail for the happiness
of the people of Rokkasho Village.



尾駮診療所 Obuchi Clinic

(仮称)総合医療福祉施設



尾駮診療所は、将来の高齢化を見越し、(仮称)総合医療福祉施設として、新たな建物を建設中です。現在もCT(コンピュータ断層撮影)や高性能の超音波診断装置、X線透視検査装置などの最先端の医療設備を備えており、これからも村民の健康維持に努めています。

充実した医療体制

Improved Medical Care

六ヶ所村には、村営の尾駮診療所と千歳平診療所のほかに、げんねん診療所、泊診療所と、各地域に初期診療を行う医療施設があり、南北に長い六ヶ所村でも、身近に初期医療を受けることができます。

また、尾駮診療所に関しては、平成26年度の完成を目指して(仮称)総合医療福祉施設の建設工事が進められており、完成すれば、入所ベッド19床の「診療所」、療養ベッド29床と通所リハビリの「介護老人保健施設」、住民の健康増進を担う「保健相談センター」、県南では八戸市民病院に続く「ドクターヘリ対応ポート」を有する施設となります。

それは命の要
治療と予防の両面からサポート
村 内の4診療所のほかに、広域の医療機関との連携により高度医療や救急医療体制を整えています。具体的には尾駮診療所の夜間・休日診療体制を強化するとともに、2次医療の拠点施設である公立野辺地病院などの中核医療病院との連携を強化し、広域的な救急医療体制の整備に努め、特に、専門医など医師の安定確保に努めています。また、保健相談センターでは、予防活動に力を入れ、健康診査や健康相談、食や栄養を考える集いなどを開催することで、生涯を通しての健康づくりを推進しています。



尾駮診療所
Obuchi Clinic



千歳平診療所
Chitose-tai Clinic



げんねん診療所
Gen-nen Clinic



泊診療所
Tomari Clinic



保健相談センター
Health Consultation Center

いくつになっても、誰もが安心して暮らせる村を。
目指しているのは本当の幸せ。

We provide security for the people of the village
so that they can continue to live in safety.

We wish true happiness for the people of the village.

みんなで支え合う福祉を目指す

全ての住民が安心して暮らせるように、六ヶ所村では、充実した福祉サービスの提供を目指しています。現在、六ヶ所村には、老人福祉センター・地域交流ホーム・高齢者生活福祉センター・老人介護福祉施設・在宅介護支援施設・知的障がい者支援施設などの11の福祉施設があります。誰もが安心して福祉サービスを受けられるよう、行政はもちろん、福祉団体やボランティアの育成により「地域福祉マンパワーの充実」や「村内福祉ネットワーク」に取り組むことによって、みんなで支え合う体制づくりを整えています。



かけはし寮での機能訓練(上)と工房「プエンテ」(下左)
ぼんてん荘での機能訓練(下右)

循環バス

Circulation Bus



満70歳以上の高齢者へのきめ細かな対応を目指して、高齢者のいる住宅・老人福祉施設・診療所・温泉施設などをつなぐ巡回バスを運行し、また、村内の各温泉施設では無料で入浴できます。



老人福祉センター
Elderly Citizens' Welfare Center

高齢者の快適な憩いの場所として、保養、余暇の利用、健康の増進及び教養の向上を目的とした施設です。施設内にはどなたでも利用できる温泉施設があります。



地域交流ホーム
Local Interchange Home

村民の交流活動並びにスポーツ及び文化活動の場として建てられた施設です。



特別養護老人ホーム「ぼんてん荘」
Special Elderly Nursing Home

要介護者を対象として、介護サービスを利用できる老人ホーム。



知的障害者支援施設「かけはし寮」
Institution for the Mentally Disabled, and Rehabilitation Facilities

障がい者の社会生活適応・生活習慣確立のための生活支援、職能訓練などを行います。施設内には、社会生活適応訓練も兼ねた、お菓子やジュースなどをつくる工房「プエンテ」もあります。



特別養護老人ホーム「貴宝園」
Special Elderly Nursing Home

要介護者を対象として、介護サービスを利用できる地域密着型の老人ホームです。

福祉・環境

豊かで文化的な生活を目指して、
きめ細かなサポートを提供。

We support the people of the village
with cultural activities
in their pursuit of prosperous lives.



豊かな自然と文化的な暮らし

六ヶ所村は、山林や湖沼、太平洋など豊かな自然に恵まれた土地。また同時に、エネルギー関連の高度な研究や経済活動が営まれ、自然の豊かさと経済的な豊かさの両方を享受できる村となりえる可能性を持っています。新たなエネルギー関連の産業施設や研究施設が次々と立地するなか、国内外からの研究者や誘致企業で働く居住者の増加にも対応して、魅力とゆとりのある文化的な生活を目指した都市開発が進められてきました。特に、定住促進のための土地区画整理事業や教育施設をはじめとする公共公益施設の整備、さらに道路・下水道等のインフラ整備などが計画的に進められています。

尾駈レイクタウンエリア *Obuchi Lake-Town Area*

六ヶ所村の中心に位置し、近隣の通勤や買い物にも便利な「尾駈レイクタウン」。現在約1,300人が暮らしています。また、尾駈レイクタウンの北側で進められている土地区画整理事業が完了すれば、さらに1,000人の居住が可能になります。

近隣には誘致企業や複合型ショッピングモール「リープ」、図書館を併設した文化交流プラザ「スワニー」、幼稚園、学校、国際教育研修センター、診療所などの公共公益施設があり、利便性の高い居住環境の整備が進められています。

また、地熱利用ヒートパイプを導入して融雪に活用するなど、環境に配慮した次世代ニュータウンとしても注目されています。



尾駈レイクタウンのまち並み
Obuchi Lake-Town



国際教育研修センター
International Education and Training Center



レイクタウン幼稚園
Lake-Town Kindergarten



尾駈小学校
Obuchi Elementary School



第一中学校
Dai-ichi Junior High School

六ヶ所村民図書館 *Rokkasho Village Library*

文化交流プラザ「スワニー」に併設される村民図書館には、46,000冊の図書3,100点の視聴覚資料を所蔵しており、ゆったりとした開架スペースが特徴です。



大石総合運動公園 *Oishi General Exercise Park*

高台から風車が望める憩いの運動公園。陸上競技場・野球場・テニスコート・プール・フィールドアスレチック・体育館があります。村民のスポーツ活動の場として広く活用されています。



文化交流プラザ「スワニー」 *Swany Cultural Exchange Plaza*

国際会議場としての機能を有し、コンサート、講演会、結婚式などのイベントのほか、村民の文化活動、文化交流、人材育成などにも幅広く利用されている文化施設です。



2011年の大震災を踏まえ、災害に強い村を。 民官が一体となった防災システムを。

After the Great Tohoku Earthquake of 2011, we are determined to make our village resistant against disaster.
We provide a disaster prevention system in cooperation with government and the private sector.

3.11大震災を教訓とした体制へ

六ヶ所村では、2011年の東日本大震災の経験から、村民の安心・安全をより確実にするための施策を進めています。まず、緊急時の避難所となる村内の小・中学校に米やパンなどの非常食、毛布、飲料水などを備蓄し、より素早い災害対応が可能となりました。また、今後は、飲料水併用の耐震性防火水槽(約100トン)の設置や停電に備えた非常用自家発電設備を避難所となる各小・中学校へ設置することにしていきます。さらに、尾駈地区周辺への公共施設には、風力発電を用いた非常時の電源確保システムを構築する予定です。



炊き出し訓練の様子
Disaster Prevention Exercise



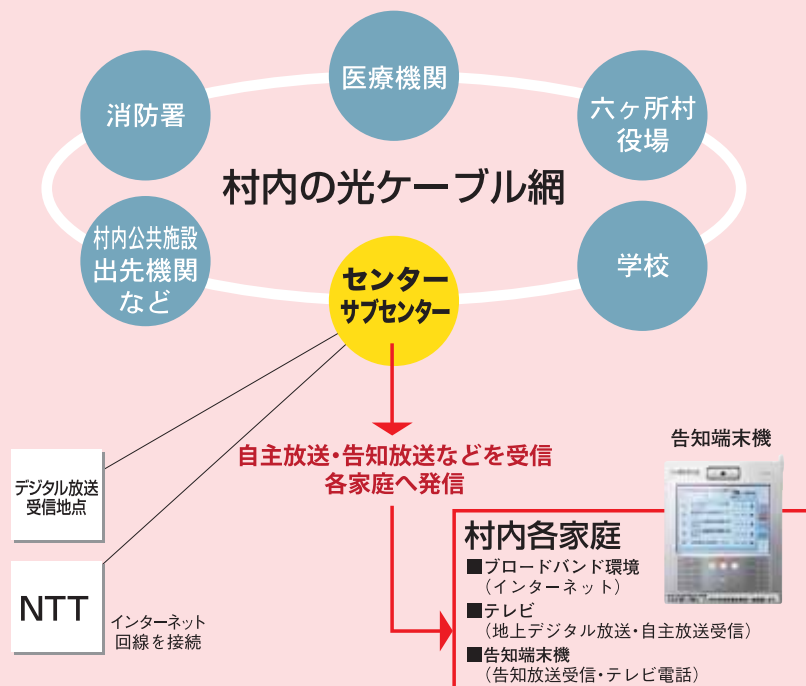
自主・告知放送

地上デジタル放送と告知端末機で、緊急時にも素早く対応できるシステムの構築



六ヶ所村の全戸には光ケーブルが敷かれています。これを利用して、六ヶ所村では自主放送(地上デジタル放送11チャンネル)と告知放送(告知端末)を始めました。自主放送は、村からのお知らせや健康支援などの番組を提供します。

告知放送は「告知端末機」を使い、普段は村からのお知らせや健康支援法を配信しています。また、村内でテレビ電話としても使えます。この端末機の最大の目的は、緊急事態が発生したときに、サイレン音で知らせ、緊急情報を伝える事です。これにより村の安全対策がより強化できます。



村民の安全は地域ぐるみの活動で守ります。消防署や警察署はその要になります。日頃から交通安全運動などを行い、地域住民が積極的に安心・安全なまちづくりに参加しています。



消防署 Fire Department



尾駁交番 Obuchi Police Department



交通安全運動 Traffic Safety Campaign



石油備蓄基地防災訓練 Oil Storage Disaster Prevention Exercise

基地施設は、計器室において、24時間365日体制で集中管理され、運転員が交代で現場確認を行い、常に施設内や運転状況を監視しています。タンクや配管、計器類などのハード面は、計画的に検査・整備を行い、ソフト面では、労働安全衛生マネジメントシステムを行うことで安全をより確実なものとしています。

万一の事故が発生した場合でも、被害を最小限に抑えるため、タンク本体や基地全域に設置した消防設備に加えて消防車や防災船を配備し、更に、大規模火災時に対応する大容量泡放水設備も設置します。

季節を問わず繰り返し返される防災・油防除訓練で経験を積んだ自衛防災要員が常駐し、万全の体制を整えています。



原子力防災訓練 Nuclear Emergency Exercise

平成3年から原子燃料サイクル施設に係る訓練を実施しており、平成15年からは、住民参加型の訓練を行っています。特に、「災害対策本部の設置運営訓練」、「緊急時被ばく医療訓練」、「住民の避難誘導訓練」、「住民に対する情報伝達訓練」は、災害時の混乱を避けるために欠かせない訓練です。これらの訓練を国、地方公共団体、防災関係機関及び原子力事業者が一体となって実施することで、万が一の際にも円滑な対応ができるようにしています。

また、原子力事業者は、福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、国の指示に基づき、緊急安全対策を実施し、外部電源喪失時の非常用ディーゼル発電機による電源確保などさらなる安全対策を進めているほか、計画的に訓練を実施しています。



津波避難訓練 Tsunami Prevention Exercise

平成22年度に地震及び津波発生を想定した訓練を実施（泊地区対象）しており、今後も、太平洋沿岸の地区を対象に実施していく計画です。訓練では、対象地区の住民も参加して、防災関係機関とともに、地震災害発生時の応急対策を迅速、的確かつ総合的に実施できるよう各種訓練を行っています。これらの訓練を通して、災害対策本部の設置、避難所の開設、津波被害対応などの防災体制の強化だけでなく、地域住民の防災意識の高揚を図っています。訓練では、防災教育も同時に行い、防災の講義や血圧の測定、AED（自動体外式除細動器）の使い方を学習し、また、炊き出し訓練では、アルファー米を使い、ご飯の作り方をマスターするなど、実践的な訓練を実施しています。



5

Re:FUTUREへの六つの鍵 教育の責任 [Education]

Six keys to Re:FUTURE

異文化を通して眺めてみると
今まで見えなかったものが浮かんでくる。
世界の中で六ヶ所村が担うべき役割や
国際的意識を持つことの大切さ。
何より世界はひとつと気づくこと。

Our perspective broadens when we come into contact with foreign cultures.
Rokkasho Village plays an important role in the world,
and it is important for the people of the village to develop a global sensibility.
They should be aware that we all live
in the same world.

青森県立六ヶ所高等学校 Aomori Prefectural Rokkasho High School

それは未来へのパスポート

エネルギー教育に取り組む

六ヶ所村ではいずれの地域においても質の高い義務教育が受けられるよう、教育環境の充実を図っています。また、学校・家庭・地域の連携を強化して「開かれた学校づくり」を目指し、新エネルギーを担う村の特性を活かして一步進んだ「環境・エネルギー教育」を取り入れるなど、人材育成にも力を入れています。また、PRセンター・ウィンドファーム・火力発電所など、エネルギー関連施設への見学会をはじめ、各校独自の取り組みとして「電気をつくる」などの科学実験を通して、六ヶ所村にとって身近なエネルギーについて学びながら、広く環境問題に対する意識を身につけるなど先進的な教育に力を入れています。



第一中学校

Dai-ichi Junior High School

学力向上アクションプラン2012構想

環境・エネルギー及び科学技術分野の研究施設や多様な企業の立地に伴って、国内外の科学者や研究者が村に滞在することが多くなっています。六ヶ所村ではこの機会を捉え、学校教育の向上と国際的センスを養う次世代教育を目指した10項目からなるアクションプランを進めています。

この構想は、学力向上のみならず、国際化・キャリア・環境エネルギーなど六ヶ所村ならではの教育を、教職員・PTA・地域住民が連携し、「確かな学力の向上」を目指して進めようというものです。また、プランを支えるユニークな取り組みとして、小・中学生を対象とした低料金の村営学習塾「VILLAGEアカデミー」を委託運営するなど、「学習意欲の向上」、「基礎基本の定着」、「思考力・表現力の向上」、「問題解決能力の向上」を目指した六ヶ所村ならではの学校教育に取り組んでいます。



給食の風景
School Lunch



村営学習塾「VILLAGEアカデミー」
Village Academy



英語漬け体験学習
English Camp

- 1 学力向上実践モデル校**
村内各校の特色ある実践の積極展開による学力の向上
- 2 村独自の学力調査**
県や全国の学力状況調査における達成率の向上
- 3 国際化対応教育**
生徒の英語学習の意欲向上と学習定着度向上(中学校)
- 4 キャリア教育**
児童・生徒の将来への夢の水準確保
- 5 読書推進運動**
児童・生徒の読書習慣の定着と読解力の向上
- 6 環境・エネルギー教育**
児童・生徒の科学的な思考力の向上
- 7 「学びを支える5つの約束」推進運動**
児童の望ましい生活・学習習慣の確立
- 8 小・中連携教育の推進**
小・中の円滑な接続による教育活動の充実
- 9 教職員研修事業の実施**
授業の質や学校経営参画意識の向上
- 10 六ヶ所村連合PTAとの連携**
学校と家庭の共同歩調による子育ての実現

六ヶ所村の特徴を生かした学びの環境作り。

最先端の知識と技術を持った講師たちによる学習の場。

We provide a learning environment that is characteristic of Rokkasho Village,
and a place for learning that features lecturers that have advanced knowledge and skills.

電子情報ボード *Electronic Interactive White Board*

最先端機器を使って楽しく効率的な授業を推進

村内全ての小・中学校には、「電子情報ボード」を設置しており、大画面・タッチパネル式の最新機器での授業を行っています。このボードは、国内でも早い段階から授業に取り入れられ、鮮明な画像や動画を駆使した授業により、子どもたちは一層興味関心を持って学習しています。特に、小学校での英語の授業では、視覚と聴覚を用いての学習が効果的で、動画に合わせてダンスをしながら正確な発音を身につけています。

また、インターネット回線をつなげれば、日本国内ばかりではなく、海外の高校や大学と直接教室をつなげることも可能で、海外の生徒と直接会話ができたり、外国の授業を受けたりすることもでき、この電子情報ボードの導入によって、今後ますますの学力向上が期待されています。



東北大学実験教室 *Experimental School Tohoku University*

科学実験教室で科学する心を養う

環境・エネルギー教育を推進する六ヶ所村では、小・中学生や少年少女発明クラブの子どもたちを対象に、東北大学の講師や学生による「出前授業」が行われています。普段学校では体験できない科学実験を通して、科学への興味や関心を持ってもらうことで、国際科学技術都市づくりへ向けた人材・基盤づくりを目的とした試みとなります。このほかにも、「科学授業」などの様々な学習の機会があり、エネルギーをより身近に感じることで、これからのエネルギーについて考え、村が果たす役割について知る機会が設けられています。



東北大学大学院 *Graduate School of Engineering, Tohoku University*

東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻では、原子力関連企業等からの社会人大学院生教育を、研究機関でもある東北大学サイクロトロン・RIセンター六ヶ所村分室で行っています。博士号も取得することができ、これにより多くの若者たちへ大学院教育の門戸が開かれるとともに、先端企業で働く技術者のレベルアップが期待できます。



教育現場・国際意識

六ヶ所村ならではの魅力的な環境。

村ぐるみの国際交流が海外への好奇心を養ってくれる。

An attractive environment unique to Rokkasho Village
and an international exchange involving the entire village cultivates interest in foreign affairs.

外国語教室 *Language Lecture*

魅力は無料で受けられる外国語教室

村民なら誰でも受けられる外国語教室は、英語・ドイツ語・フランス語・韓国語。いずれもネイティブスピーカーの国際交流員と外国語指導助手のほか、ボランティアによる語学教室を定期的に開催しています。教室によっては初級から上級コースまであり、レベルに合わせて気軽に参加できます。また、村に居住されている外国人のために、日本語教室も開催しています。



海外体験学習 *Overseas Exposure Study*

海外に触れる機会を多く作ることで国際感覚を身につける

六ヶ所村には外国人の滞在者が多いことから、特に小・中学生の生きた英語教育に力を入れています。小学生はオーストラリア研修、中学生はアメリカ研修、高校生は韓国でのホームステイと段階的な体験ができるような体系を整え、海外体験を通して国際的な意識を高めてもらおうと努めています。



国際交流 *International Communication*

村ぐるみで行われる交流によって、世界への扉が開かれる

国際的な研究機関の誘致に伴う研究者及び関連する企業で働く人々の滞在によって、海外の人々との交流が増えています。それを受けて六ヶ所村では、高校生ホームステイ交流、小学生サッカー交流、行政職員の相互派遣など、積極的に国際交流を行っています。特に、小学生サッカー交流は平成6年から韓国ヤンヤン郡との間で行われており、スポーツを通じて友好を深めています。



国際教育研修センター *International Education and Training Center*

「国際教育研修センター」を第一中学校・尾駈小学校に隣接して設置し、六ヶ所村の小・中学生や地域住民と海外からの研究者やその家族との国際交流の拠点としています。また、センター内には、核融合エネルギーの研究開発を目指した「幅広いアプローチ活動」に携わる外国人研究者の子弟の学びの場として国際学級が青森県により設置され、村内の公立学校との交流も盛んに行われています。今後は当センターを活用し、さらなる国際交流や国際理解教育などを推進していきます。



6

Re:FUTUREへの六つの鍵 エネルギーの展望 [Energy]

Six keys to Re:FUTURE

地球温暖化、燃料価格の高騰など
さまざまな問題が山積する日本。
類を見ないエネルギー関連施設の集積地として
日本の未来を担っている六ヶ所村。
その取り組みが改めて注目されている。

Japan faces many problems,
such as global warming and rising fuel costs.
As an unprecedented center of energy-related facilities,
Rokkasho Village will continue to play a major role for Japan in the future,
and its activities have drawn new attention to the village.

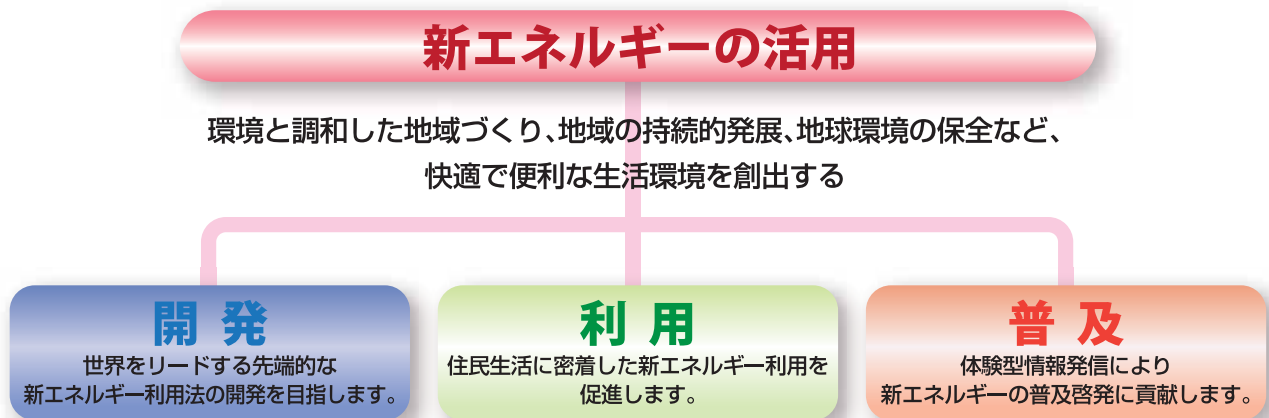
二又地区 風車 Futamata Area Windmills

それは次の世代へのバトン

エネルギーの未来を六ヶ所村から考える

「地域特性を生かしつつ、いかにして新エネルギーを取り入れ、活用していくか」…これを明確にするために、六ヶ所村は地域新エネルギービジョンを策定しました。地域に潜在する新エネルギーを活用し、環境と調和した地域づくり、地域の持続的発展、地球環境の保全など、快適で便利な生活環境を創出することを目指します。

六ヶ所村地域新エネルギービジョン



このビジョンのもと、六ヶ所村においては民間企業も積極的にエネルギー問題に取り組んでいこうという芽が育っています。そのひとつとして挙げられるのが、風力発電事業者等が行っている「自然エネルギーの効率的な電力供給システムの構築」を目指した「スマートグリッド実証試験」です。

資源の少ない日本は、もちろん従来からの石油エネルギー依存からいち早く脱却しなければなりません。そのためにも、産学官一体となって新エネルギーの開発に取り組んでいく必要があります。その環境が整っている六ヶ所村だからこそ、エネルギーのまちの使命として、今後ますます新エネルギーの活用に責任を持って取り組んでいきます。

第15回全国風サミット in 「ろっかしょ」 The 15th Wind Summit in Rokkasho

77基の風車を持つ六ヶ所村から、地球規模の視点でメッセージを発信



第15回全国風サミットは、メインテーマ「次代を拓く風の声… 届け未来の世代に…」のもと、地球温暖化の防止に向けて、二酸化炭素排出量の削減に貢献する、風力発電を始めとする環境負荷の少ない自然エネルギーの導入促進を図ることを目的として、ここ六ヶ所村で開催され、次の2点について共同宣言を行いました。

- 一、地球温暖化の防止、エネルギーの自給向上を目指して、自然エネルギーを活用することにより、次代を拓き、未来の世代に美しい自然や環境を引き継ぐため、特に風力発電の導入を積極的に進めることに取り組む。
- 一、風力発電の普及促進に係る諸課題である電力の全量買取、買取価格の適正化や土地利用規制の緩和、電力インフラの整備等の解決に向けて、産・学・官・民が相互理解と信頼関係を深め、連携して努力する。



サミットでは、メイン会場である村文化交流プラザ「スワニー」へ県内外の関係者ら約450人が集まり、風力発電を中心とした新エネルギーの今後などについて、パネルディスカッションや事例発表を通して活発な意見交換が行われ、盛会のうちに幕を閉じました。

開催日／平成22年9月29日～10月1日

エネルギーとどう向き合うか。

今六ヶ所村では、エネルギー問題を真剣に考える取り組みが行われています。

How should we address energy issues?

To demonstrate our firm commitment to resolving energy issues,

Rokkasho Village is now implementing a number of measures.

次世代エネルギーパーク Next Generation Energy Park

見学や体験学習を通して次世代エネルギーの理解を深める。

3つのコンセプト

- 体験型情報発信**
来場者が次世代エネルギーを実際に見て触れることができる「体験」を通じて理解を深められるパーク。
- 旧・今・新のエネルギー**
過去や現在、未来のエネルギーについて時代背景やエネルギー構造、その移り変わりをたどりながら、エネルギーの重要性について理解できるパーク。
- 自立×協調型の事業運営**
各施設は自立性を維持しつつ、情報、来場者へのサービス提供では施設間が密に連携するパーク。

先進的風力産業の集積

石油備蓄基地
●むつ小川原国家石油備蓄基地

次世代自動車普及

センター & パークツアー
エネルギーパークを訪れる人々の窓口となるセンター機能と各施設をつなぐパークツアーを整備・運営します。トリジェネレーション
●(株)トヨタフロリーテックウィンドファーム
(大規模風力発電施設)

- 日本風力開発グループ (二又風力開発(株)、六ヶ所村風力開発(株))
- エコ・パワー(株) (むつ小川原ウィンドファーム)

放射線安全研究
●(財)環境科学技術研究所

自然エネルギー

核融合エネルギー研究開発
●国際核融合エネルギー研究センター原子燃料サイクル
●六ヶ所原燃PRセンター

バイオマス関連施設

次世代ニュータウン

六ヶ所原燃PRセンター

ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、再処理工場などの「原子燃料サイクル施設」を大きな模型や映像、パネルで分かりやすく紹介すると共に、原子燃料サイクルに関する深い原子力・放射線のコーナーもあります。



国際核融合エネルギー研究センター

日本と欧州などとの間で核融合エネルギーの開発を目指す「国際共同プロジェクトITER計画」が進められ、日欧による幅広いアプローチ協定に基づき原型炉(ITERの次世代炉)実現に向けた「幅広いアプローチ活動」が行われています。



日本風力開発グループ

ヤマセ(北東風)や津軽半島からの西風と、年間を通して風の強い地域特性を活用して、六ヶ所村風力開発(株)・二又風力開発(株)の2社をあわせ、大型風車56基により、自然エネルギーの「風」を利用した風力発電が行われています。



(財)環境科学技術研究所

「原子力と環境のかかわり」をテーマに、主に放射線や放射性物質の環境中における分布と生物への影響を調査研究しています。得られた情報は地域住民へ公開しています。



エコ・パワー(株) むつ小川原ウィンドファーム

一年を通して風の強い地域の特性を活かし、むつ小川原ウィンドファームでは、風車21基が運転され総発電出力31,500kWを誇っています。年間では約5,800kWhを発電し、これは標準家庭約16,600世帯分が一年間に消費する電気量に相当します。



(株)トヨタフロリーテック

「トリジェネレーションシステム」によって、2万㎡もの花き鉢物栽培温室で、生産・販売しています。天然ガスへの切り替えとトリジェネレーションの導入により、年間約900tのCO₂排出量を削減しています。



むつ小川原国家石油備蓄基地

緊急時における石油の安定供給確保を目的に、国家石油備蓄事業の第一号として1983年に操業開始。現在、51基の原油タンクには、我が国の石油消費量の12日分の原油を備蓄しています。



防災拠点 原子力防災研究プラザ※1

「六ヶ所オフサイトセンター」が置かれ、緊急時には政府の原子力災害現地対策本部が設置され、国・関係自治体・原子力事業者による情報の共有や連携した対応がとられるとともに、文部科学省原子力防災専門官が原子力災害の発生や拡大の防止に務めます。



研究機関 東北大学サイクロトロン・RIセンター六ヶ所村分室※2

「核燃料科学研究部」「放射線高度利用研究部」でそれぞれ、「高レベル放射性廃棄物の高度分離」「放射性同位元素の高度利用」といった新原子力利用の研究が行われています。



上記※1・※2はエネルギーパーク以外の施設です。

未来への選択

地球温暖化問題の深刻化や燃料価格の高騰を背景に、太陽光・風力・バイオマスなどの新エネルギーの拡大が急がれています。そこで六ヶ所村では、新エネルギーを始めとする次世代エネルギーを、多くの人々に見て・触れて・理解を深めてもらおうと、エネルギー関連施設が集積する地区をつないで「次世代エネルギーパーク」として整備を進めています。

また、青森県が中心となって実施している「次世代型双方向通信出力制御実証事業」や「むつ小川原グリーンITパーク」がここ六ヶ所村において実施されているなど、未来のエネルギーについて今後も取り組んでいきます。

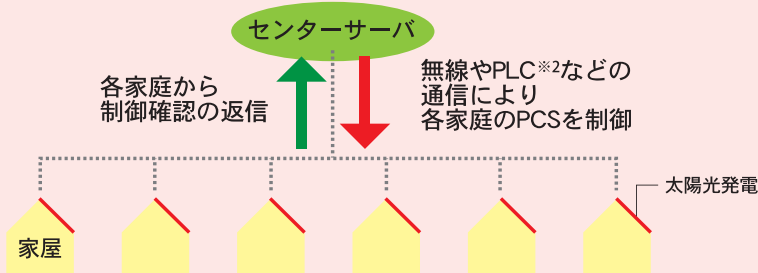
次世代型双方向通信出力制御実証事業

Next-Generation Two-Way Communication Output Control Demonstration Project

日本初の取り組み。今後も誘致活動を継続し、スマートグリッド構築に貢献する。

住宅用太陽光発電(PV)の大量導入に伴う電力系統安定化対策として、ITを活用したPVの出力制御を行うための様々な通信方式に対応するPCS※1の開発及び実フィールドでの通信方式の実証。

六ヶ所村地域実証のイメージ図



■実証項目と概要

- ① 通信による出力制御機能を有する太陽光発電PCSの開発
- ② 住宅用・産業用太陽光発電の通信による出力制御の実証
※六ヶ所村においては住宅用太陽光発電の通信による出力制御の実証を行う。
- ③ 蓄電池等の通信制御の実証
- ④ 電圧調整機能付きPCSの開発と実証

※1 PCS: パワーコンディショニングシステム
太陽光で発電された直流電力を交流電力に変換する装置
※2 PLC: パワーラインコミュニケーション 電力通信線

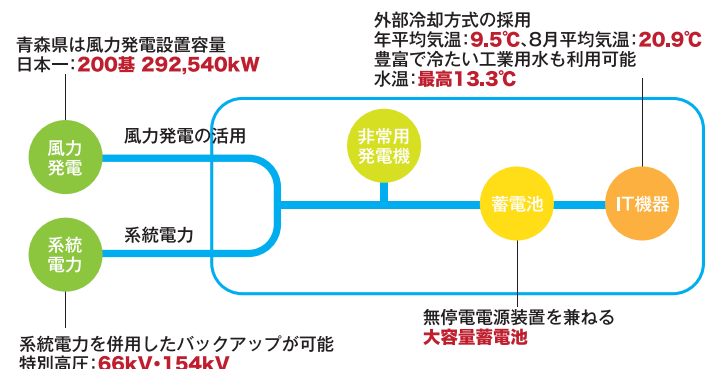
むつ小川原グリーンITパーク Mutsu-Ogawara Green IT Park

「環境」と「経済」を両立させた新時代のクラウド・インフラへ。



むつ小川原グリーンITパークは、広大な用地を有するむつ小川原開発地区に風力発電を活用した環境に優しいデータセンターの立地推進、加えて関連産業の振興を図ることを目的に、日本におけるITとエネルギーの一大拠点を整備しようという計画です。むつ小川原開発地区は一年を通じて冷涼な地域で、地震・雷・台風などの災害リスクが低いこと、先進的な研究開発地域があることなど、立地環境や条件に恵まれていることから、ITとエネルギーの拠点形成に向けた開発が進められます。

むつ小川原データセンターモデル



Re:FUTURE が始まる。



現在地球にはさまざまな問題がたくさんあります。政治、経済、宗教、エネルギー、饑餓や紛争など、21世紀になっても、それらは収まる気配がありません。私たちはこのままの道をたどるのでしょうか？いえ、決してそうではありません。A.トフラー(20～21世紀を代表する国際ジャーナリスト)は、「20世紀は暴力と金力の時代であった。これからの時代は、暴力、金力から「知」の時代へ移行するだろう」と言っています。

六ヶ所村が目指しているのは、まさにこの「知の時代」に見合った「まち」です。

六ヶ所村は自然とエネルギーと人間の共存を目指しています。例えば、エネルギー施設を誘致するにも、それを科学だけの目ではなく、政治、経済、自然科学、人類学や情報学などといったさまざまな分野のエキスパートの意見を聞き、複眼的な視点で総合的に判断していくことが求められます。

そのためには、まず、私たちが自ら豊かな自然を守り、祖先を敬う心を持ち続け、社会に貢献できる産業の基盤を作り、安定した平和な社会の中で、未来を担っていく人間を育成することが基本となります。そして、それらを実現するためにはエネルギーが必要不可欠です。

六ヶ所村は、このエネルギー問題に正面から向き合い、そして、積極的に取り組んでいきます。科学的にも技術的にも、まださまざまな問題がありますが、それらを克服できる日が必ず来るはずで、科学と人間の知恵を組み合わせ、何度も試行錯誤しながら、そして常に未来を見つめ直しながら、「Re:FUTURE」をテーマにまちづくりを進めていきます。

もし、将来人類が道に迷ったとき、世界の人たちから「六ヶ所村があってよかった」と言ってもらえるような「まち」になれば……。

そのための一歩「Re:FUTURE」が今始まります。

We will launch our Re:FUTURE concept.

We now face various problems on Earth, such as political, economic, religious, and energy problems, as well as starvation and conflict. There is no indication that these issues will be solved during the 21st century. Will this situation remain the same? It shouldn't. Alvin Toffler, a great international journalist whose career spans the 20th and 21st centuries, mentions that although violence and money prevailed in the 20th century, in the future we will shift into an age of intelligence.

Rokkasho Village aims to become a place of harmony with the very essence of this age of intelligence.

Rokkasho Village is determined to achieve a harmonious relationship among the natural environment, the energy industry, and human beings. For instance, when attracting energy facilities to our village, we should listen to the opinions of not only scientific experts but also experts in fields such as politics, the economy, natural science, anthropology, and information science, in order that we can make comprehensive decisions based on a variety of viewpoints.

In order to do this, we must first protect our bountiful natural environment, continue to respect our ancestors, create an industrial base that makes a positive contribution to society, and educate our students in a stable and peaceful society so that they can play pivotal roles in the future. But for all of this to happen, energy is essential.

Rokkasho Village is committed to facing up to these energy problems, and will take proactive measures to overcome them. Although we are still faced with various scientific and technical problems, we will conquer them one day. We shall build a community based on our Re:FUTURE concept through a combination of science and human wisdom achieved through many trial and error processes, and by continuing to re-evaluate our future.

We hope to build a place for human beings who are at a loss in the future to come to and say, "We are happy we have found Rokkasho Village."

In order to take steps toward this goal, we are now launching our Re:FUTURE concept.

[特集] より
いま
次世
六ヶ

Tohoku University Graduate School
School of Engineering
Department of Quantum Science and Energy Engineering Professor

Keizo Ishii

SPECIAL
INTERVIEW

良い未来のために 改めて考える： 代替エネルギーを担う 所村の可能性。

東北大学大学院工学研究科 量子エネルギー工学専攻 教授

石井慶造



六ヶ所村には、国内唯一の「商業用原子燃料サイクル施設」をはじめ、「国家石油備蓄基地」、「大規模風力発電施設」、「核融合エネルギー研究開発施設」などの日本におけるエネルギー政策の根幹を担う施設が立地しており、地球環境や次世代におけるエネルギーへの理解促進を図るために、平成22年5月、これらの施設を含めた「六ヶ所村次世代エネルギーパーク」を開業するなど、「エネルギーの村六ヶ所」に向けた取り組みを積極的に展開して参りました。

一方、東北大学は、平成22年5月に「サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター六ヶ所村分室」を開設し、村の特別な環境を活かした先端的な研究や原子力人材育成に努めております。

このようなことから、原子力の専門家でもある当センター長の東北大学大学院石井教授に、現在の状況を踏まえながら、明日の六ヶ所村が目指すべき姿などについてお聞きしました。

Reconsidering our position in order to realize a better future:

Rokkasho Village can be the driving force behind next-generation energy solutions.

In Rokkasho Village, there are facilities supporting the core of Japan's energy policy, including commercial reactor fuel cycle facilities, a national oil reserve base, large-scale wind farms, and fusion energy research and development facilities. In order to promote understanding of the global environment and of next-generation energy, we opened the Rokkasho Next Generation Energy Park, which includes the above facilities in May 2010, and have been actively striving to make Rokkasho into an "energy-oriented" village

Since May 2010, Tohoku University opened a branch office of the Cyclotron Radioisotope Center in Rokkasho Village, and has been conducting advanced research and training personnel to become atomic energy specialists in the village's characteristic environment.

Using the above as a background, we interviewed the head of the center, Mr. Ishii, who is a nuclear energy specialist and a professor at the Graduate School of Tohoku University as to what Rokkasho Village's objectives should be in the current circumstances.

EW

いままた「次世代エネルギー」発信基地としての役割が大きくクローズアップされようとしています。

Currently, Rokkasho Village's role as a source providing information on next-generation energy is once more the subject of great attention.

現在の六ヶ所村について、どのように感じていますか。

石井 六ヶ所村といえば原子燃料サイクルというイメージが強いと思いますが、サイクル施設を中心としたエリアに「次世代エネルギーパーク」の整備が進む中で、これからはさらに太陽光・風力・バイオマスなどの新エネルギーをはじめとする次世代エネルギーの発信基地としての役割も大きく期待されています。

実際に日本原燃(株)という大企業を中心に、さまざまな研究機関や企業が立地しておりますし、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴い起こった福島第一原子力発電所の事故により、原子力に対してすごい逆風が吹き荒れている今だからこそ、日本のエネルギー先進地としての六ヶ所村は、ますます注目されていくだろうと思います。

日本ではエネルギーの安全保障と地球温

暖化防止の観点から、「原子力発電」と「核燃料サイクル」を国策として進めてきました。今の状況を踏まえてゆくゆくは六ヶ所村に放射線関連の地場産業が生まれ、八戸市から六ヶ所村と下北半島の原子力関連施設をつなぐ道路や交通網が整備されるべきと考えています。

サイクロトロン^{※1}・ラジオアイソトープ^{※2}センター(CYRIC)と、分室の役割とは。

石井 1979年に東北大学に創立されたサイクロトロン・ラジオアイソトープセンターは、「サイクロトロン」の多目的利用、「ラジオアイソトープ」の安全取扱い等に関する教育・訓練を目的とした施設です。

2010年に六ヶ所村に開設された分室には、「核燃料科学研究部」と「放射線高度利用研究部」が設置され、それぞれ、原子燃料サイクルから排出される「高レベル放

射性廃棄物の高度分離」と「放射性同位元素の高度利用」を目的に、新原子力利用の研究を進めています。



※1 サイクロトロン:強い磁界と高周波電界を用いて、真空中でイオンを加速する装置。イオンの円運動の周期がその速度にかかわらず一定であることを利用し、高周波電場とイオンの円運動周期を共鳴させながら加速することによって、イオンを高エネルギーまで加速することを可能にした。

※2 ラジオアイソトープ(RI):放射性(ラジオ)の同位元素(アイソトープ)。ラジオアイソトープを用いた医薬品を放射性医薬品と呼び、その中に含まれるRIから出る放射線を利用して、さまざまな疾患の診断や治療に用いられる。

国内での優秀な技術者や研究者の育成が急がれるなか 六ヶ所村が担うべき役割はとて大きいのですね。

Rokkasho Village's role is very important because the development of highly capable engineers and researchers in Japan is an urgent issue.

CYRICの分室を、なぜ六ヶ所村に作る うと思ったのでしょうか。

石井 実は随分前から、こういった原子力教育の拠点を六ヶ所村に作る必要性を我々は感じていました。というのも日本のエネルギーを考えた時に、核燃料サイクルが一番経済的であり重要であり、その拠点が六ヶ所村にあったというわけです。そのために原子力分野における優秀な技術者・研究者を育成・確保し世界に輩出していくことが極めて重要となっています。

そのため青森県では六ヶ所村を中心とする地域において、国内の大学や研究機関と連携融合による原子力人材育成・研究開発センター構想の実現を目指しております。たとえば日本原燃(株)で働く社員の皆さんは20代の若い人たちが圧倒的に多いのですが、原子燃料サイクルというのは非常に高度な技術ですから、「もう

一度勉強したい」という人たちも当然出てきます。我々はただ企業を誘致すれば良いということではなく、しっかりした教育機関を置くことで若者たちのやる気を育てようと考えました。

そこで日本原燃(株)と話し合い、実はCYRIC六ヶ所村分室ができる一年ほど前から、六ヶ所村文化交流プラザ「スワニー」の一室を借りて量子エネルギー工学専攻六ヶ所校の授業をスタートさせました。

CYRIC分室の現況と具体的な研究について、教えていただきたいのですが。

石井 六ヶ所校は現在、希望者に対して狭き門になっています。毎年2~3人ずつ入り、1学年2人位として10人程が研究に取り組んでいますが、そういう人たちがどんどん増えているというのが現状です。実は

今年はいじめて六ヶ所校から博士課程修了者が出ました。我々としても日本原燃(株)へ戻ったらリーダーシップを取り、原燃のレベルアップに繋げてもらいたいと期待を寄せています。

次に我々の具体的な研究内容についてです。通常、日本原燃(株)に使用済み核燃料が搬入されると、利用できる核燃料はもう一回りサイクルに回され、要らなくなった高レベル放射性廃棄物はガラス固化体にして一時貯蔵されます。我々はこの高レベル放射性廃棄物から特定のRIを取り出し、たとえば「熱」や「放射線特性」を利用しようという研究を行っています。研究部門としては「高レベル放射性廃棄物から抽出する高度分離技術の開発」と「高度分離された放射性同位元素(RI)を多様な分野に利用するための技術開発」という二つの分野で、実用化を目指した半導体検出器の開発などを進めているところです。

NOW



先端エネルギーを介して国内外の研究者が集まり 交歓する場としての六ヶ所村を想像してみてください。

Imagine Rokkasho Village as a place where Japanese and non-Japanese researchers come together and engage in international exchange via the field of advanced energy.

再処理工場が本格操業していない中で の研究とは、どういったものですか。

石井 再処理工場はまだ実用化に至っていませんが、基礎研究はどんどん進んでいます。具体的には最初の5年間で、非放射性元素を使った科学的反応を模擬実験で検証し、次の5年間で実際に放射性物質を使った研究を進めようと計画しています。青森県では六ヶ所村を中心とした地域に、原子力教育・研究の新たな活動拠点開設に向けた取り組み、つまり大学同士、あるいは大学と研究機関・産業界が連携し、さらに地方自治体や国が関与しながら原子力教育や研究を進めるために、常に情報交換を行えるネットワークづくり

を進めています。具体的なお話をすれば、青森県と我々とで「原子力人材育成・研究開発センター(仮称)」を作り、そこに「RI実験室」を設ける計画も進んでいます。そのためにも学生たちが滞在できる環境を整えることはもちろん、原子力に関するセミナー・シンポジウム・サマースクールなど教育プログラムが構築できればと考えております。

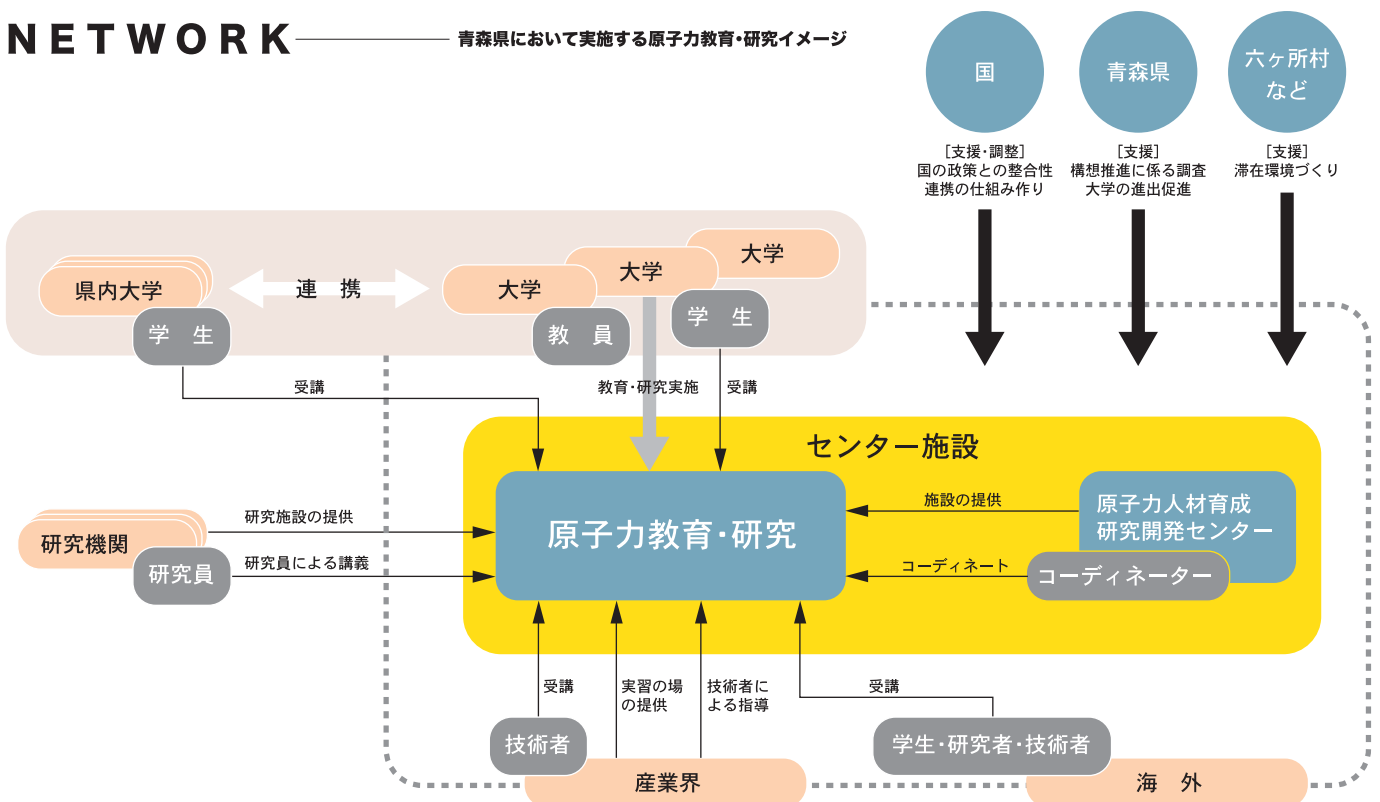
石井先生の研究に関連して、今後の六ヶ所村に期待することはありますか。

石井 我々の研究が実用化されることによって、やがてはここ六ヶ所村で放射線に関連した地場産業が育ってくれればと

思っています。例えば陽電子放射断層撮影(PET)^{※3}。我々は「放射線高度利用研究部」で半導体検出器を開発していますが、この半導体検出器がPETに使えるようになれば、高価な「半導体PET」が今より低価格で販売されることが可能となります。

PETは今から30年くらい前に、米国ノックスビルの町から売り出されました。最初は40名程の小さな会社も今では社員500名にもものぼる企業に成長。それにとどまらず周辺には関連企業が集まり、PETひとつで小さな町が大きな発展を遂げました。そんなイメージを六ヶ所村に抱いています。そのためにも現在の研究が早期に実用化できればと願っています。

NETWORK 青森県において実施する原子力教育・研究イメージ

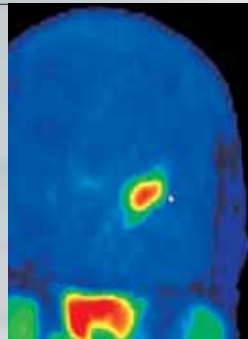




Eminence
STARGATE

SHIMADZU

PET



※3 陽電子放射断層撮影(PET) : 特に医療分野において、特殊な検査薬で癌細胞に目印をつけ早期発見をはかるPET検査が注目されている。



大震災を踏まえて我々がこれから成すべきことは 科学による人々の幸福の追求にほかなりません。

What we should do after the Great Tohoku Earthquake of 2011 is engage in the pursuit of happiness for the people through science.

人の知恵というものを科学の中に、どう 生かしていくべきでしょうか。

石井 科学は何でもかんでも使えばいいというわけではなく、人の幸せのために使われるべきものです。まず、科学に因らない産業なんてないでしょう。我々にとって身近な農業の発展にも科学はなくてはならないものとなっていますし、そのことは歴史が証明しています。先ほどお話したPETにしても、放射性物質を体に投与することで癌細胞を特定する装置です。最初は放射線と聞くだけでみんなびくりにして怖がっていたのに、今ではたくさんの人々がPET診断を受けていますね。だからこそ科学は使いようによっては非常に有効であって、正しく使えば我々を幸せにしてくれるのは確かだと思っています。ただし反面、正しく使わなければ大変なことになってしまうのも事実です。

今我々は、正しく使われなかった放射能を元に戻す方法を、まさに科学を使って研究しています。我々は震災によって引き起こされた福島の原子力発電所の事故も、科学で元に戻すことができると信じています。科学は正しく使う。そのために安全性を徹底的に追及していくことが科学者の責務ではないでしょうか。

六ヶ所村に日本原燃(株)があることを、 どう捉えるべきでしょうか。

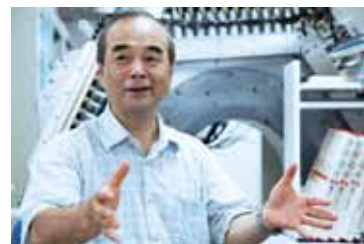
石井 日本原燃(株)は社員2,400人余もの社員を抱える青森県最大の企業です。ところが、2千人以上の大企業が六ヶ所村にあるという事実が意外と認識されていないと感じています。大企業の周辺にはいろい

ろな会社が集まってくるものですが、そうっていないのが現状です。本来なら日本原燃(株)を中心として、いろいろな放射線産業の人たちが一緒になって研究開発を進め、やがて新しい地場産業がここで生まれる形が理想的なのですが。

実は日本原燃(株)ができた当初には、100家族ものフランス人が六ヶ所村に赴任して来たといいますが、多くの家族が三沢市に住んで六ヶ所村に通っていたのですね。あの時も「六ヶ所村に教会を中心とした街並みを整備して、フランスの田舎町にあるような小さなフランス村を作っても面白いな」などと考えていました。

今もヨーロッパからITER(国際熱核融合実験炉)計画関連の研究者家族が赴任していますから、アイデアとチャンスはこれからもあるはずですよ。

少なくとも日本原燃(株)が六ヶ所村にある間は、いろいろな可能性が考えられると思っています。何か魅力的なものがあれば、人々はそこに住みつきますし、外からも集まってくるものです。今後さらに六ヶ所村を魅力的なまちにしていく工夫も必要ではないでしょうか。



石井慶造 (いしいけいぞう)

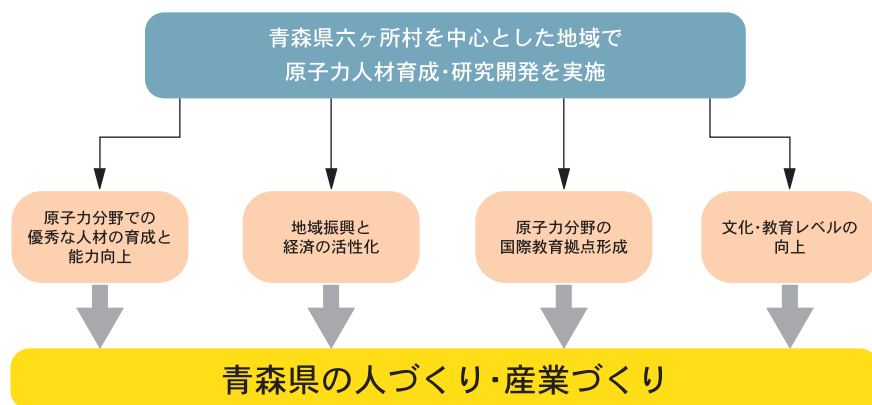
東北大学大学院工学研究科
量子エネルギー工学専攻 教授
(研究分野)
医学、生命科学、環境汚染、考古学等への
ための放射線技術の開発
(所属学会・団体)
PIXE研究協会・会長(2000～)
PIXE国際会議・国際諮問委員(2004～)
Bio-PIXE国際シンポジウム・国際諮問委員
(1992～)
日本原子力学会・理事(2009～2011)
日本アイソトープ協会・理事(2006～)

Keizo Ishii

Tohoku University Graduate School
School of Engineering
Department of Quantum Science and Energy
Engineering Professor
<Area of Research>
Development of Radiation technology for Medicine,
Life Science, Environmental pollution, Archeology etc.
<Affiliation society>
The Japan Society for Particle Induced X-ray
Emission (PIXE) Research, President(2000～)
The International Conference on Particle Induced
X-ray Emission(PIXE) and its Applications,
International Advisory Committee (2004～)
The International symposium on Bio-PIXE,
International Advisory Committee (1992～)
Atomic Energy Society of Japan, Director
(2009～2011)
Japan Radioisotope Association, Director(2006～)
Management committee (1992～) director

PROFILE

CONCEPT





Re:FUTURE

村民の声を聞くために 行政・議会

ごあいさつ



豊かで活力ある六ヶ所村を目指して

六ヶ所村長 古川 健治

この度の村勢要覧の発刊は、平成18年度に10年間の総合的かつ長期的なまちづくりの指針として策定した「第三次六ヶ所村総合振興計画」の後半部分に当たる現在の六ヶ所村の姿と将来像として掲げた目標の実現に向けた諸施策の概要を取りまとめたものです。

目標として掲げた村の将来像としてのキャッチフレーズは『自然が彩る豊かな未来を拓く「躍進・発展のまち」～人と文化を育み科学と産業がはばたく～』であります。

恵まれた自然に囲まれながら、経済的にも精神的にも満たされる理想的な暮らしを究極的な目標に、人(人材の育成)・文化(精神を豊かにする活動)・科学(高度な研究実践)・産業(経済的な発展)を中心的な取り組みの柱に掲げ、躍進・発展するまちの実現を目指すものであります。

実現を図るための私の使命は、山積している重要課題について、それぞれの目的に沿って解決をし、時間のかかるものについては一定の方向付けと基盤整備をして、村民の幸福と村の躍進・発展につなげていく仕事を強い決意を持って計画的に進めることと考えております。

村政の運営に当たっては、「安全・安心なくして村の発展なし」、「教育と福祉の充実なくして村の発展なし」、「協和の精神なくして村の発展なし」を基本理念として、公約の主眼に掲げた第三次六ヶ所村総合振興計画の具体化を図りながら

「豊かで活力ある第一次産業と共生のエネルギーの村・六ヶ所」の実現を目指して参ります。

この村勢要覧を通し、山積する重要課題「より輝く未来を創る」六つの鍵を含め、村の現状と目標を実現するための諸施策についてご理解をいただくとともに、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

Greetings Mayor Kenji Furukawa

Making Rokkasho Village prosperous and energetic

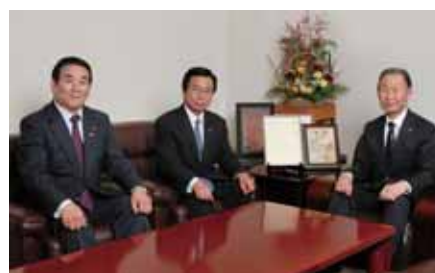
We are now in the latter half of our 10-year project, the Rokkasho Village Third General Development Plan, which was developed in 2006 as guidelines for the comprehensive and long-term community planning for Rokkasho Village over a 10-year period. This survey outlines the current situation of Rokkasho Village, during the latter half of the 10-year project and various measures that are designed to realize the village's future goals.

Our catchphrase that represents the future vision of Rokkasho Village is "a place with bountiful nature in pursuit of rapid growth and the cultivation of people, culture, science, and industry."

Our ultimate aim is an ideal life, both financially and spiritually, that is surrounded by a bountiful natural environment. We have set out to realize the rapid growth of Rokkasho Village with an eye on people (personnel training), culture (mentally stimulating activities), science (advanced research), and industry (economic development). My mission for realizing this rapid growth is to solve the important issues related to each objective, to find the way forward and provide the required infrastructure in the case of time-consuming issues, and to proceed with my duties with commitment and in a systematic fashion in order to achieve happiness for the people of the village and its rapid growth.

In my governing of Rokkasho, I aim to realize the revitalization of primary industries, together with making our village into one that is both energy-oriented and harmonious by implementing the Rokkasho Village Third General Development Plan, as I promised during my campaign. My fundamental principle in this endeavor shall be to ensure that village development is always done in a safe manner, is accompanied by improvements in education and welfare, and is done in the spirit of cooperation.

I hope that I can look forward to your understanding and support with regard to our village's current situation and the diverse measures that we are taking in order to realize our goals, including the six keys to the creation of a better future, as described in this survey of Rokkasho Village.



村長:古川健治(右)
副村長:戸田衛(中)
教育長:松尾拓爾(左)



行政について

村民とともに歩む六ヶ所村

六ヶ所村は国が推進するむつ小川原開発や原子燃料サイクル事業の一翼を担うことで、他の市町村とは大きく異なる特性を有しています。非常にデリケートな問題もはらんでいることからガラス張りの行政運営を目指し、ホームページや広報誌で村が行う各種事業の進捗や財政状況など情報公開を積極的に進めるとともに、村民の意向を取り入れる機会を設け村民の行政への参画を拡大しています。また、行政サービスの面でも合理化を目指し、手続きのオンライン化や村民情報のセキュリティ確保に努めています。

議会について

より良い村づくりを目指して

村議会は現在18名の議員によって運営されています。本会議は年4回の定例会のほか、必要に応じて臨時会が開かれ、出された議案などについて審議します。また、村民から提出された陳情などを専門的な立場で審議を進めるのが「総務企画」「産業建設」「福祉教育」の3常任委員会です。任期は4年。議員はいずれかの常任委員会に所属します。

また、村議会においては、「むつ小川原開発」や「原子燃料サイクル事業」などに関連し、地域振興や立地企業の安全対策などを調査する特別委員会が設置されています。



六ヶ所村役場外観

議員 Village Assembly Men



高田 博光



鳥山 義隆



鳥谷部 正行



木村 廣正



高橋 文雄



岡山 勝廣



橋本 勲



小泉 勉



木村 常紀



橋本 喜代二



松本 光明



橋本 隆春



小泉 靖美



附田 義美



副議長 相内 宏一



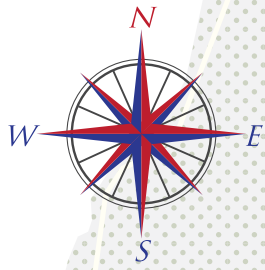
中村 勉



三角 武男



議長 橋本 猛一



村概略図

OUTLINE and MAP

六ヶ所村のシンボル



■ 村の鳥 オジロワシ



■ 村の木 クロマツ



■ 村の花 ニッコウキスゲ



村章
六ヶ所村の六の字を図案化したもので、上部には躍進発展を、下部の二線は村民協和を力強く表現した。
(昭和41年2月制定)

村民憲章

わたしたちは、恵まれた自然とたゆみない努力を続けてきた祖先の心を受けつぎ、郷土がますます発展することを願い、産業と科学・文化が共栄する新しい郷土をめざし、力をあわせて実践するためここに村民憲章を定めます。
(昭和55年11月3日制定) (平成17年11月3日改定)

- 一、わたしたちは、太平洋のような広い心を持ち、人間愛に満ちた村民になります。
- 一、わたしたちは、小川原湖のような大きな希望を持ち、進んで協力する村民になります。
- 一、わたしたちは、貴宝山のような気高さをもち、心身ともに健全な村民になります。
- 一、わたしたちは、老部川のような清い心を持ち、親切で礼儀正しい村民になります。
- 一、わたしたちは、七鞍平のようなおらかな心を持ち、郷土を愛する村民になります。

DATA

北緯	南端40°50' / 北端41°08'
東経	東端141°24' / 141°14'
広さ	東西14km / 南北33km
面積	253.01km ²
隣接	東 / 太平洋 西 / 野辺地町・横浜町 南 / 三沢市・東北町 北 / 東通村
人口	11,095人 (平成23年7月現在)
世帯数	4,751世帯 (平成23年7月現在)
教育	幼稚園……1 小学校……5 中学校……4 高等学校……1
医療施設	診療所……4
議員数	18*
選挙人名簿登録者数	9,193人 (平成22年9月現在)
実質公債比率	5.5% (平成22年度)
経常収支比率	70.4% (平成22年度)
財政力指数	1.724 (平成22年度)

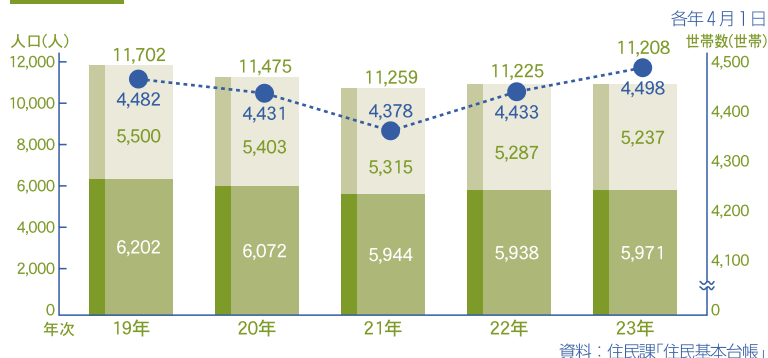
*議員数は任期は平成23年4月30日から27年4月29日の人数です。



資料編

DATA

人口 人口と世帯の推移



村民生活 一人当たり村民所得

※平成8年度分以降の数値については、基礎資料や一部推計方法等の変更により、六ヶ所村統計書の数値とは基本的に接続しない

年次	1人当たり所得(円)		1人当たり所得比率(%)
	村	県	
16年	2,880,000	2,198,000	131.0
17年	3,204,000	2,206,000	145.3
18年	22,287,000	2,464,000	904.4
19年	15,385,000	2,455,000	626.8
20年	13,636,000	2,369,000	575.5

資料：平成20年度市町村村民経済計算

気象 気象概況

年次	気温(℃)					風速(m/sec)	降水量(mm)			日照時間
	平均			極			総量	最大日量	月日	
	平均	最高	最低	最高	最低	時間数				
18年	8.9	12.8	5.5	34.0	-10.4	2.4	1380.0	112	10月7日	1405.7
19年	9.8	13.6	6.3	32.4	-7.2	2.2	1565.0	115	11月12日	1719.1
20年	9.4	13.4	5.9	30.4	-9.0	2.1	1198.0	51	6月24日	1658.6
21年	9.4	13.5	5.7	31.3	-10.0	2.0	1507.0	65	4月26日	1592.8
22年	9.8	13.8	6.4	33.5	-12.3	1.9	1437.0	65	7月10日	1485.2
23年	9.4	13.4	5.8	34.2	-10.5	1.9	1365.5	73	9月21日	1597.5

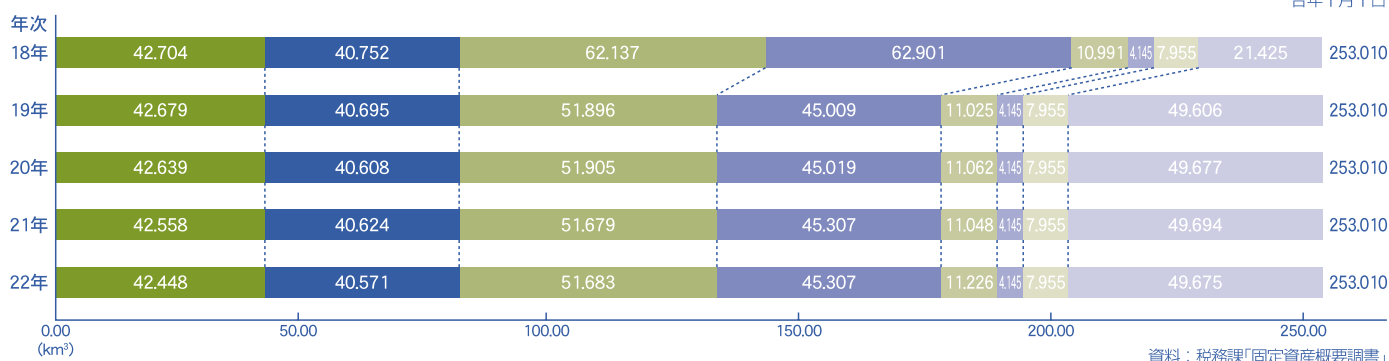
資料：青森地方気象台が管理する六ヶ所地域気象観測所

水道 給水人口と給水量

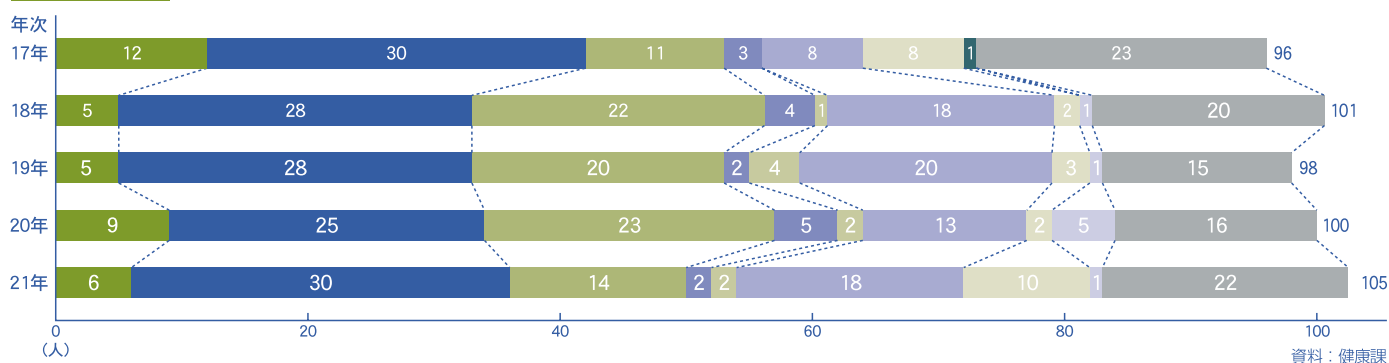
年度	給水区域		給水		普及率(%)	一人、1日最大給水量(ℓ)	1日最大配水量(m³)	年間配水量(m³)
	戸数(戸)	人口(人)	戸数(戸)	人口(人)				
18年	4,548	11,863	4,537	11,839	99.8	563	6,673	2,090,580
19年	4,500	11,649	4,491	11,628	99.8	557	6,477	2,081,232
20年	4,446	11,430	4,438	11,411	99.8	550	6,286	2,012,559
21年	4,509	11,413	4,501	11,394	99.8	588	6,709	1,996,280
22年	4,566	11,386	4,560	11,369	99.8	557	6,337	1,980,590

資料：上下水道課

土地 人口と世帯の推移



保健・衛生 死因別状況の推移



漁業 魚種別漁獲量(属地)

単位：t

区分	18年	19年	20年	21年	22年		
魚種	漁獲量	2,542.8	5,021.5	4,792.5	4,837.7	3,399.9	
魚種	まいわし	0.02	—	0.2	0.01	0.5	
	かつお	0.03	1.1	0.03	0.001	—	
	まぐろ	8.7	4.2	28.1	8.7	5.3	
	さば	229.9	277.2	45.9	3.3	18.3	
	ぶり	33.0	49.6	107.5	180.0	75.0	
	たら	1.2	6.1	7.2	2.5	4.5	
	さめ	0.5	0.3	0.3	1.6	0.8	
	たい	1.7	1.2	0.9	1.2	0.7	
	まがれい	1.6	1.8	1.9	0.9	2.4	
	いしがれい	5.5	12.4	2.5	5.5	5.9	
	ばばがれい	21.0	8.9	15.3	8.4	18.8	
	まごがれい	13.9	17.2	20.5	7.2	5.8	
	その他のがれい	14.3	11.3	10.0	15.1	11.3	
	ひらめ	138.2	99.9	114.5	76.2	104.7	
	ほっけ	—	0.1	—	2.3	0.9	
	あじ	0.06	2.5	0.002	0.004	1.5	
	さんま	0.3	4.9	0.7	0.1	0.01	
	さけ	433.5	298.5	404.8	111.2	269.6	
	さくらます	28.0	10.4	22.4	16.2	37.2	
	からぶとます	0.1	4.9	0.2	0.1	1.5	
	ごうなご	4.9	5.8	8.0	100.6	3.2	
	そい	4.6	3.1	3.7	5.5	7.0	
	あいなめ	1.2	0.7	1.0	1.3	1.1	
	うすめばる	—	0.8	1.4	1.8	1.0	
	その他めばる	3.3	—	—	—	—	
	めぬけ	0.3	0.5	0.8	0.3	0.3	
	きんきん	0.002	0.001	—	—	—	
	かながしら	0.05	—	0.004	—	—	
	あんこう	17.9	15.7	24.8	20.5	27.1	
	その他	33.8	61.7	31.1	21.5	24.9	
	小計	997.5	901.0	890.0	621.8	656.0	
	貝類	あわび	—	0.4	1.0	0.9	—
		ほっきがい	0.4	0.8	0.6	—	0.4
その他		—	0.2	0.5	0.6	0.1	
小計	0.4	1.4	2.1	1.5	0.5		
その他の水産動物	するめいか	1,443.9	3,915.1	3,729.4	4,012.0	2,491.2	
	やりいか	52.1	66.5	19.5	22.8	15.8	
	あかいか	—	30.4	0.9	—	—	
	その他のいか	0.4	0.1	0.1	—	2.7	
	たこ	9.4	14.0	18.8	15.6	13.9	
	かに	7.5	27.0	16.0	13.8	10.2	
	うに	—	48.5	26.0	30.0	71.5	
	その他	—	—	—	—	—	
小計	1,513.2	4,101.7	3,810.7	4,094.2	2,605.3		
草類	こんぶ	30.8	17.4	88.9	119.6	128.1	
	その他	0.8	—	0.8	0.5	—	
	小計	31.7	17.4	89.7	120.2	128.1	

資料：青森県海面漁業に関する調査結果

農作物 農作物の作付面積および収穫量

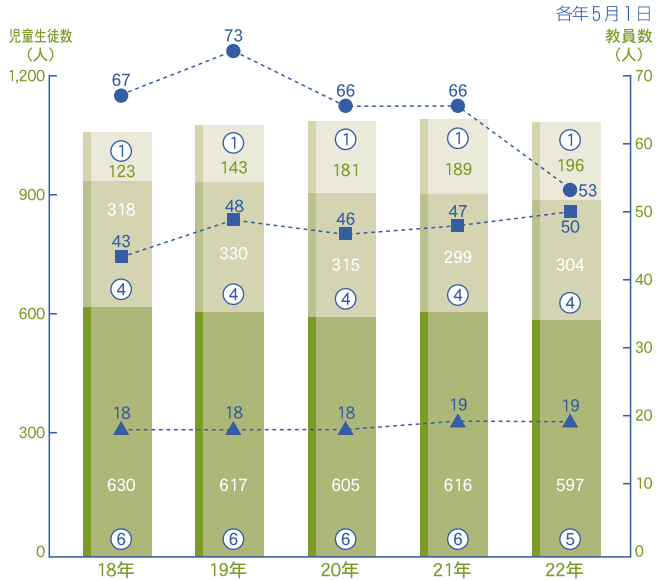
※平成6年度からは「かんしょ」に統一され、「ばれいしょ」は野菜に含まれた

区分	18年	19年	20年	21年	22年	
水稻	作付面積(ha)	152	150	132	123	122
	10a当収量(kg)	525	535	477	462	525
	収穫量(t)	798	803	630	568	641
豆類	作付面積(ha)	10	(大豆) 4	(大豆) 4	(大豆) 3	—
	収穫量(t)	12	(大豆) 6	(大豆) 5	(大豆) 3	—
麦類	作付面積(ha)	2	1	0	×	—
	収穫量(t)	—	—	—	×	—
飼料作物	作付面積(ha)	2,665	—	—	—	—
	収穫量(t)	108,600	—	—	—	—
野菜類	作付面積(ha)	770	765	751	—	—
	収穫量(t)	29,278	29,344	29,478	—	—

資料：農作物統計、園芸作物統計、野菜・果樹統計

教育 学校数・在学者数および教員数

児童生徒数/高等学校 ▲ 中学校 ■ 小学校 ● ○内は学校数
教員数/高等学校 ▲ 中学校 ■ 小学校 ● ○内は学校数



資料：学校基本調査、教育委員会、各教育機関

文化 六ヶ所村の文化財

名称	指定区分	指定年月日	数量	所有者・代表者	集落
泊のまるきぶね	国指定重要有形民俗文化財	1963(昭和38年).5.15	1隻	県立郷土館	泊
	大正12(1923)年頃、泊の三角久松氏が出戸の棚沢山のフナの木で作らせた。本州太平洋岸の丸木舟としては最北。				
大石平遺跡出土品	国指定重要文化財(考古資料)	1995(平成7年).6.15	一括(198個)	青森県埋蔵文化財調査センター	大石平
	縄文後期の集落と共に巨大木柱跡が発見された遺跡。赤漆切断彩色壺型蓋付土器や手形・足型付製品祭祀に用いられたものか。				
オジロワシ	国指定天然記念物(動物)	1970(昭和45年).1.23	—	—	地域を定めずに指定
	湖や川岸・森に生息し、小川原湖や湖沼群のウグイなどを餌にする。尾鰭に最も多く、湖沼群全体の個体数はおおよそ20。村の鳥。				
小川原湖のハクチョウ	県指定天然記念物(動物)	1972(昭和47年).12.5	—	—	小川原湖北端
	小川原湖にはオオハクチョウ・コハクチョウの両種が飛来する。カムチャツカから来るものと、サハリンから来るものとする。				
貴宝の神楽舞	村指定無形文化財(芸能)	1974(昭和49年).3.29	—	辻浦 英朗	泊
	貴宝山神社の神事で舞われる神楽。舞い手・舞い・楽は「諏訪の神楽」と同じ「泊神楽」。獅子神楽のうち太神楽に分類される。				
諏訪の神楽舞	村指定無形文化財(芸能)	1974(昭和49年).3.29	—	辻浦 英朗	泊
	諏訪神社の神事で舞われる。舞い手・舞い・楽は「貴宝の神楽」と同じ「泊神楽」。獅子神楽のうち太神楽に分類される。				
新山権現	村指定無形文化財(芸能)	1985(昭和60年).12.21	—	佐藤 石五郎	千歳平・新城平
	大正5年に甲地(現東北町)より習った新納屋集落の獅子舞が、むつ小川原開発に伴う集団移転で名称を変え復活したもの。				
大乗寺のいちい	村指定天然記念物(樹木)	1974(昭和49年).3.29	1本	大乗寺	泊
	樹齡300年を超える古木で、落雷により枝が損傷しているが、その緑は絶えることがない。				
千歳中学校のしなの木	村指定天然記念物(樹木)	1974(昭和49年).3.29	2本	千歳中学校	千歳
	指定書には「3本」と記載されているが、1本は外見上は2本でも根元でつながっている巨木。「菩提樹」と呼ばれ親しまれている。				
能登七右門文書	村指定有形文化財(古文書)	1974(昭和49年).3.29	9件	能登 鉄太郎	泊
	宝暦4(1754)年、七戸代官所が泊港で取引される諸品の役銭を定めたもの。当時の上方との物流の様子が分かる。				
秋忠文書	村指定有形文化財(古文書)	1979(昭和54年).3.12	2件	種市 忠敏	泊
	貴宝山をめぐる縁起や霊場争いの顛末などについて記されたもの。豊かなヒノキ山をめぐる文書もある。				
木村文書	村指定有形文化財(古文書)	1979(昭和54年).5.30	1件	木村 毅	倉内
	寛文12(1672)年に有戸の御野守別当となった木村家に伝わる文書。各集落の地名の由来についての言い伝えも書かれている。				

資料：社会教育課

財政

一般会計歳出予算及び決算

単位：千円・%

款	平成17年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	12,220,000	11,997,456	11,847,268	100.0
議会費	123,573	123,862	123,126	1.0
総務費	1,981,931	1,629,681	1,594,798	13.5
民生費	1,061,986	1,041,543	1,019,663	8.6
衛生費	710,461	648,169	641,106	5.4
労働費	1,300	1,300	1,046	0.0
農林水産業費	1,055,358	1,153,954	1,149,151	9.7
商工費	933,149	851,533	848,041	7.2
土木費	1,874,672	1,895,823	1,875,758	15.8
消防費	576,384	556,795	556,222	4.7
教育費	1,114,887	1,079,110	1,052,881	8.9
災害復旧費	200	200	0	0.0
公債費	383,805	381,317	381,312	3.2
諸支出金	2,372,294	2,604,169	2,604,164	22.0
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

款	平成18年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	10,670,000	10,519,592	10,276,192	100.0
議会費	129,627	120,867	119,684	1.2
総務費	1,670,583	1,593,390	1,566,202	15.2
民生費	1,165,705	1,198,791	1,159,411	11.3
衛生費	677,105	643,105	622,839	6.1
労働費	1,205	1,205	1,082	0.0
農林水産業費	1,366,132	1,386,873	1,381,187	13.4
商工費	181,935	243,545	187,688	1.8
土木費	1,592,585	1,457,731	1,439,567	14.0
消防費	572,361	558,933	556,376	5.4
教育費	1,229,656	1,173,404	1,131,543	11.0
災害復旧費	200	13,699	12,936	0.1
公債費	421,819	422,229	421,868	4.1
諸支出金	1,631,087	1,675,820	1,675,809	16.3
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

款	平成19年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	10,170,000	10,781,988	10,597,158	100.0
議会費	126,982	127,495	126,593	1.2
総務費	2,413,490	2,352,711	2,328,543	22.0
民生費	1,196,416	1,214,171	1,200,801	11.3
衛生費	691,122	617,945	611,678	5.8
労働費	664	664	609	0.0
農林水産業費	647,768	516,965	511,235	4.8
商工費	146,731	203,535	202,183	1.9
土木費	1,019,170	1,051,205	1,045,065	9.9
消防費	580,695	566,455	564,251	5.3
教育費	1,471,950	1,724,924	1,630,619	15.4
災害復旧費	860	13,629	13,516	0.1
公債費	420,261	416,601	416,381	3.9
諸支出金	1,423,891	1,945,688	1,945,684	18.4
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

款	平成20年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	10,390,000	10,574,847	10,088,151	100.0
議会費	134,566	133,544	132,226	1.3
総務費	2,241,320	2,006,752	1,964,431	19.5
民生費	1,426,860	1,604,529	1,545,856	15.3
衛生費	633,495	597,284	587,876	5.8
労働費	664	664	593	0.0
農林水産業費	906,080	1,200,435	924,824	9.2
商工費	138,706	208,311	206,777	2.0
土木費	1,093,387	1,000,031	986,380	9.8
消防費	590,806	592,401	591,031	5.9
教育費	1,286,551	1,354,352	1,302,428	12.9
災害復旧費	30,070	27,554	26,785	0.3
公債費	435,199	426,730	426,688	4.2
諸支出金	1,442,296	1,392,260	1,392,256	13.8
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

款	平成21年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	12,750,000	13,170,735	12,733,669	100.0
議会費	159,671	151,455	150,774	1.2
総務費	2,806,953	2,787,054	2,765,798	21.7
民生費	1,548,342	1,585,785	1,551,606	12.2
衛生費	654,732	630,050	610,178	4.8
労働費	664	664	571	0.0
農林水産業費	1,343,476	1,937,193	1,914,746	15.0
商工費	133,092	136,020	134,992	1.1
土木費	1,173,769	1,066,446	1,033,200	8.1
消防費	592,441	582,336	581,838	4.6
教育費	2,496,342	2,367,066	2,093,503	16.4
災害復旧費	200	200	4	0.0
公債費	455,134	453,676	453,674	3.6
諸支出金	1,355,184	1,442,790	1,442,785	11.3
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

款	平成22年度			
	予算額		決算額	構成比
	当初	最終		
総額	14,060,000	13,809,865	13,355,394	100.0
議会費	132,981	127,675	126,988	1.0
総務費	3,409,964	2,972,592	2,944,120	22.0
民生費	1,542,121	1,699,148	1,636,336	12.3
衛生費	657,567	709,753	657,791	4.9
労働費	664	664	645	0.0
農林水産業費	964,845	917,528	912,486	6.8
商工費	171,443	170,109	168,600	1.3
土木費	1,389,220	1,392,537	1,222,109	9.2
消防費	617,554	618,050	617,495	4.6
教育費	3,211,806	3,219,625	3,116,975	23.3
災害復旧費	200	200	0	0.0
公債費	451,493	450,539	450,420	3.4
諸支出金	1,480,142	1,501,445	1,501,429	11.2
予備費	30,000	30,000	0	0.0
その他	—	—	—	—

資料：決算書

行政

歴代村長一覧

	氏名	就任期間
初代	工藤 壽平	明治22.5.15~明治25.5.14
2	渡部 政之助	明治25.5.15~明治29.5.14
3~4	菅 保次郎	明治29.5.15~明治37.10.1
5	高田 達也	明治37.10.2~明治41.10.1
6~7	渡部 泰敏	明治41.10.10~大正4.10.6
8	笠尾 善太郎	大正5.6.20~大正9.6.19
9	高橋 毅郎	大正10.1.25~大正11.2.17
10	高村 太助	大正12.5.15~大正13.3.21
11~12	高田 達也	大正13.4.5~昭和7.4.4
13	高村 太助	昭和7.4.5~昭和11.4.4
14	米田 興太郎	昭和11.4.5~昭和15.4.4
15	南 安太郎	昭和15.4.17~昭和19.4.4
16	福田 富雄	昭和19.4.17~昭和21.1.6
17	橋本 勝太郎	昭和21.1.7~昭和21.10.30
18~20	佐々木 高壽	昭和22.4.6~昭和34.5.2
21~22	沼田 正	昭和34.5.3~昭和41.12.4
23	種市 栄太郎	昭和42.1.11~昭和44.11.17
24	寺下 力三郎	昭和44.12.21~昭和48.12.19
25~28	古川 伊勢松	昭和48.12.20~平成元.12.19
29~30	土田 浩	平成元.12.20~平成9.12.19
31~32	橋本 寿	平成9.12.20~平成14.5.18
33~35	古川 健治	平成14.7.7~在任中

歴代助役・副村長一覧

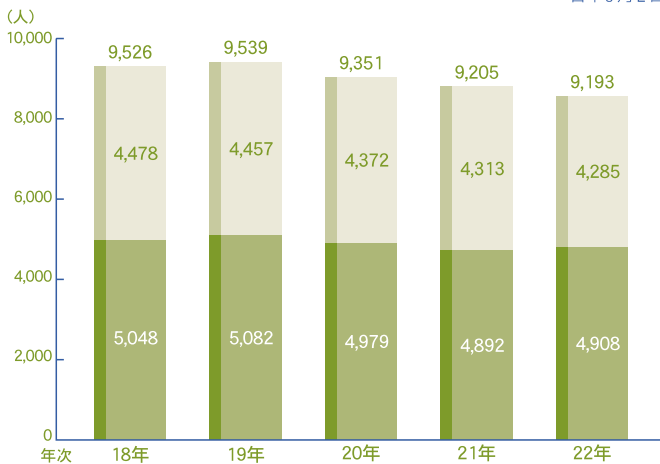
法改正により平成19年4月1日から副村長

	氏名	就任期間
初代	渡部 政之助	明治22.5.15~明治25.5.14
2~3	橋本市之助	明治25.5.15~明治33.5.14
4	橋本 儀助	明治33.5.15~明治37.5.14
5	渡部 政之助	明治37.7.9~明治40.12.15
6	橋本 佐助	明治41.2.6~明治42.2.5
7	佐々木 末治	明治45.2.6~大正2.2.5
8	大庭 房五郎	大正2.2.6~大正4.6.19
9	笠尾 善太郎	大正4.6.20~大正5.6.19
10	橋本 佐助	大正5.11.6~大正8.11.14
11	橋本 久之助	大正8.11.15~大正11.2.17
12	川上 千代吉	大正11.5.20~大正13.3.31
13	二本柳 佐三	大正13.8.1~大正14.7.31
14	乙供 数馬	大正14.8.1~昭和3.3.19
15~16	阿部 留吉	昭和3.3.20~昭和11.1.5
17	服部 悟	昭和12.4.5~昭和16.4.4
18~19	橋本 勝太郎	昭和16.4.5~昭和21.1.6
20	佐々木 高壽	昭和21.2.23~昭和22.4.5
21~22	橋本 光三郎	昭和22.5.15~昭和30.5.10
23	松尾 正五	昭和30.6.1~昭和34.5.31
24~26	寺下 力三郎	昭和35.3.25~昭和44.11.17
27~28	橋本 徳保	昭和45.12.15~平成元.12.19
31~32	橋本 勲	平成2.12.16~平成9.12.19
33	橋本 左内	平成10.3.13~平成14.3.12
34~36	戸田 衛	平成14.3.26~在任中

選挙人名簿登録者数

男 ■ 女 ■

各年9月2日



歴代収入役

法改正により廃止

	氏名	就任期間
初代	渡部 政之助	明治22.5.15~明治25.5.14
2	橋本 重治郎	明治25.5.15~明治29.6.19
3	高村 太助	明治29.6.20~明治33.9.30
4	橋本 重治郎	明治33.10.1~明治37.9.30
5	高橋 市郎	明治37.10.1~明治39.9.30
6	市川 光一	明治39.10.1~明治41.9.30
7	橋本 半三	明治41.10.1~明治45.9.30
8	高田 豊松	明治45.10.1~大正4.9.30
9	高村 常太郎	大正4.10.1~大正8.3.18
10	高村 清太郎	大正8.10.1~大正11.2.17
11~14	田中 喜太郎	大正11.11.1~昭和11.4.4
15	南 安太郎	昭和12.1.13~昭和15.4.4
16~17	高田 嘉市	昭和15.4.27~昭和22.5.10
18~19	松尾 正五	昭和22.5.11~昭和30.5.10
20~21	高橋 鐵雄	昭和30.9.29~昭和38.3.27
22~23	高橋 市之助	昭和38.5.10~昭和46.5.9
24~25	福田 嘉富	昭和46.7.13~昭和54.7.12
26~27	橋本 金策	昭和54.9.21~昭和61.6.1
28	橋本 佐内	昭和61.10.1~平成元.12.18
29~30	古泊 宏	平成2.12.16~平成9.12.19
31	高橋 源藏	平成10.3.13~平成14.3.12
32~33	種市 秋光	平成14.3.26~平成22.3.25

歴代教育長一覧

	氏名	就任期間
初代	橋本 光三郎	昭和27.11.1~昭和28.3.31
2	有本 崧賢	昭和28.4.1~昭和35.9.30
3~4	田中 澄	昭和36.2.17~平成3.10.3
5	橋本 寿	平成3.10.5~平成9.10.6
6	古川 健治	平成10.2.5~平成14.6.19
7	高橋 隆二	平成14.12.17~平成19.7.14
8	松尾 拓爾	平成19.7.18~在任中

歴代議長一覧

	氏名	就任期間
初代	三角 久松	昭和22.4.29~昭和23.5.11
2	川畑 松太郎	昭和23.5.16~昭和26.4.20
3	木村 政次郎	昭和26.4.30~昭和30.4.30
4	沼田 正	昭和30.5.10~昭和34.3.30
5	川畑 松太郎	昭和34.5.8~昭和38.4.30
6	円子 秀雄	昭和38.5.11~昭和42.4.3
7	中村 正七	昭和42.5.6~昭和43.12.12
8	佐藤 繁作	昭和43.12.13~昭和46.4.30
9	古川 伊勢松	昭和46.5.4~昭和48.10.25
10~11	古泊 實	昭和48.10.26~昭和54.4.29
12	沼辺 綱雄	昭和54.5.4~昭和58.4.29
13	橋本 猛雄	昭和58.5.13~昭和59.2.19
14	小泉 時男	昭和59.3.8~昭和62.4.29
15~16	橋本 道三郎	昭和62.5.12~平成6.12.25
17	寺下 末松	平成7.1.30~平成7.4.29
18	辻浦 鶴松	平成7.5.18~平成11.4.29
19	中嶋 武満	平成11.5.13~平成15.4.29
20	大湊 茂	平成15.5.14~平成19.4.29
21	三角 武男	平成19.5.10~平成23.4.29
22	橋本 猛一	平成23.5.12~在任中

歴代副議長一覧

	氏名	就任期間
初代	沼田 正	昭和22.4.29~昭和26.4.20
2	目時 喜一郎	昭和26.4.30~昭和30.4.30
3	佐藤 繁作	昭和30.5.8~昭和34.4.29
4	木村 伊三郎	昭和34.5.8~昭和42.4.29
5	沼尾 忠男	昭和42.5.8~昭和46.4.30
6	木村 市雄	昭和46.5.4~昭和50.4.29
7	沼辺 綱雄	昭和50.5.8~昭和54.4.29
8	中嶋 武雄	昭和54.5.4~昭和58.4.29
9	小泉 時男	昭和58.5.13~昭和59.3.7
10	及川 昇三	昭和59.3.8~昭和62.4.29
11	佐藤 鐵夫	昭和62.5.12~平成3.4.29
12	寺下 末松	平成3.5.16~平成7.1.30
13	辻浦 鶴松	平成7.1.30~平成7.4.29
14	秋戸 喜代美	平成7.5.18~平成11.4.29
15	中村 勉	平成11.5.13~平成15.4.29
16	鳥山 和一郎	平成15.5.14~平成19.4.29
17	高田 竹五郎	平成19.5.10~平成23.4.29
18	相内 宏一	平成23.5.12~在任中

六ヶ所村歴史年表

802	延暦21	泊の諏訪神社が建立。	1945	昭和20・7・15	米艦載機の銃撃により出戸で男性1人、平沼で女性1人、倉内で男性1人死亡。米潜水艦の雷撃により泊で女性1人死亡。	
951	天曆5	後選和歌集に「尾駮の駒」の名がでてくる。		8・9	米艦載機の爆撃で鷹架小学校1教室が壊れ、民家13戸焼失、二又住民2人死亡(男女)住家焼失。	
1086	応徳3	後拾遺和歌集に「尾駮の駒」の名がでてくる。		10	米軍の爆撃による尾駮大火。21世帯焼失。	
1213	建保元	古歌で詠われた尾駮の牧が再興、蟻渡野と改称。	1946	昭和21・1・15	戸鎖青年団設立。	
1583	天正11	泊の大乗寺が開山。		3・10	室ノ久保青年団設立。	
1645	慶安4・8・2	泊の中山崎に船の遠見御番所が設置される。		5・2	千歳地区に開拓者入植。	
1667	寛文7・2・18	南部藩が、海運についての高札を泊、平沼に建立。(間)	1947	昭和22・4・4	尾駮中学校創立。(昭和38年より第一中学校)	
1673	延宝元・9・11	南部藩、陸奥運河開削のため藩士派遣。実地調査と測量を実施。		11	千歳小学校創立。(昭和52年千歳平小学校へ統合)	
				21	戸鎖中学校創立。(昭和24年室ノ久保中学校と改称。平成18年第一中学校へ統合)	
1682	天和2・9・29	平沼の平安寺が開山。		22	泊中学校創立。	
1727	享保12・5・28	七戸代官所が尾駮ニシンに十匹一文の税金を課す。		28	弥栄平入植式。	
1748	寛延元・6	幕府巡見使尾駮村通過。		5・21	倉内中学校創立。(平成8年より第二中学校)	
1788	天明8・8・28	幕府巡見使一行が泊から平沼へ歩く。		7・10	農林省上北馬鈴薯原々種農場が設立。	
1801	享和元・10・13	伊能忠敬が測量のため平沼から泊海岸をまわる。		9・1	鷹架中学校創立。(昭和38年より第一中学校)	
1804	文化元・3・1	南部16ヶ所港として北郡泊湊が記される。	1948	昭和23・9	平沼中学校創立。(平成8年より第二中学校)	
1848	嘉永元	泊・尾駮・平沼に台場建設。		12・1	出戸小学校石川分校創立。(昭和41年廃校)	
1863	文久3・8・5	野辺地の神力丸が平沼沖で遭難。	1949	昭和24・1・27	戸鎖、室ノ久保に電灯が点灯。	
1873	明治6	広沢安任が小川川原湖と陸奥湾を結ぶ運河を計画。		4・1	上弥栄小学校創立。(昭和54年尾駮小学校へ統合)	
1876	明治9・4・15	泊小学校創立。		9・8	六ヶ所村海水漁業協同組合設立。	
				9・8	出戸中学校創立。(昭和39年第一中学校へ統合)	
1877	明治10・10・1	野辺地警察署の泊分署が設置される。	1950	昭和25・7・5	中志中学校創立。(平成8年より第二中学校)	
1878	明治11	平沼小学校創立。		12	泊港が漁港(第1種)に指定。	
				12・7	出戸で漁船が転覆。6人救助、9人死亡。	
	3・6	倉内小学校創立。	1951	昭和26・7・10	千歳中学校創立。	
	8・4	尾駮小学校創立。		1	二又中学校創立。(昭和39年第一中学校へ統合)	
1879	明治12・1・14	平沼ほか5ヶ所の戸長役場を平沼に設置。		11・1	村教育委員会発足。	
	28	選畜場が倉内の七鞍平に設置される。	1952	昭和27・4・1	千歳小学校豊原分校創立。(昭和42年廃校)	
1880	明治13	鷹架小学校創立。(昭和52年廃校)		10・10	村に強い霜が降り、水田700町歩、大豆など450町歩が半作。	
1881	明治14・8・1	泊村郵便局開設。		10	二又に電灯が点灯。	
1888	明治21・4・1	平沼郵便局開設。	1954	昭和29・1・20	弥栄平中学校創立。(昭和45年第一中学校へ統合)	
1889	明治22・4・1	町村制施行により、倉内・平沼・鷹架・尾駮・出戸・泊の6か村を統一して六ヶ所村となり、役場を平沼に置く。		11・3	倉内大火で98戸全焼。	
				8	芋ヶ崎(六原)に電灯が点灯。	
1890	明治23・8・11	村が八戸治安裁判所から野辺地地区裁判所の管轄となる。		10・15	平沼の港が漁港(第1種)に指定。	
1893	明治26・5・21	海軍大尉郡司成忠一行10人乗りの報効丸(30t)が、占守島へ向かう途中、大時化で出戸海岸に遭難。		21	倉内簡易水道完成。	
				31	千歳、庄内に電灯が点灯。	
1896	明治29・6・15	三陸津波により、村一帯の海岸の漁具一式が流される。	1956	昭和31・3・31	第2新納屋、第2平沼・笹崎に電灯が点灯。	
1898	明治31・10・15	戸鎖小学校創立。(平成22年尾駮小学校へ統合)	1957	昭和32・11・10	石川地区に電灯が点灯。	
1900	明治33・4	二又小学校創立。(平成16年尾駮小学校へ統合)	1958	昭和33・10・25	平沼簡易水道完成。	
				31	村連合PTA結成。	
1903	明治36・3・24	平沼郵便局で小包郵便の取扱開始。		6・22	陸上自衛隊臨時対空射場(演習場)設立。	
				7・20	尾駮海岸で東大のロケット実験実施。発射台の不備で失敗。	
	4	泊漁業組合設立。		26	下北バス株式会社の泊線開通。	
	4・15	平沼青年団設立。		3・31	泊簡易水道完成。	
	5・29	出戸小学校創立。(昭和39年尾駮小学校へ統合)	1961	昭和36・6・13	尾駮海岸で東大の第1次ロケット本実験実施。18日2号機打上に成功。	
1907	明治40	六ヶ所漁協組合設立。		10・5	5月からの豪雨により降水量210ミリを記録。	
1908	明治41・4	軍馬の放牧場が倉内に設置される。		26	千樽に電灯が点灯。	
				12・17	平沼診療所が焼失。	
	9	倉内信用組合設立。	1962	昭和37・1・12	泊の丸木舟が県文化財に指定。	
		平沼信用組合設立。		4・1	県営茶茶沢開拓パイロット事業始まる。	
1910	明治43・2・3	六ヶ所村漁業会設立。		8・6	村公民館報(わかくさ)を創刊。	
1911	明治44・4	中志小学校創立。(平成18年平沼小学校へ統合)		9・25	戦没者慰霊碑除幕式。	
1912	大正元・12・16	泊村郵便局に電信開通。	1963	昭和38・5・15	泊の丸木舟が国の重要有形民俗文化財に指定。	
1914	大正3・1・2	倉内青年会創立。		9・11	野辺地警察署平沼駐在所新庁舎完成。	
1917	大正6・1・25	平沼郵便局が全焼。		30	鷹架・尾駮中学校を統合して、第一中学校創立。	
1920	大正9・5	役場を平沼から尾駮に移転。		12・2	野辺地警察署尾駮駐在所新庁舎完成。	
1921	大正10・3・17	泊大火で159戸が焼失。	1964	昭和39・4・1	村母子健康センター開設。	
1923	大正12・12・28	上北電気が発足。泊に電灯が点灯。		19	倉内の浄土宗東光山常照寺が全焼。	
1926	大正15・2・17	表館牧場が大蔵省に移管。		10・20	泊駐在所新庁舎完成。	
				10・8	泊で大時化により、約2億円の被害。	
	10・18	普選法施行県第一号の村議選が本村で行われる。	1965	昭和40・1・8	県営茶茶沢開拓パイロット事業汐止堰が完成。	
1928	昭和3・5・1	尾駮郵便取扱所開設。		3・24	NHK泊テレビジョン中継所完成。	
1931	昭和6	村勢一覽表が発刊。	1967	昭和42・11	泊保育所開設。	
1932	昭和7・7	泊～白糠(東通村)間の道路開通。	1968	昭和43・10・1		
			1969	昭和44・1・11	白糠(焼山・泊)漁港が第4種漁港(避難港)に指定。	
	11・10	笹原小学校創立。(平成12年千歳平小学校へ統合)		3・20	平沼地区学習等供用センター完成。	
1936	昭和11・11・6	公有財産として1,700町歩を大蔵省から払い下げ。(5万5千円)		31	倉内地区学習等供用センター完成。	
					尾駮地区簡易水道完成。	
	11	県営集団農地の設立が決定し、198町歩を県に寄付。	1970	昭和45・3・20	尾駮診療所開設。	
1938	昭和13・12・13	泊沖でイカ釣り船が遭難。17人が行方不明。		1971	昭和46・3・20	戸鎖簡易水道完成。
1939	昭和14・1・1	泊村郵便局新築落成。		10・10	新納屋開村百年記念碑建立。	
	9・16	平沼郵便局で電信・電話の取扱開始。				
1940	昭和15・4・18	村役場が全焼。				
	10・5	村役場新築落成。				
	11・30	弥栄平小学校創立。(昭和37年上弥栄小学校へ統合)				
1943	昭和18・3・18	泊小学校(小室)から出火し校舎全焼。				
	6・30	泊村郵便局に電話交換台設置。				

1973	昭和48	1・20	泊公民館完成。	1983	昭和58	4・19	六ヶ所ライオンズクラブ設立。		
		5・15	出戸公民館完成。			5・14	第1回六ヶ所春まつりが大石総合運動公園で開催。 (～15日)		
		9・3	泊、集中豪雨のため床上下浸水。			9・30	六ヶ所消防署の新庁舎完成。		
		11・2	新納屋集会所完成。			10・27	種子馬鈴薯低温貯蔵庫完成。		
1974	昭和49	3・31	役場新庁舎完成。	1984	昭和59	1・10	第1回民俗芸能発表会が尾駮小学校講堂で開催。		
		6・1	中志簡易水道完成。			5・30	村民憲章推進協議会の設立総会開催。		
		11・15	野辺地・平内地区消防事務組合野辺地消防署六ヶ所分署設立。			9・13	大石総合運動公園にフィールドアスレチック完成。 (㈱ワタベソーイング青森工場操業開始。		
1975	昭和50	3・19	NHK尾駮、戸鎖両テレビ中継局完成。	1985	昭和60	2・1	広報「ろっかしょ」創刊。		
		25	六ヶ所電報電話局開局。(電話がダイヤル化)			4・1	3	六ヶ所村農業協同組合が尾駮地区に移転。	
		4・1	老部川災害関連工事完成。			15	千歳平10周年記念式典開催。		
		1	県道八戸・むつ線、国道に昇格。(338号)			20	村の物産第1号「ウニようかん」誕生。		
1976	昭和51	7・19	倉内・尾駮両保育所開設。	1986	昭和61	10・26	六ヶ所原燃PRセンターオープン。		
		11・20	平沼地区水泳プール完成。			12・24	(㈱サンライン)泊工場操業開始。		
		8・25	共同ゴミ処理場が完成(2町1村)火火式行われる。			2・13	大石平遺跡から約4千年前の幼児の手形土板大小2種類が出土。手形は日本初。		
		11・30	八森入植20周年記念碑除幕式。			3・15	六原入植30周年記念式典開催。		
1977	昭和52	4・1	千歳平診療所開設。	1987	昭和62	4・1	尾駮診療所・保健相談センター完成。		
		1	千歳平保育所開設。			7・9	役場泊支所が完成。		
		1	千歳平小学校創立。			9・18	中国残留孤児の木村マツ(劉桂琴)さん、49年ぶりに帰郷。		
		1	千歳平污水終末処理場供用開始。			11・19	尾駮浜漁船船だまり完成。		
		5・22	庄内入植30周年記念碑除幕式。			3・30	社団法人六ヶ所村畜産公社設立。		
		8・3	農林水産省上北馬鈴薯原々種農場設立30周年記念式典。			5・22	庄内入植40周年記念式典開催。		
		12	泊中学校のヤマメ養殖が漁民のサケ孵化事業に発展。			6・13	第1回「たのしむべ! フェスティバル」が大石総合運動公園で開催。(～14日)		
1978	昭和53	3・20	千歳地区学習等供用センター完成。	1988	昭和63	6・7	青森宝栄工業(㈱)操業開始。		
		30	尾駮地区漁民研修センター完成。			8・5	第1回六ヶ所村社会福祉大会及び社協法人化10周年記念式典開催。		
		4・1	平沼保育所開設。出戸、二又へき地保育所開設。			9・1	表館遺跡から約1万年前のものと思われる隆起線文土器が出土。		
		8	県立六ヶ所高校創立。			2	村総合振興計画基本構想策定。		
		6・10	都市計画区域を決定告示。			10・29	第1回泊芸能祭開催。		
		7・31	大石総合運動公園陸上競技場及び野球場完成。			12・22	尾駮派出所が移転新築。		
1979	昭和54	2・15	二又小学校、日本教育版画コンクールで最優秀賞受賞。	1989	平成元	4・9	核燃阻止で1万人が六ヶ所村で全国集会を行う。		
		3・20	平沼漁民研修センター完成。			8・27	村制施行百周年記念式典開催。		
		31	大石総合運動公園水泳プール(50m)完成。			10・1	陸奥湾一周駅伝大会・村の部で、4年ぶり3回目の優勝。		
		4・1	戸鎖保育所開設。			12・17	村観光マスコット、キャッチフレーズ決定。		
		5・8	市街化区域、市街化調整区域及び用途区域の決定告示。			1990	平成2	1・27	六ヶ所村農協が野菜販売額10億円達成。
		7・4	千歳平墓地公園完成。					3・20	簡易水道事業を統合し、六ヶ所村上水道事業となる。
		8・27	国営吹越台地開拓建設事業起工。			1991	平成3	2・6	高波で白糠(焼山・泊)漁港の漁船40隻が被害を受ける。
		9・8	鷹架閉村式。300年の歴史を閉じる。					9	尾駮小学校に尾駮みどりの少年団が結成。
1980	昭和55	10・26	弥栄平閉村式。	1992	平成4	3・8	火薬が詰まっていると見られていた泊漁港にある防波堤倒壊跡の岩盤の本格調査を県が開始。		
		2・15	二又小学校、日本教育版画コンクールで学校賞受賞。			22	富ノ沢遺跡から約550軒の日本最大規模の竪穴式住居跡が発見。		
		3・20	尾駮地区学習等供用センター完成。			8・3	村立郷土館がオープン。		
		25	長芋貯蔵施設完成。			19	県南地方で水稲に不稔障害、村が冷害対策本部を設置。		
		4・1	野辺地警察署尾駮駐在所が派出所に昇格。			3・25	村立郷土館隣に「ふれあいの里」が完成。		
		15	千歳平に弥栄平の保食神社と鷹架の正一位稲荷大明神を合祭した千歳平神社が完成。			4・1	長芋焼酎「六趣」が村内の店頭で販売開始。		
		5・30	交通事故ゼロ500日達成。			7・7	泊地区でイカ釣り体験ツアーを本格的に開始。		
1981	昭和56	7・23	むつ小川原港湾起工。	1993	平成5	3・25	「スポーツの村・六ヶ所」を宣言。		
		31	泊漁港覚書協定締結。			10・7	高瀬川河口に「川の一里塚」が完成。		
		10・14	県立六ヶ所高校全校舎完成、落成式典。			15	棚沢防風林造林百周年式典開催。		
		11・3	村民憲章、村の花「ニッコウキスゲ」村の鳥「オジロワシ」村の木「黒松」制定。			18	第1回「湖畔の収穫祭」が中志地区で開催。		
		2・15	二又小学校、日本教育版画コンクールで学校賞受賞。(2年連続)			25	六ヶ所第一中学校サッカー部が全国ジュニアユースサッカー選手権大会の東北代表となる。		
		3・20	アワビ種苗供給センター完成。			12・9	泊中学校の上野千恵子さんが「心の輪を広げる体験作文コンクール」で最優秀賞を受賞し、両陛下の前で朗読。		
		26	大石総合運動公園低学年用プール(25m)完成。			1994	平成6	4・1	倉内地区に小川原湖資料館がオープン。
		4・1	泊第二保育所開設。					4・1	尾駮診療所が入院施設を完備。
		21	都市計画道路決定。			1	七戸町～むつ市間が国道394号に編入。		
		9・30	大石総合運動公園テニスコート完成。			9・15	第1回青森県駅伝競走大会で村の部優勝。		
10・13	総合体育館起工式。	21	郷土館など15の公共施設の合同落成式典開催。						
1982	昭和57	2・20	泊地区漁民研修センター完成。	12・31	富ノ沢遺跡から国内最古のゴマ出土。大量のヒエも出土し、栽培されていた可能性が高まる。				
		3・25	村立酪農会館完成。	1994	平成6	4・22	ヴァーレン市(ドイツ)と友好都市協定を締結。		
		4・1	野辺地・平内地区消防事務組合六ヶ所分署が六ヶ所消防署となる。			6・28	大石総合運動公園の水泳プールに可動式上屋が完成。		
		7・1	泊地区に移転した陸上自衛隊六ヶ所対空射撃場開所式。	8・1	プール開きが行われる。				
		5	アワビ種苗供給センターで中間育成した稚貝1万6千個を初放流。	9・23	新城平地区農業集落排水処理施設供用開始。				
9・10	学校給食センター完成。	9・23	尾駮浜漁船船だまりで「第4回青森県豊かな海づくり」が開催。						
1983	昭和58	18	農林水産省上北馬鈴薯原々種農場が閉場式。	1994	平成6	11・23	白糠(焼山)漁港に日本最長を目指す防波堤壁画の一部が完成。		
		12・3	六ヶ所村海漁協のサケふ化場完成。						
		20	六ヶ所村漁協うなぎ養殖場が完成。						
1983	昭和58	3・18	老人福祉センター完成。	1994	平成6	11・23	白糠(焼山)漁港に日本最長を目指す防波堤壁画の一部が完成。		
		20	六ヶ所村観光協会設立。						

1995	平成7	4	1	特別養護老人ホーム「ぼんてん荘」が開設。	
		1	1	一般廃棄物最終処分場が使用開始。	
		1	1	六ヶ所村農協、東北町農協、馬門農協が合併し、とうほく農協となる。	
1996	平成8	10	1	千歳誕生50周年記念式典開催。	
		11	15	村初の総合防災訓練を実施。	
		12	15	ショッピングモール「REEV(リーブ)」オープン。	
		1	29	村行政改革大綱策定。	
		4	1	倉内・平沼・中志中学校を統合して第二中学校創立。	
1997	平成9	1	1	知的障害者更正施設かけはし寮開設。	
		6	1	二又地区農業集落排水処理施設供用開始。	
		8	1	住民票・印鑑証明書の発行業務コンピュータ化。	
		4	1	村文化交流プラザ「スワニー」開館。	
		5	22	村民図書館開館。	
1998	平成10	7	1	庄内入植50周年記念式典。	
		1	13	村史完成。	
		12	7	第1回下北国際トライアスロン大会開催。	
		4	1	村で初の公共下水道(北部処理区)工事着手。	
		6	1	清掃センター「クリーンペア・はまなす」供用開始。	
1999	平成11	6	1	出戸地区農業集落排水処理施設供用開始。	
		7	1	「第49回青森県植樹祭」が出戸地区で開催。	
		10	28	韓国襄陽郡との交流始まる。	
		4	1	馬門川観光公園オープン。	
		8	1	千樽地区農業集落排水処理施設供用開始。	
2000	平成12	4	1	地域交流ホーム開設。	
		1	1	公立戸鎖保育所、倉内保育所がへき地化。	
		1	1	六ヶ所消防署南分署が完成、業務開始。	
		6	14	村長が韓国襄陽郡を公式訪問。(～16日)	
		2001	平成13	7	28
8	6			戸籍謄・抄本の発行業務コンピュータ化。	
10	10			村戦没者遺族会が戦没者追悼式を村文化交流プラザにて開催。	
10	25			村初となる村内小中学生による模擬議会が村役場議場にて開催。	
11	8			村長選に立候補を表明した2氏による村初となる公開討論会が村文化交流プラザで開催。	
2002	平成14	2	18	倉内の高村キエさんが村初の100歳を迎え、村百歳祝金支給条例の適用第1号となる。	
		4	1	村が村内全世帯と事務所を対象に、国内初のパリアフリー型放射線・行政情報伝達システム(防災テレビ)を整備し、運用開始。	
		1	1	特定環境保全公共下水道(北部処理区)施設一部供用開始。	
		1	1	公共下水道(中部処理区)施設一部供用開始。	
		1	1	戸鎖地区農業集落排水処理施設供用開始。	
2003	平成15	8	5	住民基本台帳ネットワークシステムが一部稼働。	
		4	1	日帰り温泉館「ろっかぽっか」が鷹架地区にオープン。	
		1	1	(社)六ヶ所村農業総合公社業務開始。	
		1	1	村高齢者生活福祉センター開設。	
		7	30	NHKラジオ放送の「夏季巡回ラジオ体操 みんなの体操会六ヶ所大会」が六ヶ所村総合体育館で開かれ、村民約1,000人が参加。	
2004	平成16	8	13	25	村の交通死亡事故ゼロ1,000日達成。
		25	25	住民基本台帳ネットワークシステム稼働。	
		9	6	村体育協会野球部が、第47回高松宮賜杯全日本軟式野球大会二部全国大会出場。	
		1	29	公的個人認証サービス開始。	
		4	1	内子内農山村広場が鷹架地区にオープン。	
2005	平成17	1	1	泊地区イベント広場オープン。	
		1	1	二又小学校校舎を新たに「二又夢はぐ館」とし、地域住民のコミュニティの場として活用。	
		11	22	泊小学校入校式。新校舎での授業開始。	
		12	25	村交通死亡事故ゼロ1,500日達成。	
		3	12	第1回六ヶ所村異文化交流フェア開催。(日本を含め6カ国)	
2006	平成18	4	1	尾駮沼湖畔に野鳥観察公園がオープン。	
		10	24	村シルバー人材センターが発足。	
		11	3	村民憲章が改定。	
		3	1	尾駮浜漁船だまりに水産物荷捌・加工等施設が完成。	
		4	25	六趣醸造工房蔵開き記念式典開催。	
2007	平成19	5	9	村交通死亡事故ゼロ2,000日達成。	
		31	31	内子内農山村広場内に尾駮小・戸鎖小みどりの少年団が森林環境教育の一環でブナを植樹。	
		6	16	青森山海クラブ(綱引き協会・六ヶ所村体育協会所属)が、2006全日本アウトドア綱引き選手権大会で優勝し、オランダで開催された世界アウトドア綱引き選手権に出場。	
		6	11	6	六ヶ所村産の長芋焼酎「六趣」を初醸出し。
		1	27	27	県民駅伝優勝の東北町と六ヶ所村チームが「2007中国瀋陽日中青少年友好駅伝」に出場。

2006	平成18	11	6	6	六ヶ所村産の長芋焼酎「六趣」を初醸出し。		
		2007	平成19	1	27	27	県民駅伝優勝の東北町と六ヶ所村チームが「2007中国瀋陽日中青少年友好駅伝」に出場。
				2	2	2	村内小中学校(廃校を含む21校分)の校歌CD制作。
2008	平成20	3	28	28	白糠(焼山)漁港に新荷捌施設が完成。		
		5	21	21	倉内小学校が耐震不足により閉鎖され、第二中学校で間借り授業開始。		
		7	20	20	尾駮レイクタウン北地区の宅地分譲を開始。		
		9	21	21	交通死亡事故ゼロ2,500日達成。		
		10	25	25	国際交流事業に係る文化教室等の開催及び国際交流促進のためショッピングモールリーブ内に国際交流ラウンジを設置。		
2009	平成21	2	22	22	青森山海クラブが、2008インドア綱引き世界選手権大会に出場。		
		3	11	11	倉内小学校がプレハブの新校舎で授業開始。		
		5	10	10	襄陽郡副郡守一行(20名)が友好交流10周年記念植樹と「たのしむベフェスティバル」に参加するため、舞踏団とともに六ヶ所村を訪問。(～5月12日)		
		6	3	3	経済産業省資源エネルギー庁により、東北地区で初めて「次世代エネルギーパーク」の認定を受ける。		
		28	28	28	村営塾「VILLAGEアカデミー」開講式。		
2010	平成22	7	31	31	小泉蓮君全国少年少女レスリング全国大会優勝。		
		9	3	3	京都インターナショナルスクール青森キャンパス開設。第一中学校3階に開校。(児童数5名)		
		21	21	21	村体育協会野球部が第52回高松宮賜杯一部軟式野球全国大会初出場。		
		3	19	19	南部処理区公共下水道施設一部供用開始。		
		7	3	3	村制施行120周年記念・NHK「ふるさと自慢うた自慢」の公開録音が村文化交流プラザで行われる。		
2011	平成23	12	12	12	村制施行120周年記念「六ヶ所村学力向上推進大会」を村文化交流プラザで開催。		
		10	6	6	友好都市締結15周年を記念し、議長、国際交流課長及びドイツ国際交流員がヴァーレーン市を訪問。		
		11	18	18	村制施行120周年記念式典が村文化交流プラザで開催。		
		3	19	19	国際教育研修センターが竣工。(インターナショナルスクール生徒数7名)		
		4	5	5	泊安在所開所式。		
2012	平成24	8	8	8	泊地区ふれあいセンター開所式。		
		5	10	10	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター六ヶ所村分室開所式。		
		22	22	22	東北初の六ヶ所村次世代エネルギーパーク開業。		
		9	30	30	「第15回全国風サミットinろっかしよ」が村文化交流プラザで開催。		
		11	17	17	交通死亡事故ゼロ10年達成し、翌18日に県知事から表彰される。		
2013	平成25	2	5	5	鷹架字八茶沢で交通死亡事故が発生し、交通死亡事故ゼロ日が3,732日で途切れる。		
		3	11	11	東日本大震災が発生。施設の破損や3日間に渡る村内全域停電などの被害を受ける。また、大震災に伴う大津波により約10数隻の漁船が被害を受ける。		
		28	28	28	県が2008年度の市町村民経済計算を公表。1人当たりの市町村民所得は六ヶ所村が最も高く、1,363万6千円。		
		4	4	4	村が東日本大震災の被害を受けた三沢市・八戸市・おいらせ町に義援金を送る。		
		7	7	7	尾駮小学校新校舎での授業開始。		
2014	平成26	6	22	22	村が東日本大震災の被災者や復旧・復興支援のため東北地方の高速道路無料通行に必要な「被災証明書」を発行。		
		7	1	1	村内全域に整備した光ケーブル・ネットワーク網を活用して「六ヶ所村テレビ」の試験放送を開始。		
		7	7	7	赤石憲二氏(泊漁業協同組合長)が青森県漁業協同組合連合会会長に就任。		
		9	16	16	村体育協会野球部が7月に開催された天皇賜杯第66回全国軟式野球青森県大会で優勝し、全国大会初出場。		
		10	11	11	村と村内企業などの5者は、「災害時における仮設トイレ等の供給に関する協定」、「災害時における六ヶ所村と三八五フーズとの協力に関する協定」及び「災害時における応急対策業務に関する協定」の3つの協定を締結。		

むつ小川原開発・開発の経緯

1968	昭和43・12	通商産業省(以降:通産省)が工業開発の構想試案を発表。
1969	昭和44・2・25	県庁内にむつ小川原開発対策連絡会議を設置。
	5・30	新全国総合開発計画閣議決定。
	8	県企画部開発課、陸奥湾小川原湖地域の開発を発表。
	10・30	東北開発審議会産業振興部会、臨海工業基地分科会設置。(開発方針等検討)
	12・11	陸奥湾小川原湖開発プロジェクト連絡会が発足。(経済企画庁、国の出先機関、民間、県で組織)
1970	昭和45・1	県が東通村の原子力発電用地の買収開始。
	4・1	県が陸奥湾小川原湖開発室を発足。
	9	通産省産業構造審議会産業立地部会、大規模工業基地委員会が設置される。
	20	陸奥湾小川原湖大規模開発促進協議会が発足。(関係16市町村)
	6・1	県が関係16市町村の農漁業団体に開発構想を説明し、協力を要請。
	11・4	県議会全員協議会開催。(情勢報告)
	4	県が開発計画を発表。
	16	県が陸奥湾小川原湖開発室をむつ小川原開発室に改称。
	16	むつ小川原開発調査事務所が三沢市に開設。
1971	昭和46・2・3	村農業委員会が調査した結果、開発反対17%、賛成72%という数字が出る。
	3	寺下村長反対を表明。
	3・22	むつ小川原総合開発会議(10省庁会議)開催。同日設置。
	25	むつ小川原開発株式会社設立。
	31	財団法人青森県むつ小川原開発公社設立。(以降:公社)
	31	県が開発構想及び住民対策大綱案を発表。
	8・14	県が関係市町村長、議長、教育長及び関係団体に住民対策大綱案等を説明、意見を聴取。(～25日)
	25	村議会反対決議。
	27	県議会全員協議会開催。
	28	平沼地区で反対決議。
	31	村主催座談会始まる。(9月まで)
	31	第1回青森県むつ小川原開発審議会開催。
	9・1	平沼期成同盟、泊漁場を守る会などが結成。
	1	村で調査の結果、開発反対77%、賛成13%という数字が出る。
	1	経済企画庁がむつ小川原調査費1億8千万円決定。
	21	村議会が対策費として1千万円を議決。
	28	村長が村議会に開発区域修正案等を説明。
	10・1	鹿島視察始まる。
	15	反対期成同盟結成。
	21	六ヶ所村開発促進青年友好会結成。
	23	県が住民代表に対する住民対策大綱案等説明会を実施。
	27	株式会社むつ小川原総合開発センター設立。
	28	むつ小川原巨大開発学習会開催。
	11・12	自民党による地域懇談会開催。(～14日)
	24	自民党による地域懇談会開催。
	12・5	鹿島視察報告会。
1972	昭和47・1・6	村議会特別委、正副委員長辞職。
	14	村主催座談会開催。(～20日)
	25	県が部落説明会を開催。(～2月1日)
	2・7	むつ小川原総合開発会議開催。
	8	県が住民対策大綱修正案を関係市町村長、議長、教育長、農漁業団体及び商工団体に説明し、意見を聴取。(～9日)
	10	第2回青森県むつ小川原開発審議会開催。
	12	むつ小川原会社と公社の土地買収協定が行われる。
	13	公社、土地価格及び保証基準等発表。
	18	協議会が開催され、第2回鹿島視察が決定。
	25	むつ小川原総合開発会議開催。
	3・1	反対同盟、3,000人の署名運動開始。
	21	村長、議会で反対を表明。
	31	反対同盟、経済企画庁への陳情と公害、法律の学習開催を決定。
	4・3	公社、生活相談所を開設。
	5・25	県がむつ小川原開発第1次基本計画案及び住民対策大綱案を関係市町村長、議長、教育長及び各団体に説明、意見を聴取。

1972	昭和47・6・2	県議会全員協議会開催。
	5	第3回青森県むつ小川原開発審議会開催。
	8	県がむつ小川原開発第1次基本計画案及び住民対策大綱案を決定。
	12	第1次基本計画及び住民対策大綱が内閣総理大臣及び各大臣に提出される。
	28	むつ小川原総合開発会議開催。
	30	反対同盟が抗議行動、白紙撤回を要求。
	9・13	むつ小川原総合開発会議開催。(11省中合せ事項決定)
	14	むつ小川原開発について閣議口頭了解。
	26	「むつ小川原開発に係わる住民対策事業の実施に関する協定書」を県とむつ小川原開発株式会社が調印。
	10・7	県がむつ小川原開発について、閣議了解事項及び住民対策事業実施に関する協定書について、むつ小川原湖大規模工業開発促進協議会に説明。意見聴取。
	11・9	県が開発区域内説明会を開催。(～12日)
	12・4	むつ小川原総合開発会議開催。
	14	東北農政局がむつ小川原開発株式会社に開発区域及び新市街地区域の農地転用事前審査内示書交付。
	21	村議会がむつ小川原開発の推進に関する意見書(14項目)を決議。
	25	用地買収交渉開始。
1973	昭和48・1・3	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が各地区座談会を開催。(～22日)
	2・4	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が各地区座談会を開催。(～23日)
	23	むつ小川原臨時職業相談所開設。
	3・5	村議会住民対策特別委と県知事との懇談会開催。
	27	村農業振興地域整備計画の農用地利用計画を公告、縦覧。(～4月6日)
	4・27	三沢専修職業訓練校六ヶ所分校が開設。
	5・13	村議リコール投票、反対2,649票、賛成2,252票で不成立。
	6・4	村長リコール投票、反対3,002票、賛成2,722票で不成立。
	10・30	新市街地構想について現地説明会開催。(村議会、開発区域内全地区対象～11月2日)
	11・27	農業振興地域指定告示。
1974	昭和49・1・26	村に企画室設立。
	3	港湾計画の基礎調査開始。
	4・4	村長と新納屋新話会が懇談会開催。
	16	村長が開発反対同盟と会見。
	6・3	開発第1号誘致企業田中ニット六ヶ所工場操業。
	15	村議会特別小委、県議自民党むつ小川原特別委、県、公社、会社が懇談会開催。
	7・25	むつ小川原開発農委対策協議会(16市町村)開催。
	8・8	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が視察研修実施。(～9日)
	22	青森県むつ小川原開発審議会開催。
1975	昭和50・1・10	新市街地A地区の建設に関する諸問題の打合せ会を実施。
	6・17	村議会、むつ小川原開発住民対策特別委員会設置。
	12・31	東京重機、青森ミナトファニチャー進出決定。
1976	昭和51・4・1	開発区域内用地買収90%を超える。
	1	公社、事務所を野辺地町に移転。
	1	村・長期事業計画策定。
	6・1	新市街地宅地分譲開始。
	6	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会研修視察。(～10日)
	30	新市街地が「千歳平(ちとせたい)」と命名。
	30	村議会、村当局に漁業補償について基本的考え方が示される。
	8	漁業組合員に港湾計画の説明が行われる。
	8	新市街地A住区が完成。
	10・6	六ヶ所村海水漁協、漁業実態調査に同意。
	11	泊漁協、漁業実態調査に同意。
	12	県が港湾建設区域と管理者を決定。
1977	昭和52・3・19	開発反対同盟が「六ヶ所村を守る会」に名称変更。
	30	むつ小川原港の港湾区域が認可される。
	4・1	県がむつ小川原工事調査事務所設立。
	8・24	第三次全国総合開発計画の国土庁案発表。
	30	むつ小川原開発第二次基本計画の閣議了解。
	9・1	青森ミナトファニチャー操業。
	6	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会、研修視察。(～10日)
	13	むつ小川原港が重要港湾に政令指定。

1977	昭和52	12・2	むつ小川原港湾計画を運輸大臣が承認。	
	1978	昭和53	1・14	県がむつ小川原漁業補償対策会議を設立。
		2・24	県知事が漁業補償要領を決定。	
		3・6	漁業補償対策会議が村内3漁業に漁業補償の基本方針を説明。	
		23	高瀬川水系工事実施基本計画決定。	
		4・19	むつ小川原港実施設計調査の協力料2,750万円に3漁協が調印。	
		28	三沢市及び六ヶ所村に都市計画法政令指定。	
		6・10	県知事が六ヶ所都市計画区域(19,010ha)を決定告示。	
		7・2	河本敏夫通産大臣が大臣として初めてむつ小川原開発現地視察。	
		8・3	むつ小川原開発公社が買取済の地権者に対し土地の明け渡しを通告。	
		18	県が3漁協に対して漁業補償額を提示。	
	10・23	資源エネルギー庁がむつ小川原地区を国家石油備蓄基地建設の調査対象とすることを正式発表。		
12・6	小川原湖総合開発事業に関する基本計画を建設大臣が告示。			
16	県が射爆場移転について、村、村議会及び泊漁協に対して説明。(～17日)			
1979	昭和54	1・17	六ヶ所都市計画市街化区域、市街化調整区域及び用途地域の素案の地区説明会開催。(～18日)	
	17	県と六ヶ所村海水漁協が漁業補償118億円で覚書を交換。		
	30	六ヶ所都市計画市街化区域、市街化調整区域及び用途地域の公聴会開催。		
	3・9	石油公団が国家石油備蓄基地の事前調査報告書を発表。		
	30	県と六ヶ所村漁協が漁業補償15億円で覚書を交換。		
	4・9	千歳平に県むつ小川原開発室六ヶ所分室設置。		
	5・8	県が六ヶ所都市計画市街化区域及び市街化調整区域決定告示。		
	8	村が六ヶ所都市計画用途地域決定告示。		
	25	農地法施行規則に基づき、むつ小川原開発株式会社に対する農林水産大臣指定告示。		
	6・14	県と六ヶ所村海水漁協及び六ヶ所村漁協との間で「漁業補償に関する協定書」調印。		
	26	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が京葉臨海工業地帯を視察。(～30日)		
	7・31	開発区域内の農地明け渡し。		
8・25	第1回都市計画道路素案の地域説明会開催。			
9・6	土光経団連会長がむつ小川原開発現地視察。			
10・1	むつ小川原地区に国家石油備蓄基地の立地が正式決定。(560万kℓ)			
22	元衆議院議員・米内山義一郎氏が「漁業補償は不当」と県知事を相手取り青森地裁に提訴。			
11・12	青森県むつ小川原港建設事務所内に石油公団むつ小川原備蓄事務所開設。			
1980	昭和55	1・25	第2回都市計画道路素案説明会。	
	2・12	県と泊漁協が漁業補償33億円で覚書交換。		
	3・1	日本原燃サービス(株)設立。		
	31	泊漁協漁業補償協定調印。		
	6・10	国家石油備蓄基地が石油コンビナート等災害防止法に基づく石油コンビナート等特別防災区域に指定。		
	10	むつ小川原石油備蓄会社六ヶ所事務所開所。		
	7・1	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が山形県酒田港、宮城県多賀城工業団地を視察。(～5日)		
	8	都市計画公園案の関係者に対する説明会開催。		
	11	都市計画公園案縦覧。(～24日)		
	23	むつ小川原港港湾起工式。		
	8・23	六ヶ所村海水漁協の組合員12人が同漁協を相手取り漁協総会決議の無効確認請求を青森地裁に提訴。		
	9・2	県が都市計画公園決定告示。		
10・17	村及び住民対策特別委員会が都市計画道路の早期決定、着工方について建設省へ陳情。			
11・11	むつ小川原国家石油備蓄基地タンク建設地鎮祭。			
12・3	都市計画街路原案縦覧。(～16日)			
1981	昭和56	3・11	六ヶ所村国土利用計画策定。	
	28	泊漁協4組合員が漁業補償金の差額補償金請求訴訟を起こす。		
	4・21	県及び村が六ヶ所都市計画道路決定告示。		
5・15	県がむつ小川原総合交通対策本部を設置。			

1981	昭和56	6・29	むつ小川原開発六ヶ所村対策協議会が沖縄県と那城市石油備蓄基地(210万kℓ)を視察。(～7月2日)		
	7・17	中継ポンプ場が石油コンビナート等特別防災区域に指定。			
	8・1	9番タンクの本体建設工事起工。			
	7	石油公団が県にむつ小川原第二国家石油備蓄基地建設のための立地可能性調査実施の協力を要請。			
	25	石油公団が立地可能性調査を開始。			
	1982	昭和57	3・3	石油備蓄基地関連の職業相談を中央公民館で実施。(～4日)	
		6・15	泊漁協が陸上自衛隊六ヶ所村空射場の泊地区への移転を承認。		
		1983	昭和58	4・19	加藤国土庁長官がむつ小川原開発地区を視察。
			6・24	県に対し、第二石油備蓄、企業誘致などむつ小川原開発の促進を陳情。	
			8・30	県、村及びむつ小川原石油備蓄(株)の3者による「むつ小川原石油備蓄株式会社六ヶ所事業所の公害防止に関する協定」締結。	
			31	むつ小川原国家石油備蓄基地のタンク12基(A地区)が完成。	
			9・1	むつ小川原港の一部供用開始。	
1			第1回オイルイン開始。		
26			むつ小川原港ケーソン製造に伴う求人説明会開催。		
11・24			県に対し、むつ小川原開発の促進や住民対策の充実を陳情。		
12・24			むつ小川原国家石油備蓄基地で石油漏えい事故発生。49.5kℓの原油が流出。		
1984			昭和59	3・15	県に対し、企業誘致促進などを陳情。
	4・20		電気事業連合会(平岩外四会長)が、知事に北半島太平洋側に原子燃料サイクル施設立地の協力方を要請。		
	5・29		村議会、東海村の再処理工場と人形峠のウラン濃縮施設を視察。(～6月2日)		
	7・27	電気事業連合会(小林庄一郎会長)が、県及び村に対して原子燃料サイクル3施設の立地協力方を要請。			
	8・30	原子燃料サイクル施設対策協議会を設置。			
	9・9	住民約400名が東海村の再処理工場その他を視察。(～10月2日)			
	30	村長が、イギリス、オランダ、スイス、フランスの原子燃料サイクル関連施設を視察。(～10月12日)			
	10・12	稲山経団連会長ら一行が原子燃料サイクル施設の予定地を視察。			
	11・26	県が委嘱した専門家会議が「原子燃料サイクル三事業に係わる安全性は基本的に確立しうる」との報告書を県知事に提出。			
	29	県が村に対し、原子燃料サイクル事業の立地協力要請に対して意見照会。			
	12・5	村と原子燃料サイクル施設対策協議会共催で原子燃料サイクルに係わる説明会を村内6会場で開催。(～8日)			
	27	原子燃料サイクル施設対策協議会の臨時総会37項目の要望を付して、「三施設立地に協力すべきである。」との意見集約。			
1985	昭和60	1・5	原子燃料サイクル施設対策協議会が37項目の要望を付した意見書を村長に提出。		
	16	村議会議員全員協議会において、原子燃料サイクル施設対策協議会がまとめた意見書を了承。			
	17	村長が県知事に対し、村論集約結果として、立地受入れの最終判断を文書で正式に伝える。			
	回答には、対策協議会の37項目の要望を7項目に集約、村としての現段階における要望として付記し、その具体化に努めるよう協力を要請。				
	3・1	日本原燃産業(株)設立。			
	4・9	県議会全員協議会が開催され、安全性の確認と地域振興への協力を条件に立地を受入れることを正式決定。			
	18	県及び村は、原子燃料サイクル三施設の受入れを正式に回答するとともに、日本原燃産業(株)、日本原燃サービス(株)の4者で、電事連を立会人として「原子燃料サイクル施設の立地への協力に関する基本協定」を締結。			
	26	原子燃料サイクル施設立地に伴う、むつ小川原開発計画の修正が閣議口頭了承。			
	6・27	原燃2社、陸域の立地調査に着手。			
	10・26	六ヶ所原燃PRセンターオープン。			

1985	昭和60・12・13	村主催で、フランスから再処理工場関係者を招き「フランス・原子力フォーラム」開催。	1989	平成元・11・18	第18回定例県議会で核燃撤回動議否決。	
1986	昭和61・1・12	村及び村議会が、通産省資源エネルギー庁、科学技術庁(以降：科技庁)、電事連及び原燃2社へ原子燃料サイクル施設に係わる諸対策について陳情。(～15日)	1990	平成2・1・11	村議会が原子燃料サイクル施設促進の請願を採択。	
	6・2	原燃2社の海域調査がスタート。21のポイントへ調査に必要な計測機器を設置。(～3日)		31	六ヶ所げんねん企画(株)設立。	
	8・5	むつ小川原発(株)が、原子燃料サイクル施設用地の造成工事着手に伴う起工式を行う。造成面積は大石地区161.5ha、弥栄平地区173.8haの合わせて335.3ha。		3・17	ウラン濃縮器機搬入反対農業者1,500人集会。	
	20	科技庁が原子力連絡調整官事務所を青森市に開設。		4・3	ウラン濃縮施設への遠心分離機の搬入作業開始。	
	25	村及び村議会が、原子燃料サイクル施設の建設に伴う安全性の確保、電源三法交付金の拡大、地場産業の振興育成などの諸対策について、電事連及び原燃2社に陳情。		9	「核燃白紙撤回を！4・9共同行動」で4,600人が氣勢。	
1987	昭和62・3・27	原子燃料サイクル事業の関連業務を行う、むつ小川原燃興産(株)の創立総会と披露式が中央公民館で開催。		20	県議会総務企画常任委員会で核燃再処理施設撤回を可決。	
	4・1	むつ小川原燃興産(株)設立。		26	低レベル放射性廃棄物物理設の事業に係わる公開ヒアリングが総合体育館で開催。	
	24	日本原燃産業(株)がウラン濃縮施設及び低レベル放射性廃棄物貯蔵施設へ使用済燃料などを搬入する専用道路の建設に着工。		5・13	大島科技庁長官が原子燃料サイクル施設を視察。	
	5・26	日本原燃産業(株)がウラン濃縮工場の事業許可申請を国に提出。		21	倉内酪農協は、通常総会で核燃凍結を決議。	
	6・24	村及び村議会が原子燃料サイクル施設立地に伴う放射線監視センターの村内設置を県に対し陳情。		8・28	誘致企業の(株)永木精機六ヶ所村工場操業開始。	
	7・2	村及び村議会が安全審査や交付金事業の推進を始め、原子燃料サイクル事業に係わる諸対策について科技庁、通産省及び電事連へ陳情。		9・13	遠心分離機第1期搬入が終了。	
	8・21	日本原燃産業(株)から提出されていたウラン濃縮施設と低レベル放射性廃棄物貯蔵施設についての環境保全調査報告書の検討結果を県が発表。		19	日本原燃産業(株)が低レベル放射性廃棄物貯蔵センターの補正申請書を科技庁に提出。	
	9・10	村議会がフランス原子力事情EC5カ国の居住環境を視察。(～21日)		10・24	遠心分離機第2期分の搬入開始。	
	11・18	村と隣接市町村の農業、商工及び漁業の各団体役員を対象に、県が原子燃料サイクル事業に係わる講演会開催。		11・14	むつ小川原港に大型岸壁が完成、供用開始。	
	12・1	発電施設周辺地域整備法の一部改正が行われ、ウラン濃縮施設と低レベル放射性廃棄物貯蔵施設が電源立地促進対策交付金の対象となる。		15	低レベル放射性廃棄物貯蔵センターに事業許可が下りる。	
		61年11月から工事が進められていた原子燃料サイクル用地内を通る県道横浜・六ヶ所線の付替が完成。		30	低レベル放射性廃棄物貯蔵センター建設工事着工。	
1988	昭和63・1・13	伊藤科技庁長官が原子燃料サイクル施設視察。		12・3	(財)環境科学技術研究所設立。	
	23	通産省及び科技庁が原子燃料サイクル施設の地点として尾駈地区を指示し告示。		15	村議会議員全員協議会で、案税協定の骨子案を公表。	
	2・5	むつ小川原地域総合開発促進協議会で(財)むつ小川原産業活性化センターの設立概要案が了承。	1991	平成3・1・11	山梨科技庁長官が原子燃料サイクル施設を視察。	
	4・4	県がウラン濃縮と低レベル放射性廃棄物の2施設分の整備計画案を決定。		3・13	ウラン濃縮施設の安全協定概要案が村議会議員全員協議会で公表。	
	25	六ヶ所原燃警備(株)発足。		5・16	科技庁が高レベル放射性廃棄物貯蔵施設は「安全性に問題ない」と一次審査終了。	
	27	日本原燃産業(株)が低レベル放射性廃棄物貯蔵センター事業許可申請を科技庁に提出。		27	国がウラン濃縮施設に検査合格証を交付。	
	5・24	日本原燃サービス(株)、日本原燃産業(株)の2社と泊漁協が核燃海域調査の協力費として2億1千万で妥結。		31	原子燃料サイクル施設立地に伴う「風評被害認定委員会」発足。	
	8・1	5千トン級岸壁2バース整備鷹架沼内港建設工事着工。		7・25	県、村及び日本原燃産業(株)の間において、ウラン濃縮施設に関する安全協定締結。	
	10	日本原燃産業(株)にウラン濃縮工場の事業許可が下りる。		8・22	架線金具メーカーの大同電機工業が立地調印。	
	9・30	むつ小川原発(株)より、日本原燃サービス397ha、日本原燃産業359haの土地引き渡し完了。		9・20	新「六ヶ所原燃PRセンター」がオープン。	
	10・14	日本原燃産業(株)ウラン濃縮工場着工。		24	県及び村などが参加し、ウラン濃縮施設の事故を想定した初の防災訓練を実施。	
	11・30	再処理工場用地の準備工事(敷地造成工事、専用道路工事、淡水取水設備工事)に着手。		27	ウラン濃縮の原料となるウラン初搬入。	
1989	平成元・1・15	電気設備製作工具メーカーの大阪・(株)永木精機の進出決定。		10・4	ウラン濃縮施設が慣らし運転開始。	
	3・20	(財)むつ小川原地域・産業振興財団設立。		30	原子力安全委員会が、大石総合体育館において、「日本原燃サービス(株)六ヶ所事業所における廃棄物管理事業及び再処理事業に係る公開ヒアリング」を開催。	
	27	青森市に原燃合同本社設置。		11・1	国家石油備蓄基地に原油22万t積み増し。	
	30	日本原燃サービス(株)が再処理事業指定申請及び廃棄物管理事業許可申請を国に提出。		21	むつ小川原発(株)が新会社「むつ小川原ヒタット」を設立。	
	6・4	鎌田吉郎資源エネルギー庁長官が六ヶ所村・東通村を視察。		12・25	国がウラン濃縮施設二期分の検査合格証を交付。	
	8・12	(株)永木精機六ヶ所工場の立地協定調印式。	1992	平成4・1・27	日本原燃(株)が「廃棄物管理事業許可申請書の補正申請書を科技庁に提出。	
	10・27	日本原燃産業(株)が低レベル放射性廃棄物貯蔵センターの補正申請書を科技庁に提出。		30	日本原燃産業(株)がウラン濃縮施設の間年処理能力を1,500トンSWUに増設の事業変更許可申請書を科技庁に提出。	
	11・1	動燃事業団六ヶ所事業所開設。		3・27	ウラン濃縮施設が本格操業開始。	
	18	9電力社長が原子燃料サイクル施設視察。		4・3	高レベル放射性廃棄物貯蔵施設の事業許可が国から下りる。	
				20	低レベル放射性廃棄物専用運搬船「青栄丸」がむつ小川原港にテストのため初入港。	
				5・6	高レベル放射性廃棄物貯蔵施設建設着工。	
				7・1	日本原燃サービスと日本原燃産業を合併し、日本原燃(株)設立。	
				9・21	県、村及び日本原燃(株)の間において、低レベル放射性廃棄物物理設センターに関する安全協定締結。	
				10・30	むつ小川原港からの原子燃料運搬専用道路完成。	
				11・16	日本原燃サービス(株)が、再処理事業指定申請の補正申請書を科学技術庁に提出。	
				17	大同電機工業(株)六ヶ所工場操業開始。	
				12・7	低レベル放射性廃棄物専用運搬船「青栄丸」が低レベル放射性廃棄物初搬入のため、むつ小川原港に接岸。	
				8	低レベル放射性廃棄物物理設センター操業開始。低レベル放射性廃棄物を初搬入。	
				24	原子燃料再処理工場に国が事業許可。	
				1993	平成5・3・31	青森県むつ小川原発(株)が解散。
				4・14	科技庁から原子燃料再処理工場の設計・工事方法に関する許可が下りる。	
				28	原子燃料再処理工場建設着手。	

1993	平成5・5・1 28 6・18 7・12 9・9 16 10・1 11・18	六ヶ所原燃PRセンター別館オープン。		
		環境科学技術研究所が完成。		
		日本原燃株の環境管理センターが完成。		
		ウラン濃縮施設増設分について国が事業許可。		
		ウラン濃縮施設増設分の工事着手。		
		江田科技庁長官が原子燃料サイクル施設を視察。		
		東北トヨクニ機電株六ヶ所工場完成。		
		ウラン濃縮施設から製品ウランが初出荷。		
		1994	平成6・1・17 7・27 10・31 12・26	ウラン濃縮機器株六ヶ所工場完成。
				田中科技庁長官が原子燃料サイクル施設を視察。
				むつ小川原港5万トン岸壁工事着工。
1995	平成7・1・18 30 3・7 17 30 4・26 6・16 10・23	県、村及び日本原燃株の間において、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターに関する安全協定締結。		
		高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターが使用前検査に合格。		
		村が国際熱核融合実験炉「ITER: イーター」(以降・ITER)をむつ小川原開発地域に誘致することを表明。		
		ITER誘致に向け、村内企業や住民による「六ヶ所村核融合研究施設誘致推進会議」が発足。		
		村議会が国際熱核融合実験炉誘致について陳情を採択。		
		村、県などが参加し廃棄物管理施設を対象とした原子力防災訓練を実施。(第4回)		
		高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター操業開始。高レベル放射性廃棄物が初搬入。		
		ITER誘致に向け、県に要望書提出。		
		県がITERのむつ小川原開発地域への誘致を表明。		
		1996	平成8・6・12 9・17	㈱日本原子力産業会議に「R:放射線利用に関わる総合研究施設」の誘致に向け、調査を委託。
				ウラン濃縮工場への原料ウラン海上輸送初搬入。
1997	平成9・3・18 9・8			海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第2回)
		国に原子燃料サイクルの着実な推進を図るため、自治体の理解と協力が不可欠であるとの観点から、「核燃料サイクル協議会」が設置される。		
1998	平成10・3・14 4・1 5・1 7・29 9・7	海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第3回)		
		村が量子科学総合研究機構の立地を目指して「教育・研究機関立地計画室」を設置。		
		原燃マシナリー(株)設立。		
		県、村及び日本原燃株の間において、六ヶ所再処理工場の受け入れ貯蔵施設等で行う燃焼度計測装置の校正試験に用いる使用済燃料の受入れ及び貯蔵に当たっての周辺地域の安全確保及び環境の保全に関する協定を締結。		
		村、県などが参加し使用済燃料受入貯蔵施設を対象とした原子力防災訓練を実施。(第6回)		
1999	平成11・4・15 9・30 11・7	試験用使用済燃料を初搬入。		
		海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第4回)		
		東海村JCOで臨界事故発生。		
2000	平成12・1・21 2・23 6・15 8・4 9・14 15 11・28 12・8 19	東海村JCO事故の説明会が村で開催。		
		液晶産業の一大拠点となる「クリスタルバレイ構想」が持ち上がる。		
		海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第5回)		
		六ヶ所保障措置センター六ヶ所保障措置分析所に使用許可証が交付される。		
		むつ小川原開発(株)が解体され、新たに「新むつ小川原(株)」が創設。		
		エコパワーによる風力発電所建設に同意。		
		トヨタ自動車と白山貿易による花卉栽培工場「トヨタフローリテック」操業。		
		エコパワーによる風力発電所の建設が始まる。		
		米資本イーパワー社が村に液化ガスによる火力発電所建設の構想を発表。		
		国内原子力発電所からの使用済燃料の初搬入。		
		2001	平成13・1・24 2・7 21 22 3・1	国内原子力発電所からの使用済燃料の搬入。(第2回)
国内原子力発電所からの使用済燃料の搬入。(第3回)				
海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第6回)				
県が東京都内で企業を対象に「クリスタルバレイ構想」の説明会開催。				
日本原燃株が県及び村に対し、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの増設に係る安全協定に基づく「事前了解」を申し入れ。				

2001	平成13・3・2 22 28 4・9 20 26 5・15 16 19 22 6・14 7・4 6 9 16 17 26 27 8・1 8 13 20 24 27 9・14 10・19 11・22 12・1	日本原燃株が村議会全員協議会で、高ベータ・ガンマ廃棄物処理の問題を中心に、原子燃料サイクル事業の現状と見直しについて説明。
		村及び村議会がむつ小川原開発の促進を求める要望書を県に提出。
		米資本エンコム社がむつ小川原地域に建設を計画している、液化天然ガス火力発電所の建設、運転に関する基本計画書を県に提出。
		笹川科学技術担当相が原子燃料サイクル施設を視察。
		県知事及び村長が、笹川科学技術担当相に対し、ITERのむつ小川原開発地域への誘致を要請。
		日本原燃株建設中の再処理工場で通水作動試験開始。
		県内初の第34回日本原子力産業会議年次大会が村文化交流プラザで開催。
		むつ小川原工業地域立地企業連絡会が発足。
		会員企業72社が参加し、設立総会開催。
		村内にITERの誘致を目指す六ヶ所熱核融合研究施設誘致推進会議が村文化交流プラザで定時総会を開催。
		経済産業省原子力安全・保安院の佐々木院長が原子燃料サイクル施設を視察。
2002	平成14・1・21 23 2・1 8 17 4・19	県、県議会及び村が、遠山文部科学相及び尾身科学技術担当相へITERのむつ小川原地区への誘致を要請。
		日本原燃株が低レベル放射性廃棄物のうち、比較的放射能レベルの高い廃棄物を埋設する次期埋設事業について、村議会議員全員協議会で説明。
		日本原燃株が高ベータ・ガンマ廃棄物埋設施設の建設に向けた予備調査を同社敷地内で開始。
		原子燃料サイクル施設における事故対応の拠点となる、応急対策拠点施設(オフサイトセンター)「原子力防災研究プラザ」が尾設地区に完成し、関係者に公開される。
		県の「クリスタルバレイ構想」立地企業第1号のエーアイエス(株)が液晶カラーフィルター製造工場の操業開始。
		尾身科学技術担当相が県と村が六ヶ所村に誘致しているITERの建設候補予定地を視察。
		県、村、むつ小川原産業活性化センター及び県ITER誘致推進会議が、福田内閣官房長官及び原子力委員会委員らにITERの建設候補予定地選定を要請。
		村議会が全員協議会で、県と村が目指すむつ小川原地域へのITER誘致を了承。
		県が文部科学省へむつ小川原地域へのITER誘致希望提案書を正式に提出。
		平沼経済産業相が県と村がむつ小川原地域へ誘致しているITERの建設候補予定地を視察。
		県主催の「ITER誘致講演会」が村文化交流プラザで開催。
文部科学省のITERサイト適地調査専門家がITER建設候補予定地を視察。		
内閣府総合科学技術会議(議長・小泉純一郎首相)の議員がITER建設候補予定地を視察。		
日本原燃株が県及び村に対し、ウラン・プルトニウム混合酸化物(以降・MOX)燃料加工工場の立地協力を要請。		
県と村がむつ小川原地域へ立地を目指す量子科学研究機構の内容について、県内外の学識経験者による「放射光施設整備検討委員会」が青森市で第1回会合を開催。		
日本原燃株がMOX燃料工場の計画概要について村議会全員協議会で説明。		
経団連むつ小川原開発推進委員会と新むつ小川原(株)の株主がむつ小川原工業地域を視察。		
エコパワーがむつ小川原開発地域に建設を進めていた風力発電機9基が完成。		
むつ小川原石油備蓄株が本社を村内同事業所へ移転。		
エコパワーがむつ小川原開発地域に建設した試験運転中の風力発電機9号機から出火。		
海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第7回)		
再処理施設使用済燃料受入・貯蔵施設内のPWR燃料貯蔵プールから、プール水の漏えいが発生。		
原子力防災研究プラザが、経済産業省からオフサイトセンターの指定を受ける。		
経済産業省資源エネルギー庁がMOX燃料加工工場について村文化交流プラザで説明会開催。		
県のMOX安全性・チェック検討会がMOX燃料加工工場の安全性に係る報告書を村議会議員全員協議会で説明。		

2002	平成14・4・19	日本風力開発(株)が、二又地区に計画している国内最大級の風力発電所(風車の郷)事業について村議会議員全員協議会で説明し、村議会が事業推進を容認。	2005	平成17・2・22	県が、MOX燃料加工工場の安全性・チェック検討会による審査結果の住民説明会を村文化交流プラザで開催。	2006	平成18・2・25	県が、アクティブ試験に関する県民説明会を村文化交流プラザにて開催。
		5・2 エコ・パワーが発電施設1基を焼いた火災事故の原因調査結果を村に報告、陳謝。			3・2 村が、MOX燃料加工施設に係る安全性チェック・検討会の検討結果の説明会を村内6地区で開催。(～4日)			
		8 県がMOX燃料加工工場の安全性・チェック検討会による審査結果の住民説明会を村文化交流プラザで開催。			18 原子燃料サイクル施設対策協議会が、MOX燃料加工施設に係る立地協力要請の受入れについて提言。			
		29 内閣府総合科学技術会議がITERの国内建設候補地に六ヶ所村を選定。			4・19 村がMOX燃料加工施設に係る村議会議員全員協議会を開催。			
		31 政府が六ヶ所村をITERの国内建設候補地とすることを閣議了解。			19 県、村及び日本原燃(株)との間において、「MOX燃料加工施設の立地への協力に関する基本協定」を締結。			
		6・1 県が、庁内に「ITER誘致推進本部」を発足。同時に「ITER誘致推進室」を新設。			20 日本原燃(株)は、MOX燃料加工施設に係る事業許可申請を原子力安全・保安院に提出。			
		4 政府がフランスで開催の公式政府間協定で、六ヶ所村へのITER建設誘致を正式表明。			20 海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第10回)			
		10 村が企画開発課内に「ITER誘致推進対策室」を設置。			6・28 ITER本体の建設地がフランスのカダラッシュに決定。			
		19 県の「クリスタルバレイ構想検討委員会」が青森市内で開催され、むつ小川原地域で導入を目指す「環境・エネルギー産業創造特区」構想の概要を示す。			11・18 県が、ウラン試験中間報告書及び原子力安全・保安院の評価についての県民説明会を村文化交流プラザにて開催。			
		7・18 日本原燃(株)が「高ベータ・ガンマ廃棄物」を処分する次期埋設事業予定地の予備調査結果を村議会議員協議会に報告。			2006 平成18・2・25			3・14 村が、アクティブ試験に関する説明会を村内5地区で開催。(～18日)
		23 県がITER建設候補地の村内新納屋、弥栄平、沖付の3地点で地質調査開始。			21 二階経済産業大臣が再処理工場を視察。			24 海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される(第11回)。
		10・22 村は日本原燃(株)が計画する次期埋設施設について、本格調査を了解。			29 県、村及び日本原燃(株)の間において再処理工場における使用済燃料の受入れ及び貯蔵並びにアクティブ試験に伴う使用済燃料等の取扱いに当たっての周辺地域の安全確保及び環境保全に関する安全協定締結。			30 文部科学省が、原子力防災研究プラザに六ヶ所村保障措置分析所に係る原子力防災専門官事務室を開設するとともに、同プラザをオフサイトセンターに指定。
		29 ITERの第6回政府間協定が村文化交流プラザで開催。			31 日本原燃(株)が再処理工場においてアクティブ試験を開始。			4・14 文部科学省が、原子力防災研究プラザ内に原子力専門官事務室を設置。
		11・1 日本原燃(株)が建設中の使用済核燃料再処理工場で機器や設備の不具合を調べる化学試験開始。			29 県のクリスタルバレイ構想立地企業第2号の東北デバイス(株)竣工式。			7・28 県及び村が、再処理工場における臨界事故を想定した原子力防災訓練を実施。
		13 日本原燃(株)が「高ベータ・ガンマ廃棄物」を処分する次期埋設事業予定地の本格調査を開始。			8・12 日本原燃(株)が再処理工場アクティブ試験第2ステップ開始。			9・8 日本原燃(株)が「次期埋設本格調査結果」について、村議会議員全員協議会で説明。
12・1 再処理工場の核査察を主な目的とした、(株)六ヶ所保障措置センターが完成。業務開始。	9・8 日本原燃(株)が「次期埋設本格調査結果」について、村議会議員全員協議会で説明。	10・17 日本原燃(株)及び電気事業連合会が、県及び村に対し、フランスから返還される低レベル廃棄物を一時貯蔵する建屋の建設及びイギリスから低レベル廃棄物と交換して返還される高レベル廃棄物を既設の高レベル放射性廃棄物貯蔵建屋にて一時貯蔵する計画、並びに今後の再処理施設の操業に必要な施設の増設等に係る要請。国際熱核融合実験炉(ITER)関連研究施設の建設地が村の鷹架沼北側に正式決定。						
2003	平成15・1・1	日本原燃(株)が本社を村に移転。	12・14 県及び村が、再処理工場の増設を了解。					
4・1 県が原子力施設の監視強化を図るため、千歳平に原子力センターを開設。		2007 平成19・1・29	1・29 日本原燃(株)が再処理工場アクティブ試験第3ステップ開始。					
5・19 経済産業省資源エネルギー庁が尾駈に青森原子力産業立地調整官事務所を設置。		2・5 日欧がITER関連施設のBA協定に調印。	3・28 海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第12回)(仏から最後の返還)					
23 環境・エネルギー産業創造特区にむつ小川原地域16市町村と八戸市が認定。		5・14 県が新むつ小川原開発基本計画を策定。	17 新むつ小川原(株)が国際核融合エネルギー研究センター等の建設に向けた土地造成工事に着手。					
6・6 (株)ジェイテック設立。		28 核融合科学研究所シュミレーション部六ヶ所研究センター開設。	6・1 幅広いアプローチ(BA)協定が発効。					
7・24 海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第8回)		6・1 幅広いアプローチ(BA)協定が発効。	22 新むつ小川原開発基本計画について閣議口頭了解。					
8・8 原子力安全・保安院が、日本原燃(株)におけるプール水漏れ問題や多数の不適切な施工工事等に対する品質保証体制について、適切に点検計画を指導していくことを目的として、「六ヶ所再処理施設総点検に関する検討会」を設置。		7・3 国際核融合エネルギー研究センター開所式(仮事務所尾駈MOビル)。	8・31 日本原燃(株)が再処理工場アクティブ試験第4ステップ開始。					
10・28 村、県などが参加し再処理施設を対象とした原子力防災訓練を実施。(第11回)		9・6 原子力安全委員会がプルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料加工施設に係る公開ヒアリングを村文化交流プラザで開催。	10・24 ITER協定発効。日本原子力研究開発機構を国内機関に指定。					
2004		平成16・3・4	海外からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第9回)	2005	平成17・1・17	日本風力開発(株)二又地区に風力発電機20基完成。		
27 中川経済産業大臣が再処理工場を視察。			4・28 県及び村が、国が燃料貯蔵施設の健全性を評価したことや国と日本原燃(株)から安全確保や信頼回復に向けた取り組みを確認できたとして、使用済核燃料搬入の再開を容認。					
4・28 県及び村が、国が燃料貯蔵施設の健全性を評価したことや国と日本原燃(株)から安全確保や信頼回復に向けた取り組みを確認できたとして、使用済核燃料搬入の再開を容認。			5・26 日本風力開発(株)二又地区に風力発電機20基完成。					
5・26 日本風力開発(株)二又地区に風力発電機20基完成。			6・3 日本原燃(株)が、使用済燃料受入を再開。					
6・3 日本原燃(株)が、使用済燃料受入を再開。			7・23 村がウラン試験に係る安全協定素案の説明会を開催。					
7・23 村がウラン試験に係る安全協定素案の説明会を開催。			26 県が、ウラン試験に関する県民説明会を村文化交流プラザにて開催。					
11・22 県、村及び日本原燃(株)との間において、六ヶ所再処理工場における使用済燃料の受入れ及び貯蔵並びにウラン試験に伴うウランの取扱いに当たっての周辺地域の安全確保及び環境保全に関する安全協定締結。			11・22 県、村及び日本原燃(株)との間において、六ヶ所再処理工場における使用済燃料の受入れ及び貯蔵並びにウラン試験に伴うウランの取扱いに当たっての周辺地域の安全確保及び環境保全に関する安全協定締結。					
12・14 文部科学省が、六ヶ所保障措置センター内に六ヶ所原子力安全管理事務所を開設。	20 六ヶ所保障措置分析所が運用開始。							
20 六ヶ所保障措置分析所が運用開始。	21 日本原燃(株)が、ウラン試験用の劣化ウランを初搬入。							
21 日本原燃(株)が、ウラン試験用の劣化ウランを初搬入。	2005 平成17・1・17		日本原燃(株)が、再処理工場においてウラン試験を開始。県が、MOX燃料加工施設に係る安全性チェック・検討会を村文化交流プラザにて開催。					

2007	平成19・10・24	法令に基づき国が計画を作成し、地方公共団体、原子力事業者等が連携して行う原子力総合防災訓練が、再処理工場を対象として実施。(第15回)
2008	平成20・2・14 25	日本原燃(株)がアクティブ試験第5ステップ開始。県がアクティブ試験に関する県民説明会を村文化交流プラザにて開催。
	3・14	村がアクティブ試験に関する説明会を村内5地区で開催。(～18日)
	29	県、村及び日本原燃(株)の間において、六ヶ所再処理工場における使用済燃料の受入れ及び貯蔵並びにアクティブ試験に伴う使用済燃料等の取扱いに当たっての周辺地域の安全確保及び環境保全に関する安全協定締結。
	4・12	フランスのフィヨン首相が再処理工場と関連施設を視察。
	5・21 28	国際核融合エネルギー研究センターの建設工事着工。泊漁業協同組合と東北電力(株)及び東京電力(株)が東通原子力発電所建設計画の変更に伴う漁業補償協定を締結。
2009	平成21・4・10	二又風力発電所(1500KW*34基 蓄電池併設型)性能確認運転開始。 MOX燃料加工施設の準備工事開始。 国際核融合エネルギー研究センター管理研究棟完成記念式典。
	12・1	むつ小川原原燃興産(株)社屋完成に伴い移転。
	2010	平成22・3・1
2		電気事業連合会及び日本原燃(株)が、県及び村に対し、フランスから返還される低レベル放射性廃棄物及びイギリスから単一返還される高レベル放射性廃棄物の六ヶ所村における一時貯蔵計画について、理解、協力を要請。
6		経済産業大臣が来村し、村に対して海外返還廃棄物について、受入れ及び一時貯蔵を要請。
9		海外(英国)からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第13回)
4・15		県が、海外返還廃棄物の受入れに係る安全性チェック検討委員会を村文化交流プラザで開催。
27		国際核融合エネルギー研究センター完成記念式典。
5・13		経済産業大臣が日本原燃(株)に対し、MOX燃料加工施設の事業許可。
7・23		県が海外返還廃棄物の受入れに関する県民説明会を村文化交流プラザで開催。
29		山村修検討会主査が、海外返還廃棄物受入れに係る安全性チェック・検討結果について、村議会議員全員協議会で説明。
8・17		村長が海外返還廃棄物の受入れ表明。翌18日に県知事に受入れ容認を伝える。
19		県知事が海外返還廃棄物の受入れ表明。
26		二又風力発電所竣工式。
9・13		村議会が、核燃料税の地元配分や原子燃料サイクル施設周辺の県道整備を県知事に求める意見書を全会一致で可決し、同日、県知事に対して直接提出。
2011	平成23・3・4	村議会が、原子燃料サイクルに見合った電源立地地域対策交付金の法制化や施設周辺の国道整備を国に求める意見書を全会一致で可決。翌日、村長、議長及び副議長が経済産業大臣に対して、意見書を直接提出。
	30	OLED青森(株)が東北デバイス(株)より事業譲渡される。
	10・28	MOX燃料加工施設の工事着工。
	22	県知事が県議会において、県が策定したクリスタルパレイ構想についての検証結果を報告。「クリスタルパレイ構想は、この10年を区切りとし、期間満了となる、と述べ、2001年から始まった同構想を終える考えを示す。
	22	財団法人21あおもり産業総合支援センターと相和物産(株)が、「オーダーメイド型貸し工場」の使用について覚書を交わす。
	4・25	日本原燃(株)の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター増設分完成。(1,440本分)
	5・1	経済産業省原子力安全・保安院が、日本原燃(株)に対し、緊急安全対策を実施するよう指示。
6・6	下北半島7市町村長が、むつ市役所において原子力防災について協議し、「原子力発電所に係る関係市町村連絡会議」を設置。	
7	県内原子力施設の安全性を検証・評価する「県原子力安全対策検証委員会」が発足。	

2011	平成23・6・15	経済産業省が再処理工場で過酷事故(シビアアクシデント)が発生した場合の対応を取りまとめるよう、日本原燃(株)に指示。
	23	経済産業省原子力安全・保安院が日本原燃(株)の過酷事故(シビアアクシデント)対策を確認するため、再処理工場の立ち入り検査を実施。
	7・11	東京電力(株)福島第1原子力発電所事故を受けて、県内の原子力施設で実施された緊急安全対策についての県民説明会が青森市及び六ヶ所村等で開催。(～14日)
	8・26	太陽光、風力発電などの普及を促す「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」成立。
	9・5	村長が村議会9月定例会において、国のエネルギー政策の見直しを巡り、「核燃料サイクル政策を着実に推進することを国に求めたい」と一般質問で答える。
	7	むつ小川原エネルギー対策特別委員会が、核燃料サイクル政策の着実な推進を求める要望活動を村と共に行うことを採決。
	9	村議会が、国と県に原子燃料サイクル事業の推進を求める意見書を全会一致で可決。
	13	村商工会などが村長に原子燃料サイクル事業の継続を国や県に求めるよう要望書提出。
	15	海外(英国)からの高レベル放射性廃棄物が搬入される。(第14回)
	10・18	原子力発電所に係る関係7市町村長が県知事に社会基盤の整備促進等についての要望書を提出。
	26	村長及び村議会が、国の近藤駿介原子力委員会委員長及び高原一郎経済産業省資源エネルギー庁長官に核燃料サイクル政策の堅持を求める要望書提出。
	11・10	県原子力安全対策検証委員会が県知事へ「各事業所が実施した緊急安全対策を妥当とする報告書」を提出。
	30	21あおもり産業総合支援センターが、(株)ANOVA(アノヴァ)と貸し工場のリース契約を締結。
2012	平成24・1・10	(株)ANOVA(アノヴァ)が操業開始。
	5	日本原燃(株)が、村議会議員全員協議会で県原子力安全対策検証委員会の提言を踏まえた六ヶ所村再処理工場の安全対策について説明。協議会では、安全対策に対する異論はなく、早期の試験再開を求めた。
	21	むつ、大間、東通、六ヶ所の4市町村長及び議長が、経済産業省などに対し、核燃料サイクルを含む原子力政策を堅持し、原発の建設や原子力関連事業を着実に推進するよう要望。
	26	県知事が東京電力(株)福島第1原子力発電所の事故を踏まえた県内原子力施設の緊急安全対策を了承。
	28	日本原燃(株)がウラン濃縮工場に導入した新型遠心分離機の運転を開始。
2・1	日本原燃(株)が再処理工場の試験運転に向け、高レベル放射性廃液をガラスに溶かし込む溶融炉の熱上げ作業に着手。	
		下北半島地域の防災力強化等のため、8市町村及び防災関係機関で組織する「下北半島防災連絡会議」を設置。

官公署等(国)

陸上自衛隊 六ヶ所対空射撃管理隊	0175-77-2577
経済産業省資源エネルギー庁 青森原子力産業立地 調整官事務所六ヶ所連絡室	0175-71-0555
経済産業省原子力安全・保安院 六ヶ所原子力保安検査官事務所	0175-72-3520
文部科学省 六ヶ所原子力安全管理事務所	0175-72-2116
文部科学省 六ヶ所保障措置センター	0175-72-3010
財団法人 核物質管理センター 六ヶ所保障措置センター	0175-71-0460
財団法人 環境科学技術研究所	0175-71-1200
財団法人 原子力安全技術センター 防災技術センター	0175-71-1185
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 むつ小川原国家石油備蓄基地事務所	0175-73-3611
独立行政法人 日本原子力研究開発機構 青森研究開発センター	0175-71-6500
独立行政法人 原子力安全基盤機構 核燃料サイクル施設検査本部	0175-71-0881

官公署等(県)

野辺地警察署尾駮交番	0175-72-2110
野辺地警察署平沼駐在所	0175-75-2110
野辺地警察署千歳平駐在所	0175-74-3110
青森県エネルギー総合対策局 ITER支援室六ヶ所村駐在	0175-72-1071
青森県むつ小川原港管理所	0175-74-2344
青森県原子力センター	0175-74-2251
青森県環境保健センター 六ヶ所放射線監視局	0175-74-2251
六ヶ所村酪農振興センター	0175-75-3059

官公署等(村)

六ヶ所村役場	0175-72-2111
六ヶ所村役場泊支所	0175-77-2004
六ヶ所村役場平沼支所	0175-75-2111
六ヶ所村種苗供給センター	0175-77-3644
六ヶ所村学校給食センター	0175-72-2675
六ヶ所消防署	0175-72-2301
六ヶ所消防署北分署	0175-77-3525
六ヶ所消防署南分署	0175-75-2000

学校関係・幼稚園

レイクタウン幼稚園	0175-71-1133
泊小学校	0175-77-3014

交通アクセス

●車 六ヶ所～青森 1時間40分 六ヶ所～野辺地 40分 六ヶ所～むつ 60分 六ヶ所～三沢 50分 六ヶ所～八戸 1時間30分 六ヶ所～七戸 1時間20分	●バス 六ヶ所～野辺地 60分 六ヶ所(平沼)～三沢 60分 ●東北自動車道 八戸～仙台 3時間30分 八戸～盛岡 1時間30分 ●電車 野辺地～八戸 44分 野辺地～青森 43分	●東北新幹線 八戸～東京 3時間 八戸～仙台 1時間30分 七戸十和田～東京 3時間20分 七戸十和田～仙台 1時間40分 ●飛行機 青森～札幌、青森～東京 青森～大阪、青森～ソウル 三沢～東京、三沢～大阪
---	---	---

尾駮小学校	0175-72-2016
千歳平小学校	0175-74-2161
平沼小学校	0175-75-2012
倉内小学校	0175-75-2115
泊中学校	0175-77-2033
第一中学校	0175-72-2040
第二中学校	0175-75-3141
千歳中学校	0175-74-2166
青森県立六ヶ所高等学校	0175-74-2304
東北大学サイクロトロン・RIセンター六ヶ所村分室	0175-72-4228

医療・福祉施設

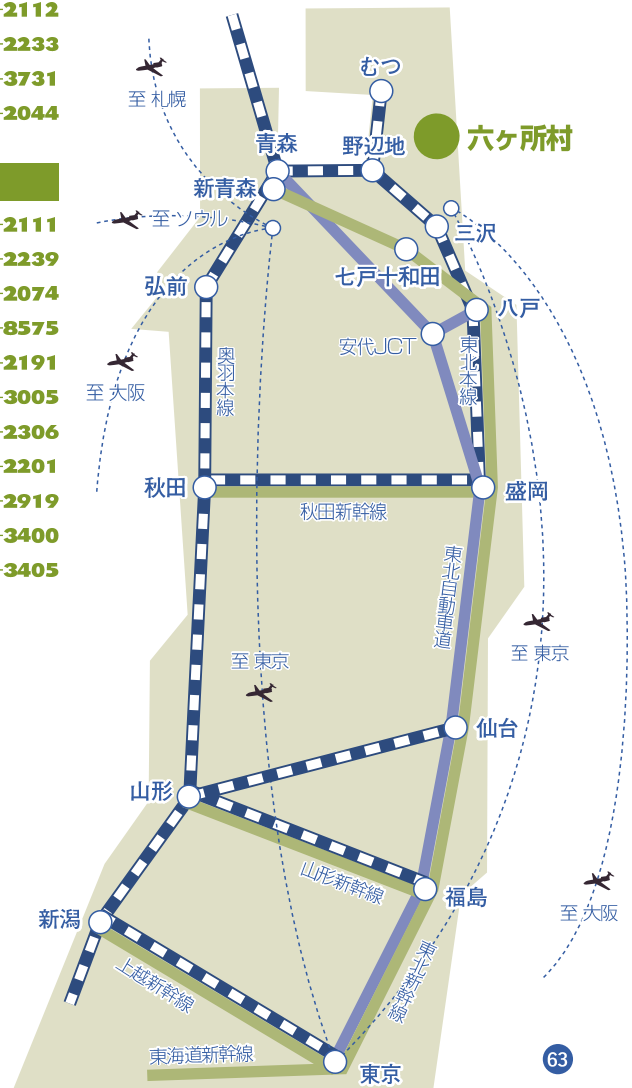
尾駮診療所	0175-72-2791
千歳平診療所	0175-74-2301
泊診療所	0175-77-2030
げんねん診療所	0175-72-2388
六ヶ所村保健相談センター	0175-72-2793
六ヶ所村老人福祉センター (六ヶ所村社会福祉協議会)	0175-75-3000
高齢者生活福祉センター (たもぎディサービス)	0175-71-3311
六ヶ所村地域交流ホーム	0175-72-3455
社会福祉法人松緑福祉会 特別養護老人ホームぼんてん荘	0175-72-3886
社会福祉法人松緑福祉会 知的障害者支援施設かけはし寮	0175-72-4700
泊保育所	0175-77-2128
泊第二保育所	0175-77-3642
尾駮保育所	0175-72-2302
平沼保育所	0175-75-2112
千歳平保育所	0175-74-2233
戸鎖へき地保育所	0175-74-3731
倉内へき地保育所	0175-75-2044

教育・文化・運動施設、公園等

六ヶ所村立中央公民館	0175-72-2111
泊地区ふれあいセンター	0175-77-2239
六ヶ所村立千歳平地区公民館	0175-74-2074
国際教育研修センター	0175-73-8575
大石総合運動公園 総合体育館	0175-72-2191
六ヶ所村千歳平地区体育館	0175-74-3005
六ヶ所村立郷土館	0175-72-2306
ふれあい笹原館	0175-74-2201
二又夢はく館	0175-72-2919
文化交流プラザ「スワニー」	0175-72-3400
六ヶ所村民図書館	0175-72-3405

その他

ゆうき青森農業協同組合 六ヶ所支所	0175-75-2001
(社)六ヶ所村農業総合公社	0175-72-3410
六ヶ所村酪農会館	0175-74-2628
泊漁業協同組合	0175-77-3121
六ヶ所村海産水産協同組合	0175-72-2314
六ヶ所村漁業協同組合	0175-75-2020
六ヶ所村まちづくり協議会	0175-72-2121
六ヶ所村商工会	0175-72-2331
六ヶ所村観光協会 (役場商工観光課内)	0175-72-2111
六ヶ所商工事業協同組合	0175-72-3038
(株)青森銀行六ヶ所支店	0175-72-2304
(株)みちのく銀行六ヶ所支店	0175-72-2231
青森県信用組合六ヶ所支店	0175-72-2234
むつ小川原石油備蓄株 六ヶ所事業所	0175-73-3111
日本原燃株	0175-71-2000
六ヶ所げんねん企画株 六ヶ所原燃PRセンター	0175-72-3101
スパハウスろっかぽっか	0175-69-1126
六ヶ所地域振興開発株 リーブ	0175-72-3061
六趣醸造工房	0175-71-3335
泊郵便局	0175-77-2050
六ヶ所郵便局	0175-72-2050
平沼郵便局	0175-75-2050
倉内簡易郵便局	0175-74-3300





2012 Re:FUTURE

より輝く未来へ

2012 六ヶ所村勢要覧

発行／六ヶ所村

〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駸字野附475番地

TEL.0175-72-2111(代)

編集／六ヶ所村 企画・防災部門 企画調整課

制作／協同印刷工業株式会社